



文献・碑文資料による近世紅河下部デルタ開拓史研究

[研究課題番号 17401021]

平成17－19年度科学研究費補助金（基盤研究（B））

研究成果報告書



平成20（2008）年3月

研究代表者 八尾 隆生  
(広島大学大学院文学研究科准教授)

## 序

第二次大戦後の日本におけるヴェトナム研究は政治学とならんで歴史学が主導していたと言っても過言ではない。しかも、他の東南アジア各国の歴史研究が圧倒的に近現代に集中していたのに対して、豊富な編纂史料を有するヴェトナムでは前近代史研究もさかんにおこなわれてきた。その中でも異彩をはなっていたのが今科研の研究分担者である桜井由躬雄の紅河デルタ開拓史研究である。

氏は編纂史料と大縮尺地図（1/50,000）を用い、農学的、地理学的理論を応用してデルタ開拓史の解明につとめ、多くの後学者を魅了してきた。しかしデルタ開拓等が必ずしも自然科学的要因だけでは説明できないことを、我々は12年続けたナムディン省ヴバン県バッコック村の研究で実感したのである。同村研究では、村内でのさまざまな人的結合やネットワークが人々の行動に影響を与えること、従来閉鎖的と考えられてきた村社会、一族社会を超える、より広範なネットワークが存在することが村方文書の分析や聞き取り調査などで明らかとなった。

本科研は上記の科研研究をふまえ、紅河下部デルタの4省（ニンビン、ハナム、ナムディン、タイビン省）の開拓史、時代としては開拓の本格化する13世紀あたりから20世紀初頭を、文字史料（村方文書、碑文、土地台帳等）を主に行うというものであった。ただ対象地区は広いので、本科研では各省をいくつかのサブエリアにわけて、その中で比較的史料の豊富なことが知られている村落を優先的に選んで調査し、開拓開始の時期、開拓者組織の形態や故地、開拓形態、開拓に関わる人的・技術的交流、村落結合と一族結合の相克もしくは補完関係、村落成立後の中央政権側による新村認定の過程、各時代における開拓最前線などを究明の対象とした。

平成17年度はニンビン省に属する5つの県で現地調査、史料調査を行った。

ザヴィエン県ザフォン社、ザヴァン社、ホアル県ニンホア社、チャンアン社には10世紀の歴史上の人物丁部領と阮匄に関する遺跡や子孫も残っている。両県では主にそうした遺跡（祠堂、殿）などを訪問し、残存する史料の現状について調査を行った。

イエンモ県イエンミ社、イエンカイン県カインマウ社にはニンビン省の西から両県を東西に横切る「洪徳堤」（15世紀）に関する史料が両社に多く残っていることが先行研究で知られていた。そこで、堤防完成によって成立した新村開拓者子孫の家を訪問し、新村設立、田地開拓、官との折衝その他に関する史料（文献及び碑文等）の調査を行った。

キムソン県は19世紀に勅命を受けた阮公著による開拓により成立した県で、多くの先行研究があるにもかかわらず、日本には一次史料が皆無に近かった。本調査ではクアンティエン、フンティエン、キムチン、ドンフォン4社を2日で駆け回り、ムラの成立史史料とも言える「社誌」や阮公著に従った開拓者集団の家譜を多く収集した。

18度は紅河下流のハナム・ナムディン両省に属する5つの県で現地調査、史料調査を行った。

ハナム省リニャン県では11-13世紀の李朝の離宮遺跡の残るラムカウ村で李朝期の開拓

史料を収集し、碑文などの撮影を行った。ビンルク県では3つの村を訪問し、陳朝期（13-14世紀）王族の「田庄」、黎朝初期（15世紀）の「屯田所」、功臣の開設した「庄塞」関連の文書史料及び碑文史料を収集する一方、戦争捕虜を労働力として使役したという口伝に関し、ヒアリング調査を行った。ミロク県では陳朝の本拠地での王族に関する史料収集を行い、イエン県ではやはり陳朝王族の「田庄」「采邑」の存在した村を複数回って同様の史料収集を行った。

ギアファン県（すぐ西は17年度調査したニンビン省イエンカイン県、東は多くの研究のあるナムディン省ハイハウ県）では15世紀の沿海地帯開拓史で有名な「洪徳堤」の調査を行うべく、南北に長い同県を海側から北上する形で数村の調査を行った。ところが開拓の歴史がかなり新しい上に、カトリックの影響で伝統的な遺跡や史料（家譜や社誌等）がほとんど破壊されて残っておらず、満足な調査結果は得られなかった。

最終年度にあたる17年度は紅河下流のタイビン省に属する3県で史料収集調査を行った。クインコイ県内では13-15世紀の陳朝の離宮遺跡や抗モンゴル戦の英雄である陳興道の「采邑」などが多く残るアンケ、アンドン、アンヒエップ、アンバイ村等で主に陳朝期の開拓史料を収集し、碑文などの撮影も行った。特にアンケ村では陳朝期の開拓にまつわる説話を集めた文書が出てきており、同県の開拓史研究には大きな期待が持てる。

タイトゥイ県は海岸線に位置するが人の居住の歴史は古く、10世紀以前の口承史料も多く残る。同県トゥイルオン村には15世紀の碑文が残されており、タイフク、タイソン村では15世紀の科挙官僚郭氏一族の家譜史料を大量に収集した。

ドンフン県ではドンリン、ドンミ、ドンラ村などに調査に行き、古くは陳朝期から黎朝後期にかけての開拓史関連史料（国家史跡指定されている寺院の開創に関する史料や、名族の家譜史料など）を収集し、同省の北半分の開拓がやはり阮朝期以前にさかのぼることを再確認した。

本科研は資料の調査・収集を第一目的としたため、残念ながらそれらの分析及びそれに基づく論文発表はいまだ十分に行われていない。そこで本報告書では得られた資料の概要を第Ⅰ部の調査フィールドノートで明らかにし、その資料分析・活用法について第Ⅱ部で初歩的な着想を示し、わずかではあるがまとめられた研究を第Ⅲ部に掲げることとした。科研調査は終了したが、今後も我々本科研に関わった研究者のすべては集めた資料をもとに、紅河下部デルタの開拓史に関心を持ち続け、研究成果を公表することを約束するものである。

最後に、本研究を遂行するにあたってご援助をいただいたすべての研究機関や個人、誰よりもまず調査地の人々に心より感謝の意を示したい。

2008年3月

八尾 隆生（研究代表者）

## 研究組織

研究代表者：八尾 隆生（広島大学・大学院文学研究科・准教授）

研究分担者：桜井由躬雄（東京大学・大学院人文社会系研究科・名誉教授）

桃木 至朗（大阪大学・大学院文学研究科・教授）

嶋尾 稔（慶應義塾大学・言語文化研究所・准教授）

松尾 信之（名古屋商科大学・経営学部・教授）

研究協力者：高田 洋子、岩田 寛子、吉本 康子、蓮田 隆志

海外研究協力者：Phan Huy Lê, Nguyễn Quang Ngọc, Đỗ Kiên, Vũ Đường Luân

研究協力大学院生・学生：岡田 雅志、牧野 直子、友保 浩法、大谷 昇平、服部  
京子、一瀬 絵里、川本 智之

交付決定研究補助金額（金額単位：千円）

年度	直接経費	間接経費	合計
平成17年度	4,100	0	4,100
平成18年度	4,100	0	4,100
平成19年度	4,500	1,350	5,850
総計	12,700	1,350	14,050

研究発表（研究代表者、研究分担者のみ）

### （1）学会誌等

八尾 隆生、「黎朝開国功臣の土地所有と農業開拓」『広島東洋史学報』10, 2005, pp. 51-28.

八尾 隆生、「ヴェトナム前期黎朝の滅亡と清化集団の再編」『史学研究』248, 2006, pp. 1-26.

八尾 隆生、「碑文に見るヴェトナム黎朝初期の政権抗争」『アジア遊学』91, 2006, pp. 150-157.

YAO Takao, “Một cuộc tranh cãi trong làng Bách Cốc cuối đời Lê”, *Thông tin Bách Cốc số đặc biệt*, 2006, pp. 47-62.

八尾 隆生、「ヴェトナム黎朝前期昇龍城研究初稿」『広島東洋史学報』12, 2007, pp. 54-75.

八尾 隆生、「黎初の百年－15世紀のヴェトナム」学位請求論文，大阪大学大学院文学研究科，2008, vii+278pp.

八尾 隆生、「ヴェトナム紅河デルタ・ニンビン省瑰池社の開拓史－国家と地方官、民との交渉再考－」『東洋史研究』66(4), 2008, pp. 32-63.

SAKURAI Yumio, “Giới thiệu: Báo cáo về quá trình nghiên cứu hợp tác xã Cốc Thành trong 10

năm: Từ 1994 đến 2003”, *Thông tin Bách Cốc số đặc biệt*, 2006, pp. 3-13.

桃木 至朗, 「ベトナム北部・北中部における港市の位置」歴史学研究会編『港町の世界史 1 : 港町と海域世界』青木書店, 2005, pp. 179-205.

MOMOKI Shiro, “Nam Định trong thời Lý - Trần”, *Thông tin Bách Cốc số đặc biệt*, 2006, pp. 39-46.

MOMOKI Shiro, SHIMIZU Masaaki, and Lê Thị Liên (共著), “A Trace of Disyllability of Vietnamese in the 14th Century: Chu Nom Characters Contained in the Inscription of Ho Thanh Mountain (II)”, 『アジア言語論叢 (神戸市外国語大学)』6, 2006, pp. 17-49.

桃木 至朗, 「総論 歴史学の危機と21世紀の挑戦」『インターフェイスの人文科学研究報告書 2004-2006』4, 大阪大学, 2007, pp. 9-34.

桃木 至朗 他3人 (共著), 「総説: 海域アジア史のポテンシャル」桃木 至朗 (編著) 『海域アジア史研究入門』岩波書店, 2008, pp. 1-12.

中島 楽章・桃木 至朗 (共著), 「交易の時代の東・東南アジア」桃木 至朗 (編著) 『海域アジア史研究入門』岩波書店, 2008, pp. 90-97.

桃木 至朗, 「人はなぜ歴史をめぐって争うのか? - 「国家」と「民族」の陥穽 -」木戸 衛一・長野 八久 (編著) 『平和の探求』解放出版社, 2008, pp. 74-81.

嶋尾 稔, 「『寿梅家礼』に関する基礎的研究」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』37, 2006, pp. 141-158.

嶋尾 稔, 「ベトナムの変貌」『最近の世界の動き』16, 2006, pp. 1-7.

嶋尾 稔, 「『寿梅家礼』に関する基礎的考察 (二)」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』38, 2007, 123-143.

嶋尾 稔, 「ベトナムにおける王朝の終焉」鈴木 正崇 (編) 『東アジアの近代と日本』慶応大学出版会, 2007, pp. 365-408.

嶋尾 稔 (単著), 「『寿梅家礼』に関する基礎的考察 (三)」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』39, 2008, 215-231.

松尾 信之, “Vấn đề di dân ở làng Bách Cốc trong mấy thập niên gần đây”, *Thông tin Bách Cốc số đặc biệt*, 2006, pp. 197-210.

## (2) 図書

桜井 由躬雄, 『歴史地域学の試みーバッククッカー』東京大学大学院人文社会系研究科南・東南アジア歴史社会専門分野研究室, 2006, 627pp.

桃木 至朗 (編著), 『海域アジア史研究入門』岩波書店, 2008, 292pp.

## (3) 学会・講演会発表

八尾 隆生, 「近世ベトナムの港町ホイアン」地域アカデミー2006 (広島大学歴史文化学講

- 座公開講演) , 2006年6月18日, 於広島県立博物館.
- 八尾 隆生, 「ヴェトナム黎朝前期の政治空間を読む前提」文部科学省特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」文献資料研究部門・官僚制度班「前近代中国の中央・地方・海外を結ぶ官僚システム」第2回研究集会, 2006年11月25日, 於大阪市立大学.
- 八尾 隆生, 「ヴェトナムにおける漢喃(ハンノム)本の研究と収集の現状」学習院大学東洋文化研究所アーカイブズプロジェクト漢籍データベースセレクション連続講演会「東アジア書誌学への招待」(第11回), 2006年12月8日, 於学習院大学.
- 桃木 至朗, 「新しい時代区分論」第3回全国高等学校歴史教育研究会, 2005年8月10日, 於大阪大学.
- 桃木 至朗, 「大越陳朝碑文研究序説」東洋史研究会大会, 2005年11月3日, 於京大会館.
- MOMOKI Shiro, Three Historiographies of Early Southeast Asia, and the Fourth? RCAPS Seminar, Beppu: Ritsumeikan Asia Pacific University, Jan.16, 2006.
- MOMOKI Shiro, “The Vietnamese Empire and Its Expansion c. 980-1840.,” International Workshop on Asian Expansions: Historical Processes of Polity Expansion in Asia, Singapore: Asia Research Institute, National University of Singapore, May 12-13, 2006.
- 桃木 至朗, 「東南アジア史 誤解と正解」第4回全国高等学校歴史教育研究会, 2006年8月2日, 於大阪大学.
- MOMOKI Shiro and HASUDA Takashi, “A Review of the Periodization of Southeast Asian Medieval/Early Modern History, in Comparison with That of Northeast Asia,” International Workshop: Dynamic Rimlands and Open Heartlands, Maritime Asia as a Site of Interactions, Nagasaki Museum of History and Culture, Oct. 27-28, 2006.
- 松尾 信之, 「バックコック周辺村落の調査から」日本ベトナム村落研究会, 2007年5月6日, 於東京大学.

「文献・碑文資料による近世紅河下部デルタ開拓史研究」報告書  
目次

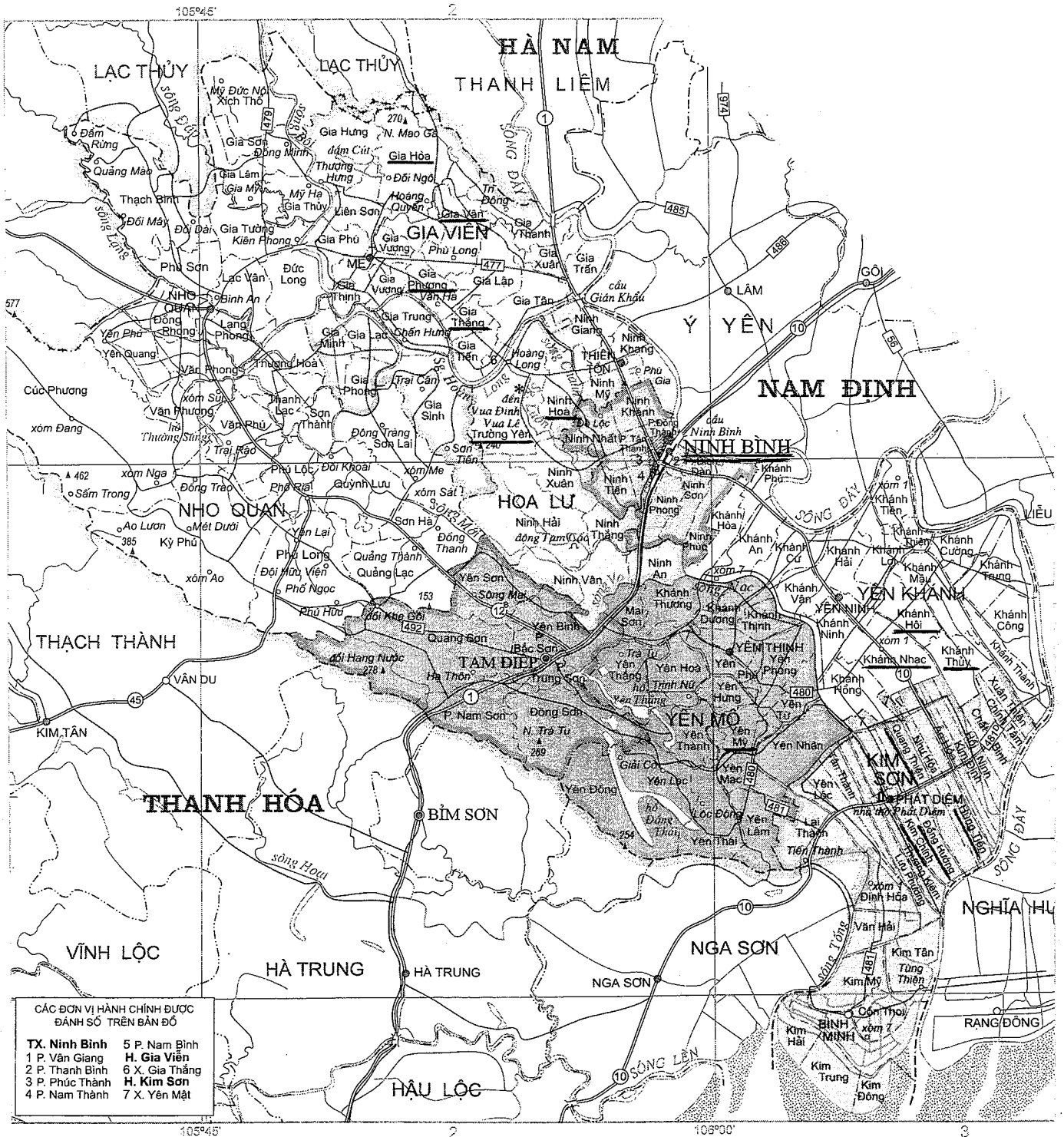
序	i
I 各年度調査フィールドノート	1
I-1 2005年度ニンビン省各村落調査フィールドノート	3
I-2 2006年度ハナム・ナムディン省調査フィールドノート	29
I-2-1 2006年度ハナム・ナムディン省調査A隊フィールドノート	31
I-2-2 2006年度ナムディン省調査B隊フィールドノート	57
I-3 2007年度タイビン省各村落調査フィールドノート	79
I-3-1 2007年度タイビン省調査A隊フィールドノート	81
I-3-2 2007年度タイビン省調査B隊フィールドノート	113
II 収集資料分析・活用法	127
II-0 村方に残る阮朝期公文（蓮田 隆志、嶋尾 稔、松尾 信之）	129
II-1 阮朝期の該総の任命過程に関する覚書（蓮田 隆志）	135
II-2 開墾および新村設立の申請書（嶋尾 稔）	138
II-3 考課関係の文書（嶋尾 稔）	142
II-4 仏領期の資料（松尾 信之）	145
※収集史料の画像データ	附録 CD-ROM
III 各論	149
III-1 李陳時代の紅河下部デルタ開拓史に関する論点整理（桃木 至朗）	151
III-2 黎朝開国功臣の土地所有と農業開拓（八尾 隆生）	163
III-3 紅河デルタ・ニンビン省瑰池社の開拓史 —国家と地方官、民との交渉再考—（八尾 隆生）	191

## I 各年度調査フィールドノート

現地調査は3年に及び、その間研究代表者・分担者以外に多くの協力者の参加を仰いだ。フィールドノートは調査したその日の間にまとめることを原則としたが、執筆者、執筆時の残余時間、メンバーの疲労度などにより、体例や内容の精粗は統一されていない。研究代表者である八尾が本報告書を作成するに当たり、ある程度の校訂を行ったがそれらもごく一部に止めた。現地にあつて書かれた原文を尊重するためである。ただし個人情報の漏れが過度と判断した部分は削除している。



I-1 2005年度ニンビン省各村落調査フィールドノート



下線は調査村落 二重下線は滞在拠点

## 2005年度 ニンビン省各村落調査フィールドノート

2005/12/22

参加者：八尾隆生（団長）、嶋尾稔、松尾信之、岡田雅志、牧野直子、服部京子、ヴ・ドゥ  
オン・ルアン Vũ Đường Luân（ハノイ国家大学）、グエン・ゴック・カイン Nguyễn（以下  
Ng）Ngọc Khánh（ニンビン省文化情報局幹部）、グエン・ディン・ドアン Ng Đình Đoàn（ホ  
アルー県幹部）

7:30 ホテル出発。国道一号線を北上、約6 km先のホアルーHoa Lư 県へ。

Sở VH tỉnh Ninh Bình で幹部の Khánh をピックアップして、すぐ出発。

UBND h. Hoa Lư で、県幹部の Ng Đình Đoàn をピックアップして、西南約2kmの UBND xã  
Ninh Hòa へ。

8:10 到着。UBNDに挨拶

副主席：Ng Hữu Quân

文化室長：Ng Ngọc Bích

両氏に社の概況を聞く。社には Nguyen Bac を祀ったデンが2つある、など。

8:45 Quanと共に、thôn Ngô Khê Hạ 着

道路に面した南側がディン đình、北側がデン đền。

ディンで少し、挨拶した後、調査へ。

村（か社）の4つの大族、Ng Văn, Ng Đình, Lê Xuân, Bùi Hữu

ディンには特に遺物なし。

デンへ。修築 1998年（棟木）

・インフォーマント

①Ng Văn Thiết、85歳、Ng Văn 族の7代目。

②Ng Văn Thắng、50歳、8代目、村長兼族長。

・史料：①鐘銘（写真撮影）

以下 làng Ngô Khê Thượng

9:15 阮文族祠堂

家譜は抗仏期に焼ける。インフォーマント①によれば嗣徳年間に書かれた。

口承によれば始祖は1350年頃にハタイ省常信府 Xuân Mai 社から移住。

4つの支あり。第一支は断絶。第二支は族長のインフォーマント②。第三支には Tổng Đệ が

いる。第四支は Ng Khắc Gia。副主席の Quan は第二支。  
越語訳家譜はあるが出てこない。原文家譜は Tong Do 以降の世代を書いている。  
本社の làng Quán Vinh の寺門のところに漢字碑文あり。  
mộ に漢字碑文あり（上の話と重複？）

9:45 阮文族第四支祠堂

インフォーマント①の支。嗣徳 31 年の石柱銘文あり。勅封なし。さっさと出発。

10:00 阮廷族祠堂

族長：Ng Đình Giám、85 歳、26 代目

Ng Bạc の子孫を名乗る。

12 代目の Ng Lý 阮理 (=黎理 Lê Lý) を祀る。

家譜はハノイの某人が持っている。（電話番号は Luan がメモ）

嘉遠県 Gia Phương 社から来た。（2 代目から？） Gia Phương の一族も合わせると数百人。

- ・史料：①勅封数道（bản sao 含む）（写真撮影）  
②家系図（写真撮影、クオックグー）

11:05 行遣デン

堂守：Hoàng Ngọc Thoại、履歴は後述。

村はずれにあり。Đầu làng Áng Ngũ に位置。

Ng Bạc を祀る。

保大 3 年重修（棟木、写真撮影）。戦争で破壊。近年になって再修築。

- ・史料：①位牌（写真撮影）  
②石製香火鉢（写真撮影）

お昼は県内の食堂で。UBND で休憩の後、1:30 出発。

1:45 黄族祠堂（在 thôn Ang Ngu）

インフォーマントは行遣デンの堂守と同じ。9 代目

本社には 8 thôn あり：thôn Đại Áng, thôn Áng Sơn, thôn Áng Ngũ, thôn Quán Vinh, thôn Ngô Khê Thượng, thôn Ngô Khê Hạ, thôn Thanh Thượng, thôn Thanh Hạ

族長は 1 年前に死亡。

修築：1945 年（3 回目）、2000 年（4 回目）

祖先は莫氏。

- ・史料：①石碑（保大 20 年）写真撮影

②漢文家譜（コピー）写真撮影。（インフォーマントによれば、6代目が1848年に編纂したもの。漢喃院が翻訳。ヴェトナム語家譜（手帳に手書き）の初代、黄一郎。字が Phúc Trọng。1648年の人、1代35年で逆算したらしい。

2:30 頃 黄族支族祠堂

支を作った黄玉璣（黄孟公）を祀る。家譜の作者もこの人。

- ・史料：①位牌3位：黄玉璣（中央）、左右も写真撮影
- ②bàn thờ の裏側に、制作日などを書いた銘文あり（写真撮影）

以降、thôn Thanh Ha

3:10 Ng Công Khang（54歳）の家

村の人によれば、祀っているのは Ng Bac。

- ・史料：①勅封8道（写真撮影） 城隍神、○○將軍の二位宛

3:35 黄族祠堂

Ang Ngu の黄族とは別。

啓定3年の棟木（写真撮影）。現在の建物は2001年修築。

口伝では莫氏の子孫。村を開いたのは10代前の先祖。

- ・史料：①漢文家譜+αのコピー（写真撮影）
- ②クオックグーの碑文等あり（写真撮影）

4:00 Phạm Quốc Hữu（68歳）の家

族長は口が聞けないため、Huu が代理。24代目。

口伝では、フンイエンから約500年前に移住してきた。范五老の一族の支派と自称。

最初にここに来たゾンホ。

3支あったが、第一支は断絶し、今は2支のみ。

勅封はあったが、最近、無くなった。

lang 内のゾンホ：Vũ, Trịnh, Lê, Nguyễn, Hoàng, Phạm。最大は Hoàng、2番目は Vũ。

- ・史料：①漢文家譜（写真撮影）26.7×15.3
- ②天文地理医学書（一部撮影）

4:45 Phạm Liên Bang の家

父が Phạm Văn Trán、元里長。

Quan Vinh の Pham 氏と同じ一族。また、先の Pham Quoc Huu のうちも同じ支という。

- ・史料：①北圻人民代表のバッジ（1935-36）（写真撮影）  
②家系図（クオックグー、写真撮影）  
③勅封 3 通のコピー（范日高）（写真撮影）

辞してホテルに帰る。

2005/12/23

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、服部、Luan、Khanh、Doan

7:30 ホテル出発。So VH tinh で Khanh をピックアップして、すぐ出発。ホアルー県へ。  
UBND huyện Hoa Lu で Doan をピックアップして、UBND xa Ninh Hoa へ。

8:25 阮世族 chính の祠堂（在 lang Thanh Thuong）

入口上に「東沙廟」の文字。東向き。

族長：Ng Thế Hóa、56 歳、第一支、6 代目。

5 支あり。家譜なし、口伝のみ。

始祖は阮金榜。出身地は不明。光中に従って Ang Ngu に至り、xứ Đồng Ngan に移って、Thanh Thuong へ。3 代目が Ng Văn Ngan。第一支で、清 or 又の督学（後で誤りと判明）という。

祠堂の修築：3 回の修築。棟木は 1902 or 1842 年（壬寅）。

村の族：阮世、黄、陳（黄が最多、最古）

- ・史料：①位牌（写真&漢字篇）

位牌からわかったのは、2 代目は阮彦俊、寧平督學。3 代目は恩賜廩生。

9:10 chùa Quán Vinh

福恩寺。境内に本堂、フー、付属施設三棟。門の脇に四基の石碑。

住職は不在。ナムディンの chùa Cà で修行。Thích Thanh Vũ、27 歳。

寺田は土地改革前は 1 畝あり。改革で農民に分配。最近取り返して 5 高。

同じ敷地内に phủ Quan Vinh 有り

2005 年 1 月 18 日に建造。それまでは寺の隣の敷地に phu があった。その頃から phu の管理は寺の住職が行っている。

phu の内部には、手前に五体の男神像（am sat）、奥に三体の女神像があり。

男神像を祀る台の前にショーケースに入った男児と女児の像があり (cậu と cô)。女神は三位聖母とのみ。それぞれの名前はない (フーザイの聖母と同じである、というので、柳杏公主、上岸攻公主、水宮公主であろう)。

奥の女神の台座の下には虎の像が五体、蛇の像が二体ある。内部左端には陳興道の像が、右端には上岸聖母の像があり。寺の参拝客は寺を参拝した後、phu にもお参りする。

Phu での祭祀は毎月 15 日に行われる。レンドンは 1 月、4 月、7 月、12 月の 15 日に行われる。レンドンは寺の住職によって執り行われる。婆童、翁童はいない。ハウボンは行われない。レンドンではおこわ、果物、豚肉、鶏肉、ビンロウを食べるだけである。3 月のナムディン省のフーザイで行われる大祭には住職が参観ツアーを組織し、皆ででかける。

寺の入り口付近に観音菩薩像があり。

- ・史料：①石碑四基 (門脇、写真撮影)
- ②鐘銘 2、本堂左右壁の碑銘 2 (本堂内、写真撮影)

時刻不明 途中で寺の前にある廟に連れて行かれる。

Thánh mẫu Nhi Vị を祀る (後で范曰高の娘を祀っているという話が出て、その内の 1 つ) 寺内のフーでのインタビューによれば、この廟の thanh mau を寺内のフーに移した。

- ・史料：①石碑 1 基 (写真撮影)
- ②クオックゲーの縁起文 (写真撮影)

10:08 辞去

10:10 范廷大族祠堂 (在 thôn Quan Vinh)

- ・主要なインフォーマント

①Phạm Đình Tậu、族長、64 歳、第一支、9 代目。

②Phạm Quang Thọ、族長の弟、59 歳、第一支。

2 支あり。インフォーマント②は族歴史研究班班長。祠堂は 1871 年に建てられ、碑文は 1880 年に書かれた。

始祖は黎中興の人ということは碑文に書いてあるという。

原貫地不明。家譜は 4 つあったが、鄭莫戦争で失われた。

5, 6, 7 代目の范曰高、范曰造 (別名 Mèn Tạo)、范文週 (別名 Ba Chu) の史料があり、曰高が挙人。あとは史料を参照。曰造は 4 度も秀才に受かった近隣でも有名な知識人の 1 人。

この地方の3大知識人にまつわる諺あり。残りの1人は昨日でてきた Tong Do である。村内に当時、他にも科擧合格者は2人（范金鐘、阮彦俊）いて、日高は范金鐘とは共に尊重しあう間柄であった。

范日高の娘は知県阮子恣に嫁ぐ。その推薦により吏目になることができた。彼女は明命の病氣回復に貢献したことにより、冊封を受け、村でも祀られるように。

廟から祠堂まで rước する。

左隅に phu があり。范玉花公主を祀る（1820年生、1839年没）。

祭礼は公主の命日である6月18日に行われる。祭礼の際には神輿を担いで Phu Quan Vinh を詣で、また祠堂まで戻ってくる。

現在は女性が女官の衣装をまとい祭礼を行う。かつては男性が祭礼を執り行い、女性は参加できなかった。1997年に女性が祭礼を復活させ、今に至る。女官役は村の30歳から60歳までの女性が担う。祭礼の手順は村に残っていた書物に従っている。

- ・史料①石碑（廟内2基、正面入口の柱側面に碑銘2面、クオックグー1基）

（写真撮影）

廟内埋め込みの第二支碑文の謎あり。

②公文19通（写真撮影）

③勅封2道（写真撮影）

④クオックグー資料（数点）

⑤ *Một số hiểu biết về Lịch sử họ Phạm Đình làng Quán Vinh* というタイトルの本を拝領

11:45 辞して UB huyen に

12:00 UB huyen で高田先生と合流。

13:30 UBND xa Trường Yên へ。

挨拶をすませ、Đền Lê Đại Hành, Đền Đình Tiên Hoàng、屋根付きで遺物を展示した発掘現場を見学。最初の発掘が1977年。が、資金不足で埋め戻し。1998年に考古院が再発掘。どの王朝の宮殿跡かは未確定。

見学の後帰途につく。

2005/12/24

参加者：八尾、嶋尾、松尾、高田、岡田、牧野、服部、Luan、Khanh、Ng Thị Hiên（ホアル一県幹部）

7:30 So.VH tinh 幹部の Khanh が出迎え。すぐ出発。

国道 1 号線を約 10km 北上したところで、12 号線に入り西進約 3km。Gia Vien 県の phòng, VH-TT-TT に到着。ガイド役の Ng Thị Hiên を乗せ、Gia Phương 社の UBND へ。

8:35 UBND xa Gia Phương (在 thôn Văn Hà) で挨拶、打ち合わせ

社党書記：Tạ Văn Khánh

副書記兼副主席：Đình Văn Cán

文化班班長：Lê Văn Tám

書記の挨拶。社の歴史など。途中で高田先生の友人の Thuy さん登場。彼女は Khanh の実姉。

Thuy さんが吠える。

阮氏の起祖の祠堂へ。

9:20 阮大族祠堂

・インフォーマント

①族長 Ng Văn Sura、42 歳、第一支

②Ng Điền Tương、78 歳、第二支、第 11 代目

インフォーマント②の話：家譜についての話が出たところで、家に連れて行かれる。

9:55 Ng Dien Tuong の家

自分が勉強した一族の歴史について話してくれる。

上記の祠堂で祀られているのは Ng Chính Tâm。彼から数えて 11 代目。Ng Bac の末裔であるかどうかという問題については否定も肯定もせず、但し祠堂では祀っていないとのこと。

Ng Chinh Tam に関しては名前しかわからないとのこと。

・史料：①漢文家譜（写真撮影）

2005 年に書かれた Tuong の訳本もあり（写真撮影せず）

10:35 阮族祠堂（起元堂）に移動（在 thôn Vĩnh Ninh）

祠堂内に勅封があるが nát。

・インフォーマント：Ng Quốc Rỹ、66 歳、第 43 代目

1 支のみ。碑文はあったが壊れてなくなった。家譜はハノイにあると言っていたが、後で出てくる。Ng Bac の ngày giỗ は 10/15。墓は 10 世紀の彼の墓が発見されたという（地図あり、撮影）。ハノイに ban liên lạc dòng họ Nguyễn Bạc toàn quốc (75 Phú Doãn) あり。1992 年発足。班長 Ng Như Hựu、元 Viện trưởng Viện Kiêm Soát tp. HN、漢字は読めず。副班長 Ng Quang Hạ、Huu より多くの史料を持つとのこと。



・史料：①漢文家譜（写真撮影）

11:30 Den tho Vua Dinh（在 Thon Van Ha）

・インフォーマント：Ng Xuân Trường、70 歳、trưởng ban quản lý di tích  
本尊の左に丁佃、右に阮匐を祀る。

・史料：①勅封 10 道 2 柱の神を祀っている。

12:35 Khu du lịch sinh thái Vân Long 内のレストランで昼食

13:30 出発

14:20 麒麟寺

境内に漢文石碑があると聞いて行った。

lăng Phát tích（撮影）：Luan によれば、丁先皇の発祥の地で、その父親 Đinh Công Trú の墓と  
いう。最近造られたもののよう。

銘文「陵発跡弄丁先皇帝」

階段を上り、本堂へ。観音洞。鐘あり。

・史料：①鐘銘（写真撮影）

15:10 終了、帰途につく

2005/12/26

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、服部、Luan、Khanh

7:30 So VH tỉnh 幹部の Khánh が出迎え。すぐ出発。

国道 1 号線を約 10km 北上したところで、12 号線に入り西進約 3km。県には寄らずに Gia Văn  
社の UBND へ。

8:00 UBND xa Gia Van で挨拶、打ち合わせ

県の文化室室長：Bùi Xuân Nguyên

社党副書記：Súng

副主席：Cáp

文化班班長：Viễn（女性）

いつもの挨拶。社の歴史など。

8:45 黎可朗一族祠堂 (在 thon Trung Hòa)

・インフォーマント：Lê Thế Hệ、74歳、21代目、総族長。  
3支あり。別にタインホアに4支、ザーラムに2支、キムランに1支、バッチャンに1支、ハナムに1支。1763年にタインホアから移ってきた。越語資料もあり（撮影）

- ・史料：①漢文家譜2冊（写真撮影）  
1冊は家譜+勅封の写し？  
②勅封（写真撮影）

10:10 Đình Tập Ninh (門に「寧母聖寺集」の字あり) (在 thon Tập Ninh)

・インフォーマント：Quan、truong khu di tích。  
ディンとチュアとデン（+フー？）のコンプレックス。元からそうだという。  
デンの本尊は傘圓山山精（勅封通り）  
チュア（香山寺）の陪臣は士燮という（Luanの聞き取りによる）。  
左脇のフーらしき建物。これは den Tu Vi だという説明。  
省指定の史跡らしい。  
・史料：①勅封（写真撮影）：ディンから出てきた。

10:50 Đình Đền làng Phú Long

東向き。デンは午山大王を祀る。陰暦1月8日に lễ hội。（インフォーマント不明）  
本社には5村あり（Trí Lễ, Phú Long, Mai Trung, Trung Hòa, Tập Ninh）。内 Mai Trung のみディンがない。  
境内に Miếu Mẫu があつたが、再建中？

11:15 景靈寺 (在 thon Phu Long か?)

寺内部には入れず。

- ・史料：①碑文（写真撮影）：明命。本堂脇にあり。  
②石柱（写真撮影）：嘉隆14年。

11:35 chủa thon Trung Hoa

1993年再建。中には入らず。  
字の摩滅した石碑1基と石馨あり。

11:50 終了。一昨日と同じ場所で昼食

13:40 Den Mai Trung

・インフォーマント：Tạ Văn Chiêu、78 歳

寺（「寺孟中」の額あり）と聖母を祀るデン。

lang には 17 ゾンホ。最大最古の族はナムディンから 700 年前にやってきた陳族。謝族も多い。牧野が聖母に関するインタビュー。

- ・史料：①勅封（写真撮影）  
②碑文（写真撮影）

14:15 Dinh thon Mai Trung

西向き。「亭鐘孟」の額あり。勅封によれば午山大王を祀っているらしい。越語資料もあり。

- ・史料：①勅封

14:45 chua Tri Le

thầy : Thích Đàm Thúy (女性)

・インフォーマント：村長 Đinh Thanh Hải、50 歳

村は百年の歴史あり。

境内に mộ tổ あり。2000 年再建。thay は来たばかり（3 年前 ?）。

âm chè に Sơn môn pháp phái Chùa Phúc Chính TX-Ninh Bình, Mùa An Cư, năm Giáp thân の文字。

- ・史料：①鐘銘（写真撮影）

15:25 黎族祠堂（在 Thôn Bích Sơn, xa Gia Van (昔は xa Gia Hoa に属していた)）

・インフォーマント：Lê Đức Hậu、72 歳、族長

社評議会議長の Đinh Văn Ngũ も姿を見せた。

一族の歴史：タインホアから約 300 年前にやってきてこのあたりを最初に開墾した。

見せてもらった越語家譜によると黎朝の子孫で、祠堂で祀っているのはおそらく起祖の Lê Phúc Lãnh。

- ・史料：①漢文家譜 2 冊（写真撮影）  
②勅封（写真撮影）

辞して帰途につく

2005/12/27

参加者：八尾、嶋尾、松尾、牧野、Luan、チャン・ハ・アン Trần Hà Ân (省幹部)

7:35 So VH tỉnh 幹部の Trần Hà Ân が出迎え。すぐ出発。

国道 1 号線を 10 キロ南進

7:50 左折して 480 号線に入る (イエンモまで 7 キロの表示あり)

8:03 UBND h. Yên Mô で県文化副室長の Vũ Khắc Huân をピックアップ

8:20 UBND xa Yên Mỹ で挨拶、打ち合わせ

社党副書記兼社主席：Ngô Duy Niêm

? : Ngô Hữu Trịnh

社文化室長：Ninh Văn Nhẫn

いつもの挨拶。社の歴史やゾンホなど。社の地図を撮影

9:00 Nhà thờ Ninh Tôn 寧氏祠堂 (xóm 8 (昔の名前が thôn Lý Hạ)) 南向き

・インフォーマント：第二支長 Ninh Văn Cư、58 歳、第 16 代目  
寧氏は 4 つの支あり

- ・史料：①勅封 (黎朝期だろう) (写真撮影)
- ② 碑文 両面 2 基 (写真撮影)

9:30 Nhà thờ chính họ Ninh 寧族正祠堂 (xóm 8 (昔の名前が thôn Lý Trung)) 南向き

・インフォーマント：Ninh Văn Yết、78 歳、第一支、第 17 代目  
族長は Ninh Văn Tuát、48 歳、18 代目。  
世系表によると、8 代目から 4 支に分かれた。Luan によれば、タイソンの功臣であるため、阮朝の勅封がないという。

史料：①勅封 (全て黎朝期) (写真撮影)

②碑文 両面 1 基 ローマ字碑文両面 1 基 (写真撮影)

③家譜 漢文なし ヴェトナム語訳本 2 種有り (活字本の一部を Luan が撮影。写本の漢文部分も撮影) 訳者は viện Hán Nôm の Hoàng Lê という。

10:20 Đình làng Côi Trì (ソム 3 (昔は Thôn Trung Hậu Nam))。  
南向き。

・インフォーマント：Ninh Văn Yết、78 歳、第一支、第 17 代

ディン奥のデンは開村の二神 Hoàng Kim Công Chúa、10 ông Tiên sinh とそれに従った 88 人を祀る。棟木は写真撮影。

- ・史料：①碑文 4 基（写真撮影）。左右に 1 基（片面 1 基、両面 1 基）ずつ、前庭に両面 2 基ころがる（mới đào lên）
- ②銅馨（写真撮影）。両面 もともと寺にあったものを持ってきたという
- ③鐘銘（写真撮影） 1 鐘

11:05 Nhà của ông Ninh Văn Liêm（在 xóm Thọ Thái（地図では Côi Tri の集落の北に位置）、xã Yên Hưng（Yen My 社の北隣））

- ・インフォーマント：Ninh Văn Liêm、93 歳、第四支、14 代目

11:30 Nhà của ông Ninh Văn Yết（在 xóm 9（昔は thôn Bút Thị））

- ・史料：①漢文史料 4 冊（写真撮影）。家礼書、天文書、地理書、寧氏校定（社誌もどき）

12:10 午前の部終了

13:40 Nhà thờ chính họ Tạ 謝族正祠堂（在 xóm 1（昔は thôn Dũng Hậu Lân））。東向き。

- ・インフォーマント：①Tạ Hồng Sơn、67 歳、第三支、11 代目、軍人あがり
- ②Tạ Ngọc Cầu、76 歳、第一支、9 代目。Cụ chùm

3 支あり。第一支の族長は Tạ Xuân Tình、11 代。インフォーマント②によれば、始祖が Tạ Phúc Minh（字）。インフォーマント①によれば、ハノイに ban liên lạc がある。Son の子が現在史学科の 4 年生（Luan によれば Tạ Mỹ Linh）。家譜は mất した。

- ・史料：①碑文 両面 1 基

14:30 UBND xa に戻り、翌日の計画を相談。

15:15 ホテル着

2005/12/28

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、Luan

7:40 So VH tỉnh 幹部は今日は参加せず。すぐ出発。

8:18 UBND xa Yên Mỹ 着、祖国戦線の老人2人をガイドとして

8:30 Nhà thờ họ Ngô (chi 4) 呉氏支派祠堂を訪ねるも不在。

8:50 Nhà thờ chính họ Ng 阮氏正祠堂 (在 xóm 4 (昔の名前が thôn Cự Phú))

祠堂の拝殿を新築中 向き調査漏れ

支派は2つ、第二支が3つの phái に分かれる。

族長 : Nguyen Tất Tiên (=Khuyên)、70歳、第一支、14代目

・インフォーマント : Ng Ngọc Bảo、70歳、第二支、第一派

祖先はニンビンの大安県

Bao の家に移るが漢文家譜の写真撮影を拒否、最初の20葉のみ許される

・史料 : ①家譜 (漢文2種) (写真撮影、冒頭の20葉のみ)

9:55 Nhà thờ họ Phạm 范族正祠堂 (在 xóm 5 (昔の名前が thôn Đông Tiền))

220度向き。

・インフォーマント : 族長 Phạm văn Thúc、47歳、第一支、第17代

支は3つ、各支の祠堂がある。祖先の忌日は陰暦11月15日

・史料 : ①家譜 (漢文、活字に起こされたもの+訳文付き1つ) (写真撮影) 「范族世譜美西甲解音」

10:35 Nhà thờ chính họ Ng 阮氏正祠堂 (在 xóm 4 (昔の名前が thôn Cự Phú)) 南向き

族長 : Nguyễn Văn Ké、75歳、第一支、18代目

・インフォーマント : Nguyễn Văn Mong、65歳、第一支、18代目。Kéの弟

祖先はナムディンの南真県、先ほどの阮氏とは関係なし、阮西族と自称)

祠堂本尊は奥が開拓祖 (15世紀)。二段目が連れてきた子供9人の内の3人。

史料 : ①漢文家譜原本1冊 (写真撮影)。最近誰かの家で再発見されたものらしい。

②漢文史料コピー1冊 (写真撮影)。族 (寧族?) に関する雑多な文書 (家譜も含む) の集成。

③漢文家譜コピー1冊 (写真撮影)。南真県のもの。

④字喃とローマ字対照の家譜もどきのコピー (写真撮影なし)

⑤場所不明の絵地図1枚 (写真撮影)。村の地図らしいが出所不明。

11:40 Nhà thờ họ Ngô (chi 4) 呉氏支派祠堂 (在 xóm 7 (昔は xóm Mỹ))。南向き。

最初に訪れた祠堂。

・インフォーマント：Ngo Van Nôi (80 歳、第二支、代調査漏れ)。葉売り (家伝)

すぐに Nha tho chinh ho Ngo に移る。

Ngày gio は陰暦 1 月 18 日。族長は Ngô Văn Ngà、43 歳、17 代 (不在)。第二支支長 Ngô Việt Đam、72 歳、16 代と雑談。

史料：①碑文 1 基 (写真撮影)。前庭。半分割れている。両面。

②漢文家譜原本 1 冊 (写真撮影)。冒頭部分が初学指南、占い関係、呉家文派 (家譜本体?)、後半は文集

③漢文家譜コピー 1 冊 (写真撮影)。支派のものらしい。

④俗例原本 1 冊 (写真撮影)

⑤瑰池武會碑記 (前日のデインの碑文のもの) など碑文の写し 1 冊 (写真撮影) 漢文と翻音 (手書き)。

12:45 辞去

13:25 ホテル着

2005/12/29

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、Luan、Khanh、Ng Ngọc Cán (イエンカイン県文化室室長)

7:35 出迎えにきた So VH tinh 幹部 Khanh とともにホテルを出発。

8:00 phong VH-TT-TT h. Yên Khánh に到着

Truong Phong Ng Ngọc Cán をピックアップ。

8:15 UBND xa Khánh Hội 着

いつもの会議。

社書記長兼評議会議長：Hà Văn Hê

社主席：Ng Văn Chuẩn

社副主席：Tạ Năng Hiểu

祖国戦線主席：Trần Đình Tiến

文化班班長：Trần Văn Hưng

8:45 伽梨寺 (chùa Già Lê) (在 xóm Chùa (thôn 8))。

UBND を挟んで洪徳堤の南側に位置。西南向き。

本堂、右脇に Phu、奥に祖堂、左脇に mộ tổ 数基。

勅封はなし。

住職：Thích Thánh Năm、28 歳

本尊の左脇に Thái tử Ky Đa、右脇に A Nan を祀る。両端は Hộ Pháp

- ・史料：碑文 3 基 (写真撮影)。本堂の前、全て両面 (裏面の撮影は失敗)

9:25 Nhà thờ chính họ Nguyễn 阮族正祠堂 (在 xóm Đồi (thôn Đồi))

東南向き。棟木は啓定 5 年。

- ・インフォーマント：Ng Văn Khiên、69 歳、代は不明らしい。

3 支あり。バオカップ時代にバラバラになり、現在は交流なし。祖先は Trịnh Kim Quang で、改姓の理由は不明。ナムディン (Ý Yên) から来た (カウドイを指しながら説明)。

最初にこの地に来た 3 人の残り 2 人は Nguyễn Hữu Công、Bùi Hữu Hoa。Kim Quang は今は旧貢水社の城隍神に (昔あったデンには 5 畝の祀田があった)。その後 9 戸が続いて、計 12 戸に。

祖宗には 3 人の息子あり、3 支を形成。2 人の娘は結婚せず bà cô に。Ngày gio は陰暦 1 月 2 日。碑文はなし (論文によればあったはずなのに・・)。

- ・史料：①勅封 (写真撮影)  
②漢文玉譜 1 冊 (写真撮影)

10:15 Nhà thờ chính họ Tạ 謝族正祠堂 (在 xóm Tiên (xóm 4))

東南向き。

族長：Tạ Đức Ngọc、49 歳、21 代目

旧貢水社内に 6 支あり。祖先は Phúc Năng。上述の開拓の 9 戸の 1 人。

10:35 Nhà của ông Tạ Năng Diễm

Tạ Năng Diễm、84 歳

最初に開拓した 3 人に、付いてきた 10 人が加わり 13 戸になった。Ho Ta はそこに含まれる。

史料：①漢文史料コピー 1 冊 (写真撮影) 『本社事跡集編』

越語タイトル *Sự tích xã Công Thiệu*

Dien によれば、20 世紀初頭の Nguyễn Văn Thê (xóm Đồi の人) が村の史料を集めて編纂。訳本のコピーあり (撮影せず)。訳者は不明、1956 年に翻訳。1996 年の UBND xa の印あり。原本の所在は不明。



11:20 UBND xa Khánh Mậu に行くも不在。すぐに辞去。

12:05 ホテル着

2005/12/30

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、Luan、Khanh、Can

7:40 出迎えにきた So VH tinh 幹部 Khanh とともにホテルを出発。

8:05 Phong VH-TT-TT h. Yên Khánh に到着

Truong phong Ng Ngọc Cẩn をピックアップ (8:15 出発)

8:50 UBND xa Khánh Thủy 着

新築中。共産党はじめ各種団体の部屋あり。

いつもの会議。

社副主席：Bùi Hồng Du

文化班班長：anh Tĩnh

Luan が聞き取った xom の新旧名称対照

Trung Đồng Hư (xom 1), Trung Đồng Tiên (xom 4), Trung Đồng Đồi (xom 7), Cự Linh Tiên (xom 9), Thăng Hạ (xom 2), Ninh Mật (xom 5), Nội Hạ (xom 6)

ただし後の聞き取りと齟齬あり。

バイクにて移動

9:35 Đền Đồi (xóm Cự Linh Đồi (xóm 7)。南向き。左脇のフーは東南向き。

インフォーマント不明

祀っているのは Thổ địa。位牌には城隍神の名前が。右祭壇には成泰 3 年挙人の阮春魁を祀っているという。彼は 1,500 畝の田を一期作から二期作にした功績により祀られている。三位占射の 3 人も祀っているというが位牌はなし。

(牧野によるフーでの聞き取り) 三位聖母を祀る。中心、紅衣の女神が柳杏公主、左、白衣の女神が瓊花公主、右、緑衣の女神が桂花公主。祭りは 3 月 3 日 (柳杏公主の命日)、6 月 12 日 (瓊花公主の命日)、9 月 19 日 (桂花公主の命日) に行われる。この祭りは女官によって執り行われる。女官は 13 人おり、18 歳から 25 (35?) 歳の女性が務める。祭りの際にはおこわや果物などの供物を捧げる。それとは別に毎月陰暦の 1 日、15 日には焼香をあげる。このような祭りの日や、何らかの記念日にはレンドンを行う。レンドンは村に住む Ng Thị Minh が行う。彼女は普段は農業をしており、常時レンドンを行っているわけではな

い。

- ・史料：①勅封2道（写真撮影）いずれも啓定だが紙の色が随分違う。はしごをかけて棟木の上から取り出した。水に濡れたからかもしれない
- ②碑文2基（写真撮影）本堂の両側面の壁に埋め込まれており、裏面があるかどうか不明

10:15 Nhà của ông Tạ Mạnh Trí（在 xóm Cự Linh Tiên（xóm 9）

150度向き。

・インフォーマント

①Tạ Mạnh Trí, 68歳、族長の息子

②Tạ Ngọc Chi, 90歳、族長、移住してから8代目。

インフォーマント①によれば、祠堂があったが、革命期に壊した。家譜はある。Khánh Anから、この支族がKhánh Hội、次にKhánh Thủyに移住してきた。

インフォーマント②が登場。1835年にここに来たという。景興年間の1496年（ママ）に貢水社の開拓が始まった。このあたりの堤防は毎年少しずつ地元の人間で作った。Hồng Linh堤はどこかという質問に、Kim Sơnにあるとの答え。そこで、Cu Linh堤はどこかと尋ねると、我々がデンから（西南に）この家に来るまでに通った道がそうだという。

洪徳堤から南に走る2つの堤防の内、東の堤防をĐê Đông Biên、西をĐê Tây Biênと呼ぶ。東の堤防の北端がxóm 8（今はxa Khanh Mauの地分）、南端がĐền Đồi。西堤防の北端がchùa Gia Le、南端がxóm 9（xa Khanh Thủy）。Cu Linhの北を走る運河の名前は無し。

・史料：①漢文家譜1冊（写真撮影）

11:20 Nhà của ông Vũ Thiện Căn（在 xóm Trung Đông Đồi（xóm 4）

東南向き

・インフォーマント

Vũ Thiện Căn, 83歳、第三支、移住してきてから5代目

4支あり。祖先はHai DuongからNam DinhのHai Hauを経てきたと主張。彼自身が編纂した*Lược sử gia đình Vũ Thiện Căn*によれば、Phủ Nghĩa（Phủ Nghĩa Hưng）からHiền Thiênを経て、Cồn TiênのCồn Đồiに来たとある。

11:45 UBND xaを辞去

12:30 ホテル着

2005/12/31

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、Đỗ Kiên (ハノイ国家大学)、Khanh

7:38 出迎えにきた So VH tinh 幹部 Khanh とともにホテルを出発。

8:06 xa Khanh Nhạc の十字路

8:15 西側に Lang Van hoa Cương Thượng Tiến の門

8:17 Phat Diem まで 5 km の道標

8:19 T字路を右折。南側に Ân 川をのぞみながら、Đường Ân Đê を進む

8:25 UNND xa Quang Thiện 着

いつもの会議

社副主席（文化担当）：Oánh、1960 年生。午前中同行してくれた。

県文化室幹部：Ng Thị Ngà、(名前は後聞き) 1 日同行してくれた。

本県の史跡について質問。いくつかの情報を得て、2 日間の日程を決定。

9:10 Đền Nguyễn Công Trú (在 xóm 16, thôn Lạc Thiện)

UBND と同じ道路に面する。

デンは新しく建て増し中。向き 150 度。

・インフォーマント：Vũ Dương Tấn、71 歳、6 代目、老人会副主席。

1852 年に建築。当時 Ng Cong Tru は 75 歳で、生祠として作られた。23 年後、生祠を拝殿にして追思祠に変えた。元々は Ng Cong Tru の居宅があったところ。Ng Cong Tru は県全体の城隍神であり、かつ農業神でもある。背面の新殿増築は国家事業で、総工費 128 億ドン (2007 年完成予定)。Ng Cong Tru の出身が中部なため、フエ様式にしたらしい。正面の名簿板 (撮影) は一部であり、名簿板の完全な情報を知りたいければ、Thu Trung の Vũ Thiện Sùng が史料を持っているとのこと。勅封は国家が管理。

・史料：①碑文 1 基 (写真撮影)。片面。デンの外庭に放置。但し、元々ここにあったものではない。

9:50 辞去、北上

10:05 Nhà thờ chính họ Vũ 武族正祠堂 (在 xóm 16, thôn Lạc Thiện)

南方向き

・インフォーマント：①Vũ Dương Tấn

② Vũ Đình Chiêu、77 歳、6 代目

到着時は Chieu は外出、奥さんの Tạ Trần Tính (76 歳) が応対。インフォーマント①によれば、Cụ tổ Vũ Khắc Minh と bà tổ を祀る。Ngày gio は陰暦 5 月 8 日、ba は 7 月 17 日。Ng Cong Tru は 11 月 14 日。Ng Cong Tru の忌日には県からゾンホの各レベルに至って le hoi を行う。Tan は同じ武族でも họ ngoại (母方) だという。県内に 4 つの大支、その下に ngành がある。ここは第一支。

10:32 Chieu が帰宅。漢文家譜の所在を聞くと、71 年頃(?)、文化大学(?)の実習の時に持って行かれたまま返ってこない。Vu Khắc Minh は Xã Cự Trữ, h. Nam Ninh (chua Co Le の近くらしい) の人で、Ng Cong Tru と同じ試を受け、Ng Cong Tru に学識を見込まれ、開拓の時に最初に呼びかけられた。

(社の行政区分概略図)

	10	7, 8	6	3, 4	1	
西	11	9, 16	12	5, 15	2	東
(南)	Lưu Quang	Lạc Thiện	Trung Quy	Ứng Luật	Phúc Điền	(北)

↑ 街道 (Duong An De)

・史料：①漢文史料コピー1冊 (写真撮影)『郷道総譜』。原本の所在は不明。

11:12 Chùa Lạc Thiện (永祥寺、鐘銘によれば永福寺)

デンから約 50m 北。150 度。左にフー。右にデン (Ng Cong Tru 関係か)

・インフォーマント：thầy Thích Đàm Thanh、57 歳 (女性)

元は UBND のところにあったが、抗仏時に焼かれて、移転。彼女で 3 代目。6 人の僧。Oanh によれば、thôn Lạc Thiện にはカトリック信者はゼロ、社全体でも約 5% しかいない。

11:45 昼食兼宴会 (Gỏi Cá Nhệch という郷土料理と rượu Kim Sơn を賞味) 13:35 まで

13:35-45 西から東に流れる運河にかかる木造の Cầu Ngói を見学。

14:00 UBND xã Hùng Tiến に到着

いつもの会議。社の史跡に関する情報を得る。

社評議会議長：Ngô Văn Chiêu

役職不明：Vũ Bá Chí

役職不明：Bùi Hữu Hoàng

社副主席：Vũ Xuân Dân

文化班班長：Ngà

14:33 Hung Tien 社の東側の運河沿いの công làng xóm 8 の橋の前に停車。

14:40 Miếu Quy Hậu (在 Giáp Quy Đức, Xóm 8, thôn Quy Hậu)

西向き。

・インフォーマント：①Lã Mai Lâm、51 歳

②Vũ Xuân Dân

インフォーマント①は ban khanh thiet (史跡管理委員会) miếu の長。Giáp Quy Duc の呂族は 3 支あり。祀っている神様が具体的に誰かは不明。

・史料：①碑文 1 基 (写真撮影)。脇の建物の中にあり。訳文もあり (写真撮影)

②勅封 5 道 (写真撮影)

③インフォーマント①が持参した越語資料 2 冊 (写真撮影) 碑文訳、家譜訳など。

15:15 Nhà thờ chi 2 họ Lã 呂族第二支祠堂 (在 xóm 8, thôn Quy Hậu)

170 度向き

・インフォーマント：Lã Mai Lâm、51 歳、第二支長、第 5 代目 (支祖から数えて)

支祖は呂枚發。彼の父親の Lã Huy Lĩnh (名前の聞き取りは UBND) は「招募」者。本宗祠堂で祀っている。保大年間の扁額とカウドイあり。1920 年に撮影したという写真も。土地改革の時に祠堂と多数の資料が焼かれたが、一部は隠し通した。家譜は寺側の支族 (UBND) での聞き取りによれば未支) が保管しているが、今は外出中で見られないとのこと。

・史料：①憑給など公文書 13 通 (写真撮影) 嗣徳年間のもの。

東西に走る道の北側に西から第二支祠堂、寺、本宗祠堂、第三支祠堂が並ぶ。第三祠堂が一番大きくて新しい。

15:45 同じ道を東に進み、運河にあたり、北上、乗車。

16:00 Nhà của ông Vũ Văn Thu (タイル屋、10 dg An De, xóm 2, thôn Quy Hau) の脇に放置されていた碑文

「嗣徳丁丑秋恭鑄」(1877 年) (写真撮影)、裏面は確認不可能。

元々は UBND のところにあった市場の側に nha bia があってそこに収められていたという。

(付近住民談)

本社は南北 12km で東西は短い。UBND で地図撮影。

16:30 辞去

17:15 ホテル着

2006/01/02

参加者：八尾、嶋尾、松尾、岡田、牧野、Khanh、Kien、午後から Ng Quang Ngọc (ハノイ 国家大学)、Luan が合流

7:03 出迎えにきた So VH tinh 幹部 Khanh とともにホテルを出発。

7:10 So VH tinh で trung phong nghiep vu の Hai をピックアップ。

7:50 Quan an Bún Mọc Tố Như, dg Quang Thien で朝食。(Kim Son の名物)

8:25 UBND xa Kim Chính 到着

いつもの会議

社党書記：Trần Xuân Thụ

社主席：Xuân Điều

文化班班長：Nguyễn Hương :

書記の長い演説。社の歴史、史跡についての情報など (フランシスコ・ザビエル教会あり)

9:07 出発。Vũ Thiện Sùng 同行

9:30 Miếu Thủ Trung (在 xóm 5, thôn Thu Trung)

南向き。

Ban khanh thiet の面々がお出迎え。

中に Phạm Ngọc Chí : BT xóm 5 。Trần Văn Ước : trung ban quản lý

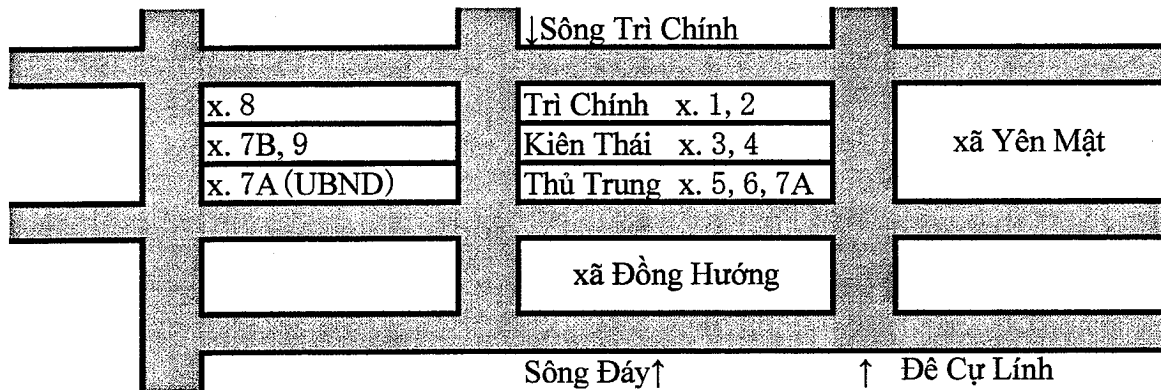
手前の棟木が成泰 12 年。

・インフォーマント：Vũ Thiện Sùng、80 歳、元第二支族長、6 代目か

1835 年初建 (奥の間)。本尊は昭海大王 (位牌もあり)。陳英宗の占城親征に参加。招募の 2 人を陪神に (右 Dương Công Nhuận、左 Vũ Quốc Khuê)。更に外側は原募、次募、従募。祭礼は 1 月 15 日。Den Tran から ruoc あり。忌日は 2 月 15 日。2 人の招募の忌日にも祭拜。咸宜の頃に建てられた Van Chi があったが、後に破壊された。そこにあった碑文が 31 日に撮影した Den Ng Cong Tru の境内にあった碑文。漢文先生が 3-5 人。一場、二場はいたが挙人はいなかった。Dinh lang はあったが、現存せず。De Cu Linh と De Hong Linh は同じで今の Duong Quan である。

・社の行政区分概略図 (社主席の解説による)

横が約 750m。縦が 9.4km。



→北

- ・史料：①勅封9道（写真撮影）但し、手写したもののコピー
- ②漢文史料（『守中新邑録記』）コピー1冊（写真撮影）
- ③越語漢文混じりの本2冊（写真撮影）『守中神廟録記』。『守中邑譜記』は一部のみ撮影。
- ④越語資料（*Địa chí ấp Thủ Trung*）1冊（写真撮影）Sung が2004年に編纂したもの。

10:45 辞去

10:57 Nhà thờ chi 2 họ Vũ 武族第二支祠堂（在 xóm 5）

340度向き

・インフォーマント：Vũ Thiện Sung

Chi cả の祖が原募の Vũ Thế Vĩnh (ten dem は公文による)。招募 Vũ Quốc Khuê は弟で第二支の祖。第二支族長は Sung の亡兄の子 Vũ Đăng Khoa、50歳。現在は HCM 市の8区に居住。

11:10 辞去

11:20 Nhà thờ chính họ Dương 楊族正祠堂（在 xóm 5）

330度向き

・インフォーマント：Dương Đức Dục、72歳、第一支族長、第5代目5支あり。史料は抗仏・抗米戦争に出征している間に家と一緒に焼けた。祀っているのは招募の始祖とその子2人。

11:45 Đền Trần（在 xóm 5）

南向き。

・インフォーマント：Dương Ngọc Ch�t、73 歳、ngành thứ  
陳興道と関帝を祀る。

Duong Cong Nhuan の二番目の妻の Tran Thi Thuy とその息子の Dương Đức Dương を両脇に祀る。Dương がこのデンを作った。最初は関帝を祀っていた。1917(?)年から陳興道を祀るようになった(神勅から考えると、これはおそらく嶋尾の聞き間違いで先に陳興道を祀っていたところに関帝を加えたと見るべき)。1911 年に建てられた(八尾聞き取り)。正面の仏画は Chat の妹がハノイの寺で住職をしているため。

- ・史料：①勅封 7 道(写真撮影) 原本 1、ban sao 3、ban sao co an 3。勅封は陳興道のものが古い(但し ban sao)。
- ②漢文家譜原本(『楊族譜記』) 2 冊(写真撮影) 成泰と嗣徳 22 年のもの。
- ③怪しい絵 2 幅(写真撮影) おそらく三国志。1 つには printed in Shanghai と書いてあった。

社内で昼食

14:04 UBND に戻り、ho Vu の家譜などを撮影

- ・史料
- ①漢文家譜原本(『武族家譜』) 1 冊(写真撮影)
- ②漢文史料原本 1 冊(写真撮影) 表紙中央に「伝家大宝」、左肩に「守中記録」

14:40 UBND xa Đông Hướng (在 Thon Huong Dao) 到着

いつもの会議

社主席：Trần Quang Huy

文化班班長：Phan Thúc Định

副主席の Phạm Huy Tứ が準備をしていたが、息子がニンビン市内の病院に入院したため、来られず。代わりに Định が案内。2 thon あり (thon Dong Dac, thon Huong Dao)

15:12 出発

15:29 Chùa Đông Đăc (Tổ đình Kim Liên、在 Thon Dong Dac)

250 度向き

巨大な寺。Trường Hạ Cơ Sớ を兼ねる。

住職：Minh Tính 師、ハノイ大社会学科卒。

1838 年創建。Đinh によれば、開創者の名前は不明、この寺は地域一帯の信仰の中心に。

本堂右脇に miêu あり。

堂守：Phạm Văn Thạch、74 歳



手前に招募、城隍神、奥に聖母（名前は不明）を祀る。脇は原募など。位牌多し。Thach が 3 歳の時にはすでに mieu があった。左脇中心には挙人黄先生の神位。勅封はあるが、dem di ép。今ここにはないらしい。鐘銘に寺の名前が彫ってあるが、撮影失敗。

・史料（写真撮影）

- ①碑文 3 基、越南民主共和 20 年（本殿裏庭）、保大年間（mieu の前側面）、年代不明（本堂前庭の北側）

16:23 Nhà thờ chính họ Trần 陳族正祠堂（在 xóm 2, thôn Dong Dac）

160 度向き

・インフォーマント：Trần Văn Quánh、83 歳、族長、5 代目  
昔は 5 高の土地があったが、土地改革で手放す。言い伝えでは招募の先祖の時には 2 畝の土地があったという。Tra Lu から移住してきており、Tra Lu の陳族祠堂は Xiêng が管理している。寺は 8 代続いている。社内に 4 支あり（社外に+1?）。

・史料（写真撮影）

- ①布家系図 1 枚
- ②漢文家譜再抄本 1 冊

17:01 辞去

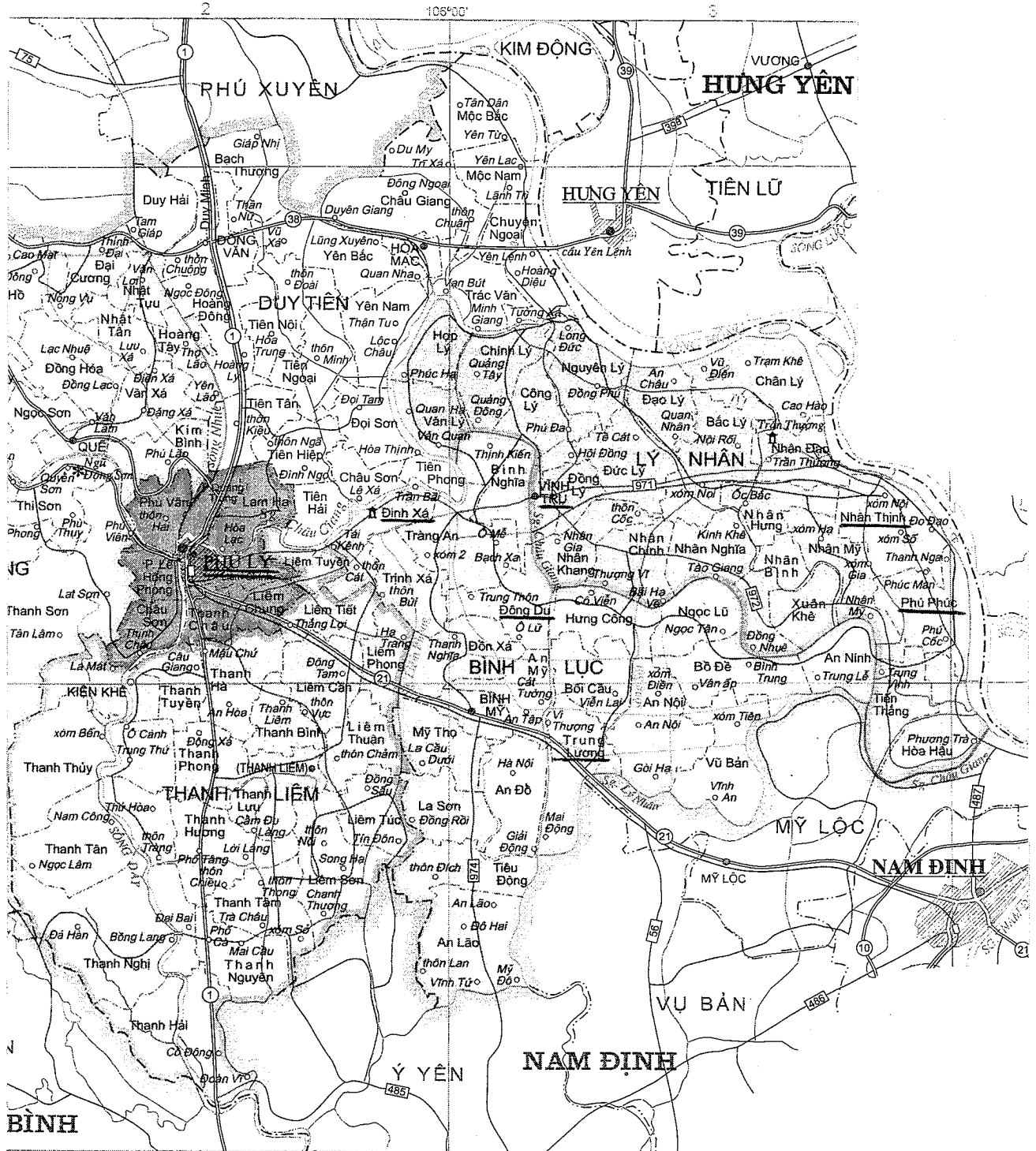
17:08 UBND で挨拶

17:25 辞去

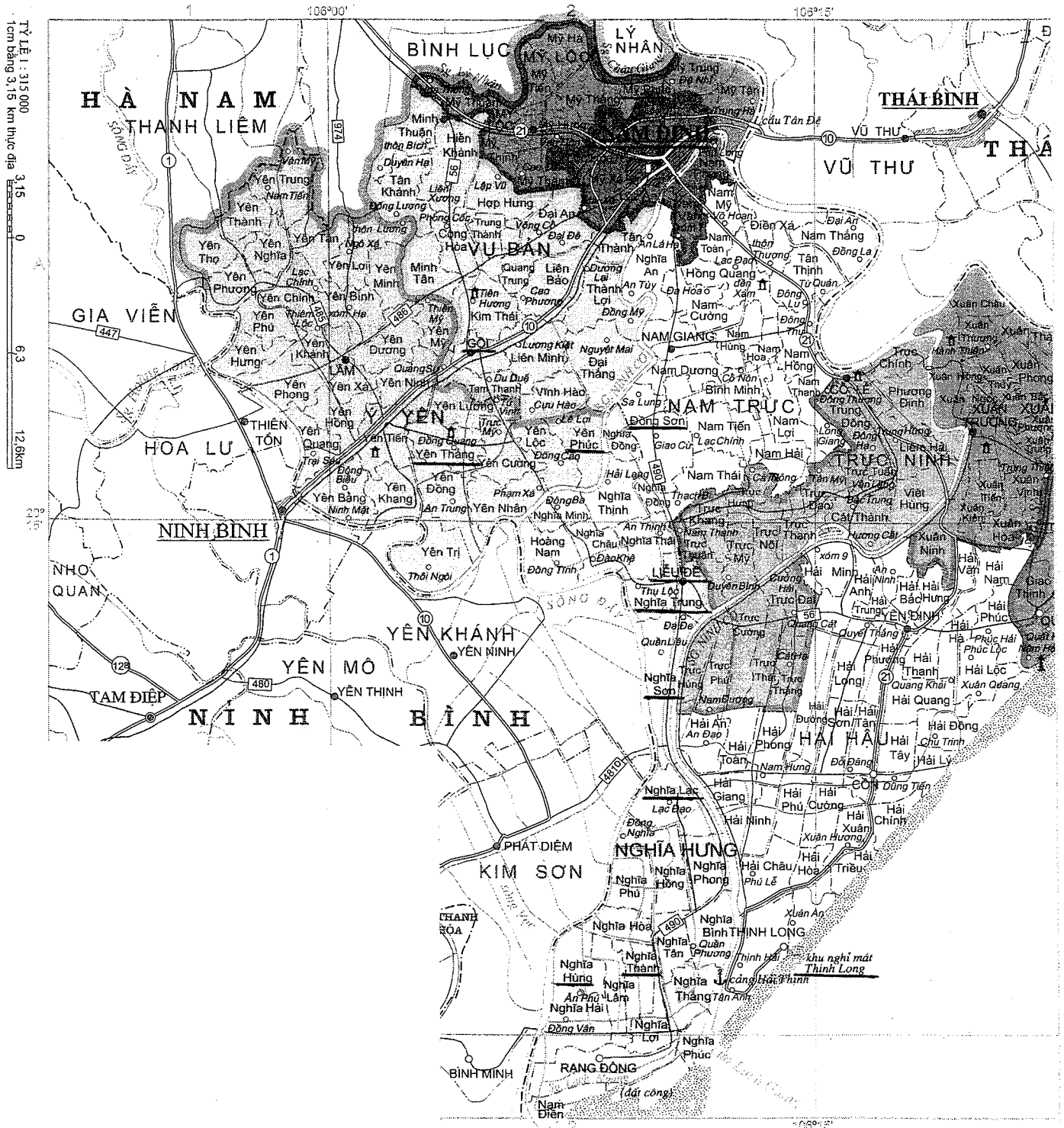
18:11 ホテル着、調査終了

I-2 2006年度ハナム・ナムディン省各村落

調査フィールドノート



下線は調査村落 二重下線は滞在拠点



下 線は調査村落 二重下線は滞在拠点

## 2006年度 ハナム・ナムディン省各村落調査A隊フィールドノート

2006/08/08

参加者：桃木至朗（隊長）、大谷昇平、牧野直子、吉本康子、ヴ・ドゥオン・ルアン Vũ Đường Luân

7:00 ハナム省都フリーーを出発。博物館の Khánh 館長など、3人同乗。途中で大雨。堤防上をずっと走る。

7:30 UBND xã Đinh Xá に到着。しばらく待たされて、8時3分に2階の HT で挨拶。

社副主席：Nguyễn Hữu Hiền

県文化室の幹部：Nguyễn Đình Phương

カインから団の紹介。土産を渡す。雨の中を歩いて慶龍寺 Khanh Long Tự に向う。

8:35 慶龍寺に入る（在 thôn Trung）。寺の尼僧にご挨拶。昨日まで chùa Thầy にいて賞をもらってきた？この社に4つの寺があり、全て1人で面倒を見ないといけなくて忙しい、と言った。ご挨拶の後に本堂に行く。本堂は1993年から再建した。本堂のご本尊に向って右手の壁の前に、Ngô gia thị bi 吳家氏碑がある。台座と本体あり。

台座：幅60cm？、奥行き33cm、高さ20cm

その上に乗っている本体：高さ97cm、幅60cm、本体の厚さが12cm

これらの全体がより大きな台座の上に乗せられていて、人物像が正面を向いていたものを回転させて裏側の字が書いてある面を見せてもらう。

Việt 談：人物像は陳仁宗 Trần Nhân Tông だという説と、ただの居士だという説がある。また立像だという説と坐像だという説がある。人物像の頭上に篆刻があり、それをめぐってまた論争がある。

ハー・ヴァン・タン先生の説は六祖聡明だと読む、それに対して地元の説は大福聡明だと読む、と対立している。（文字については写真参照）。

この本堂は西面している。もとはやや北の川沿いにあった。前の庭に莫朝の石碑があった。字は全く読めない。本堂北側の木の下に明命17年「石橋碑」があった。上部だけの断片。一緒にいた老人の Trần Xuân Khe（1930年生）によると、この村では陳氏が最大のゾンホ。他にどんな姓があるかと聞いたら、Đinh, Phạm, Nguyễn, Lê がある。その次に陳氏自体の説明で、始祖は Trần Huyền Chinh という。その始祖はナムディンの Mỹ Trung 社、Mỹ Lộc 県に住んでいて、その長男がここに移住してきた。それは大体400年くらい前のことである。自身は17代目である。

本尊の祭壇右側に釣鐘があり、嗣徳2年12月12日。大谷が撮影、筆写。

本殿の隣に *đền* があり、中に女神を祀っていて、寺と共に1217年に建てられた。戦争で破壊されて、その後1993年に再建を始め2005年完成。奥に4柱の女神が祀られている。左から二番目が柳杏聖母、残る3体は Tam Toa で、2列目の左端が崇珍で、右側が徳珍？、一列目左端が *đôi cô* で、右側が *cậu*。 *lễ hội* は昔はしていたが今はしていない。今は旧暦の1月、4月、7月、12月の *rằm* (15日) に寺と合わせて *lễ hội* を行っている。取り仕切るのは寺の尼であるが、社にある3つの寺 (*chùa Thái, chùa Dâu, chùa Chiên*) を1人で管理しているため、各寺で日をずらして行っている。 *Lên động* は、毎年旧暦の1月と12月に行われる。バードンはハノイから呼んでくる。名前は *Trần Thị Mỹ*、60歳くらい。西湖府の近くから来る。ハノイからも参加者がおり、レンドンの費用は彼らが持つ。男女の差はない。今年は旧暦の8月にも来る。

*làng* のタインホアンは *Đại Càn Quốc Gia Nam Hải, Nhi Vị Công Chúa, Tử Vị Hồng Lương*。

*làng* の主な生業は水稲耕作。現在は3期 (2 vụ cấy 1 vụ đông) 冬は、ブンを作っている。大体、住民の8割が従事。他には *dưa, thị, ngô* などを栽培している。現在の人口はおよそ1200 *khâu*、191 *hộ* である。最近は10数名が韓国などに出稼ぎに行っている。

*Trần Xuân Khe* によると、*làng* で陳ブンホには181人の成年男子 *xuất đình* がいる。始祖の祠堂はナムディン省ミロック県ミチュン社 *thôn Đê Nhất* にある。始祖 *Trần Huyền Chinh* には3人の息子がおり、この *làng* を最初に作ったのが長男の *Trần Văn Lăng* である。400年以上前である。次男は *Đê Nhất* に残った。始祖のゾーは旧暦の5月20日である。

2006/08/09

参加者：桃木、大谷、牧野、吉本、Luân

7:19 出発。博物館の *Việt, Hiến* など3人同乗。

7:45 *Nhà Văn hóa thôn Phạm xã Đình Xá* に到着。幼稚園も兼ねている。入口上部に2005年と書いている。社の幹部も到着している。まずはいつもの挨拶。レ族の代表者として、*Lê Thanh Toàn* (1940年生)、*Lê Thị Mùi* (1936年生)、*Lê Thị Mai* (1938年生)、それ以外に党支部書記長 *Nuyễn Thị Thanh* (1946年生)、*Phạm Văn Thanh* (1932年生) がそれぞれ出席。社の幹部による紹介などの後、トアンによる現在所有している家譜の数などの説明。碑文が5基、家譜のコピー (原版はハノイ)、勅封7枚がある。レ族は5つの支族に分かれており、トアンは第4支族の成員である。現在は2つの支族しか残っていない。家譜や祠堂を管理しているのはトアンである。始祖がラムキン *Lam Kinh* にいて、そこには現在でも1つの大きな支があつて、碑文が残っていて、初期の祖先たちの墓がある。ハタイにも支があ

る。亀の上に碑文がある。この土地のレ族について：レタントンによって土地を与えられた **Phổ Mã Lê Duy Đạo** とその妻 **Thiên Đào Công chúa** が住みつき、開墾した。現在、**Đình Hạ** に **công chúa** を **Đình Thượng** に **phổ mã** を祀っており、それが村のタインホアンになっている。昔は5支の全てが祠堂と **Nha Tho** を持っていた(?)なぜ王は土地を与えたのか? ; 賊を討って貢献したので。

以下、桃木聞き取り：黎族はこの村に何人いるのかと聞いたところ、戦死などによって男は自分しかいない、女は2人だけだと言った。ただし現在でもテトや清明節の際に村から出た **thoát lý** 成員が帰ってくる。祠堂のことについて尋ねると; 昔は3間の大きさがあったが戦争などで壊れて、今は1間しかない。この村には、黎族が2つ、阮族が2つ、范族が2つあり、それぞれ **to**, **nhỏ** をつけて区別している。横に座った **Luan** が、「黎族が一番古いなら、なぜこの村はファムサー范舎なのか」と聞いたところ、答えはよくわからなかった。トアン：ファムサーチャンがいた。それはファム「犯」、サー「謝」にあったものだった。そこから村をファムサーと呼ぶようになった。残っている史料のなかにレ朝後期の **Chúa Trịnh** の支がひとつある。それぞれの史料は博物館の **Hiển** に渡してある。

トアンの家族について聞いたところ：妻はこの村の出身者である **Phạm Thị Diễm** 現在50歳である。子供は4男1女である。第1子は男1965年生まれ、第二子は男1967年生まれ、第三子も男1972年生まれ、第4子は女1982年生まれ、以上は全て結婚しており、ハノイに住んでいる。第5子は男、現在6歳である。トアンは、14歳で **Bắc Thái** の **trường tiêu sĩ quan** に行き、16歳で終えた。それからは **tre mó** の仕事をした。1960年に革命に参加した。その後、ハノイに居住しこの村に帰ってきたのは9年半前である。

家譜など史料の原版はハノイ在住のハノイ国家大学教授(化学)、博士である **Lê Hùng** に預けている。村は環境が悪いので。この人物は(トアンの)父の弟の第一子である。

次に女性成員への聞き取り。2人ともトアンにとっては **cô** であり、トアンは **cháu** である。**Mùi** の夫は **Lê** 姓ではない。既に亡くなった。現在はハノイに暮らしている。子供は息子が1人、41歳である。ハノイのホアムキエム区で働いている。その子供である孫は男で現在5歳である。**Mai** の夫は **Nguyễn Công Văn** (70歳)、定年退職している。夫婦は共にハノイに住んでいる。子供は女が2人、どちらもハノイに住んでいる。長女は48歳、10歳と4歳の子供がいる。次女は44歳、ハノイで経理の仕事をしている。

府 **phủ** について尋ねたところ：昔はレンドンも盛んに行われており神輿がでた。今では見るだけである。3月にはフーザイに行く。

次に **Thanh** への聞き取り。タインの夫は **Lê Thân**、1942年生まれ。既に定年退職している。タイン自身は **cấp 2** を卒業した。現在の仕事は何年続けているのか、と尋ねたところ、25年と言った(?)。結婚したのは1964年。2人の息子をもうけた。最初の子供は **Lê Trung Anh**、

1967年生、現在ハイフォンで仕事をしている。既に結婚し2歳の子供がいる。タインの次男は Lê Quang Binh、1988年生、cấp 3を卒業したばかり。大学に進学する予定である。Thônの人口について尋ねると：336khẩu といった？

ファム・ヴァン・タインへの聞き取り。1932年生まれ。范族は昔は5支あったが今は4支、自分はその第二支に属する。家譜は残っていないので何代目かはわからない。が、この村が出来たときには范と黎の2つの姓があったんだ、と自分は言い伝えて聞いた。現在は族長はハノイに行ったきり戻ってこない。祠堂はむらに残っている。始祖がPhạm Trần Tính、その命日が3月6日である。墓は再建したものがある。その一族は村外にも大勢いて、ゾーにはたくさん集まってくる。自分は1950年の7月1日から82年まで軍隊に行っていた。そのうち1951年から中国で訓練を受けて、ディエンビエンフーの戦いに参加した。砲兵だった。抗米戦争の時にはB2戦区に行っていた。子供は5人いる。第一子は長男でフエにいる。二子は女でホアビンにいる。三子も女でタイビンにいる。四子は男でハノイにいる。五子は男でダクラク省にいる。

勅封の写しを撮影（桃木他）。ただし、同じものでも年代（日付）が異なるものが複数あった。

9:05 「文化の家」の近くにある祠堂に移動。方角は正面が南西。中に漢字の碑文が6つ、クオックグーの碑文が1つある。それぞれの位置は、祭壇の上に3つ、祭壇の足元左右に書く1つ、右手前の壁際に1つ、左手前の壁際に国語のものが1つ。それぞれ写真撮影。

屋根：堂祀族黎

入口右：発跡藍山留萬古

左：廟堂范舎祀千秋

9:30 亭へ移動。正面が南東。門の左壁に国語で記された碑が埋め込まれている。トアンの祖父の妹にあたる Lê Thị Quyên、110歳（当時）とディンの Dóc Định とで門と壁を修復（Dóc Định và con Đường Vào Định Hà Xây Tường Điều Lát などとあり）。1993年5月22日に施工し、1998年8月22日完成と刻まれている。最初に手前の建物を調査。ティエンダオコンチュアを祀る。左右の壁際に碑文があった。後神碑。それぞれ写真撮影。ふたつとも訳ないし解説が書いた紙が下がっていた。左の壁際にムイが妹のマイと2人で4,000,000ドンでつくった碑があった。上から順に、父 Lê Văn Trán、母 Trần Thị Thế、そして烈士である2人の弟 Lê Văn Quyên と姉 Lê Thị Phận の名前が刻まれていた。年に数回この場所を訪れるが、中に入るために村で会議を開いて許可をとらねばならなかった。この村には昔4つのザップがあった。（ヴィエット）

門：歳萬躬聖

門右：供菓心誠求興旺

左：□花敬礼禄財般

建物内部額 左：李冬恭進

中心：聲靈振

右：保大癸酉年

奥の建物は入口が北西。これが Định Thương だと説明され、手前の建物は殿だと言われる。タインホアンは Đông Hải Đại Vương 。右側壁にクオックグーで記されたプレートのようなものが貼り付けられており、そこに 1841 年重修とある。最初に建設されたのがいつかは不明。前庭からは Châu 川が流れる。その向こうの村は Lê Xá 社で 3km 先には Núi Đồi がある。そのあたりが Trần Quốc Vương 先生の故郷である。

棟木：至己酉年閏戌月初肆日四回？重修堅柱上禄大吉旺

額 右：扶老人恭進

中心：祀靈顯

(カウドイは桃木が筆写し別ファイルに記録)

10：27 車で移動。Chùa Thái の近く、農道の用水路に面した路肩に埋没した墓石を撮影、しかし失敗。トアンになぜ別の場所に移さないのかと尋ねたところ、公道であるため掘り起こすには許可が必要であるからだという。

10：39 Chùa Thái には入らず終了。

10：45 トアンほかと別れ車に乗る。近くに教会とカトリックの墓地があった。

2006/08/10

参加者：桃木、大谷、牧野、吉本、Luân

7:19 出発。昨日の 3 人が同乗。国道 21 号線から行く。途中で県の NVH に寄り Phương をピックアップ。

7:47 国道から左折。

8:04 Chợ Vọc を横切る。

8:10 社の UBND に到着。ここは元々、ディンだったらしい。

8:15 会議室で挨拶。

社主席：Trần Văn Toàn

副主席・文化担当：Đình？



他が出席。

主席に社の概況についてききとり。面積は約 10km<sup>2</sup>、人口およそ 1 万人、thôn または xóm が 22 ある。主な生業は 1. 稲作、2. 酒造り rượu gạo。昔から酒造りはあったが、このように村を挙げて作るようになったのは最近のことである。ハノイ、ホーチミンのほか、カンボジア、ラオスにも輸出している。社の宗教は仏教のみ。打ち合わせて今日の午前は Đệ Việt 村へ行き、明日の午前に xóm Trung のディンカー đình cả と xóm Tiên のフーヴー phủ Vũ に行くことになった。

8:43 乗車し、thôn Đệ Việt へ。

8:47 ドヴィエト村のディンに到着。党支部書記の Trần Văn Tóat、Trưởng thôn の Trần Thế Dũng、陳氏の族長の Trần Văn Ba (1942 年生)、Trần Văn Hoàng (1930 年生)、Trần Trung Vũ (1935 年生)、他多数。ヴィエトが、3 年前にハナム省博物館がこの村の文化財調査を行ったと言った。ドヴィエトにはこのディンと chùa がある。ただしチュアは元の場所から移動させ、最近修復したものである。伝説ではこの村には進士が 2 人いた。陳榴チャン・ルーの話が出てきて、チャン・ルーとチャン・ライがレ朝を助けて明を討って、その功績をたたえられてこの村を賜った。この 2 人の人物はひとつの袋から生まれたと言う伝説がある。

この村は人口 254 人、個数は 64 世帯、家の建物の数は 50 軒。村には主なゾンホが 8 つある。1. 陳族、2. 劉族、そのほか、阮や武がいる。村は昔はひとつのソムだったが現在は 2 ソムに分かれている。また、昔はザップが 2 つあった。それはザップ・ニャット giáp nháp、とザップ・ニ giáp nhi である。チャン氏は支がいくつあるのか、と尋ねたところ：3 ngành、と答えた。バーはガイン・ハーイ (2) に属しており、ガイン・ニャットが誰もいなくなったので、自分が族長を務めていると答えた。祠堂のことを聞いたら：族全体の祠堂と、各ガインの祠堂がいずれもある、と答えた。成員の数を聞いたら：100 の xuất đình がある、と答えた。トーのゾーは旧暦の 7 月 24 日で、もうすぐである。このときにはむらの外に出た成員も集まる。バーは 13 代目、現在一族には 16 代目までいる。

Luan が Tran Luu の庄園の痕跡が残っているか、と尋ねると：まずバーが、自分の家の場所が先祖代々暮らしていた場所だ。祠堂の前の池は古い。コン côn・スオン xương がある。ゴー gò・マー ma もある。このディンはもともと 100 メートルほど東にあって、そこには今 miếu があって、その下にはお墓があると言われている。そのお墓には銅の棺おけが今でも残っているとされている。昔、7 代目のガイン・ニャットに cụ đồ Ninh という人がいて、朝廷で先生をしていた。村の境界がはっきりしていなかったのを、この人が朝廷から土地の管理権を与えられて村の境界を定めた。

劉族の代表、Luu Ngọc Cân (1947 年生) への聞き取り。劉族は元々 3 ガインあったが今はガ

インだけである。族全体と2つのガインそれぞれに祀堂がある。族は現在、94人の成員（女子供もあわせて）がいる。先祖はハノイから来たといわれている。家譜は残っていない。ディンの lễ hội について尋ねると、旧暦5月17日にある。昔はたくさんあり、また御輿だしたり、大掛かりにしていたが、今はしていない。ディンがここへ移ってきたのはいつだと尋ねると：100年以上前だと答えた。

奥の祭壇に位牌が3基（桃木が筆写。別ファイル）。勅封の撮影。

古老2人に対する聞き取り：言い伝えによると村には9つの gò がある。一つ目はここディンのある場所で、ここは còn quý という。もう1つは còn Tượng、còn Xá? などがある。他はよくわからない。村の生業は男は Thọ mộc。昔はきこり Xê? に従事して、ラオカイやイエンバイに出稼ぎに行くことが多かった。Hường 自身も30年きこりの仕事をした。この村は貧しい。自分たちの祖先がチャムであるということは、おじいさんたちがそのように言っていたのを聞いたことがある。考古学者の調査団が来た時、その考古学者が家譜の上では自分たちの祖先はチャム人だと言っていたと聞かされた。その前はそのようなことは誰も知らなかった。1951年にフランスによって家譜が沢山焼かれた。かなりの多くの家譜が消失した。11人亡くなった。Định làng Vũ に遺跡（痕跡）がある？

女性への聞き取り：村の稲作は2期。1月に田植えをして5月に収穫する lúa chiêm と6月に田植えをして10月に収穫する lúa mùa。冬はジャガイモ、サツマイモ、とうもろこしなどを栽培する。現在は1人2 sào の水田を持つ（Trần Thị Hiên、50歳）。

ディン内部

額：祀公國開

カウドイ左 右上：龍飛午寅秋

藍山挺出中興將

右 左下：陳光顯拜進

皇越榮褒上等神

壁 左：松口遺廟越江清

右：戈馬高勳藍岳峙

棟木：龍飛癸未年拾貳月吉日重新修□

10:30 歩いてお墓で、下に銅の棺おけがあると言われる場所に行く。

左：萬古骨猶香

右：千年名不朽

10:35 chùa Độ Việt に移動。この場所は元はデンで、水神を祀っていた。5年前に改築して、チュアを造った。村人がお金を出し合った。2000万ドンかかった。入口は南東に面し

ている。

女性への聞き取り：旧暦の1日と15日にチュアに行く。この寺に住職はいないので、chùa Đò Qué の Thầy Thành (女性) を呼んでくる。彼女が7つのチュアを管理している。この寺では旧暦の13日に lễ をする。村人は死んだ後にはここに帰ってくる。寺守は Vũ である。

トンの中には学校がないため、子供たちは社の学校に行っている。大学卒業者は陳族にはいないが劉族にはいる。高学歴者は少ないが抗仏抗米で活躍して中將になった人がいる。梁族であるという。

屋根：聲靈濯赫

外柱左端：灵寺輝煌金世金

中左：清浄本無□大贅安心開世界

中右：尊敬居第二永重經典度群生

右端：越人□世玉豪光

中 岳：通寺靈

柱正面 左：座下灵通古夕断西風二月景

右：瓶中揚柳分来南海一枝春

側面 左：人間鳴望從善道

右：佛子尊□向禅門

棟木：越南庚辰十二月初一日豎柱上□大吉旺

右：接功德十方

左：丁財廉兩旺

11:20 陳氏の祀堂へ移動

バーが先祖の命日を書き連ねたノートを持っており、それを世代別に整理した、裏表1枚の家譜の下書きのようなものを見せてくれた。撮影を依頼したが、明日よりいいものを見せてやるからと断られた。

屋根：族陳大

入口左：族堂廟宇萬年春

右：歴代祖宗平古在

11:32 終了。車で帰途につく。途中県の「文化の家」でフオンを降ろす。

12:10 ホテル到着。

2006/08/11

参加者：桃木、大谷、牧野、吉本、Luân

7:21 出発。博物館の Việt、Hiên、Đức の3人同乗。

7:37 ビンルック県の NVH に到着。そのまま2階の会議室。いつものフオンに加え、県文化通信室室長の Đặng Thanh Bình と副室長の Nguyễn Mạnh Hùng が参加。ベトによる挨拶のあと、桃木が挨拶とこれまでの報告。その後、ビンより、県内に21の社もしくは thị trấn がある、総人口は18万人、戸数は4万戸、425の Đơn vị di tích がある。そのうち、21件が文化省またはハナム省の指定文化遺跡になっている。銅鼓で有名なディン・ゴック・リューなど。ビンより、Nguyễn Khuyến の祀堂にはよるべきだと言うので、それに従うことにする。

8:10 出発。

8:15 旧 làng Vị Hạ に到着。Nguyễn Khuyến の祀堂を見学。1992年1月22日付の Di tích Lịch sử Văn hóa の公認書があり、場所は Xã Trung Lương となっている。祀堂にいた女性、Lê Thị Thúy Hằng (1948年生)に聞き取り：阮族は5つの支があり、この祀堂を管理しているのは、5代目で、第2支に属している Nguyễn Thanh Tùng (1944年生)。ハンはその妻である。

8:35 出発。車中でドゥックに聞き取り：この辺りでは、日雇い農作業のうち、草むしりの労賃は1日あたり3万ドンから4万ドン、稲狩りも同じくらいである。同じ村の人たちが労働交換をする場合もある。

9:05 Đình Vọc、正式には Đình làng Thanh Thị に到着。入口は南向き。古老たちの前でいつもの挨拶。まず、このディンの場所はどこになるのかと尋ねる：thôn Trung ないし xóm Trung Thôn、その上の単位が thôn Thanh Thị。昔の名前は Trung Hòa thôn。1947年末にフランスがやってきて、カウドイや勅封は全部消失してしまった。

Đặng Xuân Kiều (82歳)への聞き取り：ここは xóm Trung である。Thành Thị 村には以前は全部で8つの xóm があったが、現在は5つの xóm がある。村にはたくさんゾンホがある。大きいのは阮 Nguyễn、陳 Trần、鄧 Đặng である。鄧氏は4つの phái があり、キエウは第4 phái に属している。成年男子の数は約400人。Ông tổ の名前は Đặng Đình Tường、ハタイのチュックソン Trúc Sơn の出である。この人のゾーはよく覚えていない。この村にも鄧氏の祀堂がある。ゾーはたくさんあるので、現在は清明と旧暦の8月20日に quy lại している。

Đình の lễ hội についての聞き取り：3節ある。旧暦の1月20日は Trần Thủ Độ のゾー、4月1日は Trần Cảnh のゾー、8月20日は Trần Hưng Đạo のゾーである。

Trần Văn Hậu (65歳)への聞き取り：Thanh Thị 村の人口はおよそ3,100人。主な生業は農業そして酒造りである。陳氏の成年男子の数は約300人である。

後宮に位牌が 3 基。左がチャンフンダオ、台座はグエン朝初期のものである。右側はチャントゥド、ただし位牌は消失、台座はレ朝後期のもの。正面がチャンカイン（チャンタイトン）のもの。これらを桃木、大谷が撮影。中堂と前堂に後宮に棟木あり、大谷が撮影。カウドイも大谷が撮影。

ルアンが古地名の聞き取りをしているところに桃木が加わる：ディンの側で 1973 年にレンガを取るために土を掘ったらたくさんの陶磁器の欠片が出てきた。この村で Lý Triều Quan リーチウクワンという李朝の công chúa、これはリー・フエ・トンの末娘である、が兵を集めて陳朝に抗したが、チャン・トゥドに敗れた。その時に兵士の訓練のために相撲をとらせたのが、村の伝統になって現在もレーホイの時に行っているのである。

このディンの場所は *nền Thượng Phụ* と呼ばれていて、それはチャン・トゥドの称号に由来する。この場所は *sông Ninh Giang* と呼ばれる川に近い。

村の中に *nền vua Nguyên Tô*、*nền vua Chiêu Hoàng* という地名が残っている。*Miêu Tô Cao Mang* がある。また、村内の地名で、*Đông Nhà Vua* がある。また、*Dinh Vua* というのがあるか、と尋ねるとないと言った。更に、チャン・トゥドの妻はどこに祀られているのかと尋ねると：*đền Nhị* に祀っていたがフランスによって破壊されたので今は *chùa Điều* に祀っている。元々デン・ニには 4 人の *bà chúa* を祀っていた。

9:55 *Đình* に隣接して建っている寺で聞き取り：この寺の *thầy* は *Đặng Văn Lâm* (70 歳)、男性である。この寺は 4 年前に新しく建てたもので、古い寺から像を持ってきた。ラムはこの寺と同じ村にある *chùa Điều* の 2 つを管理している。この寺の儀礼は、1 月 15 日、3 月 15 日、7 月 15 日、12 月 15 日の 4 節ある。隣にある *mẫu* ではレンドンをしているのか、と尋ねると、やっていない、と言った。*Ông tỵ* は *Nguyễn Văn Xiêm* (75 歳)、隣接するディンも守っている。シエムによると、祭壇の真ん中にある像は玉皇上帝である。

*Chùa* に隣接する *phủ* での聞き取り。*Trần Thị Dằm* (51 歳、野帳に *phụ bếp con nhang* とある) への聞き取り：フーの中心で柳杏公主を祀る。前の 3 柱の女神はなんと言うのかわからない。左右に 2 柱の像があり、*cô* と *cậu* だという。レーホイは毎月行っている。レンドンも年に数回行われており、3 月に行うレンドンがメインである。この村には 2 人のバードンがいる。1 人が *Trần Thị Ký* (82 歳) が *chương* (→*trưởng*?) *con nhang* で、*Trần Thị Đô* (52 歳) が *phó nhang* である。このフーを建てたのはチャン・ティ・ドである。この 2 人は昔からレンドンをやっている。いつからかはわからない。レendon は毎年数多く行われる。

10:10 歩いて移動。ディンから出て南に向うまっすぐな道の左手にある小高い土地が *nền*

nhà cương という土地。その反対側、つまり道の右手が cột cờ。更にまっすぐ歩いて右折。少し行った所の左側の墓地の場所が khu cột giữa、右側が go ma đầu。その先で左折し、chân thành nội、chân thành ngoại という土を持った城壁の痕跡を越える。そのときに左手の田んぼの中の赤い墓が見える辺りを còn quy と呼ぶ。次にその先で用水路を渡り、南に進んで寺に着く。

10:35 chùa Điều に到着。この寺の場所は xóm Đông Tự。用水路のむこう側は thôn Gia Hội。寺の棟木・カウドイを大谷が撮影。柱には洪水のときの痕跡が刻まれていた。これも大谷が撮影。寺の前の碑文も大谷が撮影。寺男について、寺にいた老婆 Nguyễn Thị Thanh (74歳) に尋ねると、Trần Văn Miên で自分はその妻だと言った。隊に同行していた村の男性によると、寺の右側にある祭壇の下が huyết long mạch になっている。更に、この寺の裏にはある人物が埋葬されており（現在の残されたまま）、地理師 thầy địa lý によるとその子孫は官僚などになって繁栄しているらしい。ただし、ここに埋葬されているのが誰なのかは特定できていない。

隣接するフーで Bà Dương công chúa、李朝の公主、の勅封を撮影。ただし聞き取りによるとフーでは柳杏公主を祀っている、という。前の3柱はわからない。バードンはいる。名前は bà Thận (70歳)。レンドンは3月と8月。3月は母の祭り、8月は父の祭り。位牌があり、紅娘公主と書かれていた。功德碑をみると、5つの xóm, すなわち、Đông Tự、Trung、Liễm、Bắc、Hậu とそれ以外の全国各地の人々からの寄進が確認できる。

11:12 再び歩き出す。用水路に沿って東に向って歩く。途中で、古老が用水路の反対側を指して Gác Chuông と vườn hoa だと言った。その先を左に折れ、最初に歩いてきた南北に伸びる道を歩く。Nền nhà cương の手前で右すなわち東に折れて、レンガや陶磁器がたくさん出土したと言われる墓地へ行ったが今は何もない。そこから村の中を北へ歩いて、次に左折し、元にディンの手前まで戻る。ディンより手前で右折すなわち北へ。田んぼの向こうすなわち東側に、現在 văn chỉ があり、その場所が元 nền vua Nguyễn Tổ である。その手前の区域が、今通っている東側が Đông Thượng Phụ、西側が Tây Thượng Phụ。ここで車に戻って、古老たちに別れの挨拶をし、乗車。

11:42 Chợ Vọc の先で古老の1人に止められ、下車。Đống Nhà Vua を見て再び乗車。フー・ヴーphủ Vũ へ向う。

11:46 フー・ヴー到着。この場所は làng Vũ Bị cũ で、今は thôn Miếu である。フーの前庭に碑文あり。碑文の名前が

聖祠碑記

年号のみ残っている。

黎朝永盛萬々年歳在丁亥年冬節穀日

Nguyễn Duy Đạo (76 歳) : この建物の前堂の部分は 100 年しか経っていない。奥の部分は 460 年たっている。棟木・カウドイは大谷撮影。フーは陳守度の兄の安国大王とその妻のティエンホアコンチュア、巨越信侯 (詳しいことはわからない) を祀る。左の壁際に柱上の石碑があり。「義国公世業田」。桃木別ファイルに記録。奥の鍵がなかなか開かなかったが、開いて勅封が出てきた (Luan が撮影。1 枚目のみ大谷撮影)。皆が勅封撮影に夢中になっている隙に桃木が侵入して、奥の位牌を撮影。中央が公主で、左が巨越信侯、左奥に安国大王が並ぶ。

Làng Vũ Bị には現在は 4 つの thôn : thôn Miếu, thôn Tiên, thôn Hậu, thôn Biện がある。3 つの trại がある。Trại Đường Chanh?, trại Đồng Nai, trại Đa Khiếu である。公主のゾーが旧暦の 4 月 17 日 (13 日?) で、これ以外に 1 月 3 日に hội をする。公主が好きだったため相撲などをする。レンドンはやらない。レンドンは柳杏公主のフーではするが、他の公主のフーではやらない。ゾーはこれ以外に 6 月 1 日、7 月 15 日である。昔は大掛かりだったが現在では小規模である。

村のゾンホは沢山あるけれども阮 Nguyễn と黎 Lê が大きいゾンホである。伝説によると昔は阮は李姓だった。その後グエンになった。このフーを管理しているのは Nguyễn Duy Lương である。

フーの裏に寺がある。Chùa Linh で鐘には武鎮鐘寺とあった。Đỗ Thị Na (71 歳) が寺の世話をしている。外側に大きな観音像があった。

13 : 00 フオンが下車。

13 : 15 ホテルに到着。

2006/08/12

参加者 : 桃木、大谷、牧野、吉本、Luân。

7:17 出発。博物館の Việt、そして Hiến の 2 人同乗。省道 971 号線を走る。ディンサー社を通り越して直進。

7:53 Thị trấn Vĩnh Trụ にある Lý Nhân 県の Phòng Văn hóa Thể thao に到着。室長の Nguyễn Trong Long と副室長の Toàn にあいさつ。

8 : 13 ロンを乗せて出発。971 号線を進んで、8 時半に紅河の堤防道に上がる。この辺りの堤内から Ngọc Lũ 銅鼓が出土した。ベトにこの辺りに水上民がいるか、と尋ねると、いる、と答えた。

8 : 46 Phú Phúc 社の UBND に到着。2 階の会議室でご挨拶。

社副主席兼文化社会担当 : Trần Văn Mừng

社文化社会幹部 : Lê Phú Hiệp

4 人の老人 : Trần Xuân Nguyễn (85 歳)

元合作社主任 : Trần Quân Luân (78 歳)

Đỗ Đình Bôi (84 歳)

Trần Thanh Mai (81 歳)

宗教工作担当

に挨拶。以下、Mai が説明をした。

ここはどこだと聞いたら、thôn Lý Nhân Ngoại ないし thôn Lý Nhân Thượng と呼ぶと答えた。また、ここには元々 bà My Ê の đền があり、現在でもその門だけが残っている。その由来について : 李仁宗の時に Chiêm Thành がわが国の国土を侵したので、仁宗が親征して Chiêm Thành の王を殺し、妻の My Ê を連れて帰ってきた。船で Lý Nhân に戻ってきた。ある将軍の宴席にはべらせようとしたところ、貞節を重んじる My Ê (以下ミエ) は入水して自殺した。その王様はミエの貞節に感服して 10 人の兵士に埋葬させた。その結果、この Lý Nhân には「nội 内」と「ngoại 外」に 2 つしかなかったのが、その墓守として兵士を住み着かせたために、新しく làng Chục Mãn が出来た。それが現在の làng Phúc Mãn (フックマン) となっている。そのため、フックマンには Lý Nhân Nội (以下、LN 内) と Lý Nhân Ngoại (以下、LN 外) にはないようないろいろな姓の人がいる。

Miêu Kiệu の話 ?

伝説について。貧しい男性がいて、ミエの霊に取り付かれ死んでしまった ? LN 内ではミエを、LN 外ではこの男性を祀っている。

昔は勅封があつて、そこに聖母夫人上等神と書かれていた。現在はこの勅封は残っていない。

ミエを祀っているデンは đền ba thôn という。ba thôn つまり、LN 内、LN 外そして Nhân Thịnh 社の thôn Lam Cầu のことである。

ミエの肖像があつてそれはダム老人が毎年描きなおさないといけない、彼以外の人がその絵をみると目が痛くなると言われている。デンには井戸があり、それは làng Hữu Bị と地下で繋がっている。また御輿があり、独身の男女がそれを担ぐ。

昔のデンのレイアウトについての説明。前堂を南面して 7 間あつた。真ん中のお堂は四角形で、奥のお堂には 5 間あり、後宮がついていた。このように 3 つの部分からなる主たる建物があつて、更に 4 つの小さな建物があつて、それらはそれぞれ 3 間あつた。ここでは



お祭りの時などに、前に挙げた 3 村とフックマン村の村人が待機する場所として使っていた。8 月革命時にもデンは元のまま残っていた。その後、手前の 7 間の建物を学校にして、*bình dân học vụ* (すなわち識字学級) にも使った。正門のところでは様々なミーティングが開かれた。それから *đền ngoài* は UBND の本部になった。そして、学校の建物になっていた部分は、1967 年、68 年に子供を疎開させた時に壊してしまった。祭祀道具は *chùa Lý Nhân* に移し、その後 *đình* を再建した際にそこに移した。それらの道具のうち位牌は現存している。ミエの墓はここから 500 ないし 600 メートル離れたところに残っていて、今は *miếu* だけが残っている。

以下、Luôn による発言。1947 年にフランスが侵入してきて 1951 年 12 月 22 日に撃退した。ラムカウ村のデンはディンは壊して、学校や *trạm ý tế* などにしてしまった。LN 内とフックマンのディンは残っている。LN 外のは再建した。

祭りについて。1945 年まではデン (ミエ?) の祭りは国家の祭りで、王が指導していた。祭りの日は旧暦 3 月 10 日に *lễ chính* が行われて、祭り自体は 3 月 20 日まで、すなわち 10 日間続く。

ボイ：3 月 7 日の夜間に *mở hội* する。

マイ：Day đất がフックマンからタンロンまで繋がっていた？それが八月革命まで続いていた？

グエン：ミエの墓はフックマンにある。ただしそこは儀礼をやるには狭いので *đền thờ* はここに作った。

副主席ムン：社の成り立ちについて。今の社は元 3 社 (*Nhân Phú, Phan Phúc, Nhân Long*) あった。もっと前は 5 社あった。現在、2,430 戸、人口は 10,126 人。47 パーセントが堤外で、53 パーセントが堤内。耕地面積は 1,197 ヘクタール。人口の 80 パーセントは農業に従事、15 パーセントが手工業、その他。宗教は 2 つだけで、キリスト教 (カトリック) が 1,700 人、残りは仏教徒である。現在は、6 の *thôn* と 14 の *xóm* に分かれている。6 つの *thôn* とは、*Lý Nội, Lý Ngoại, Phúc Mãn, Thanh Nga, Duyên Hà, Phú Quốc, Miếu, đền* などの宗教建築が 34 件ある。また、ここから紅河までどれくらい離れているのかと尋ねると、約 1 キロメートルと言った。さらに、水上民がいるのかと尋ねると、ここにはいない、と答えた。

ここからまた古老たちの発言で、ゾンホの話になった。まずは LN 外のゾンホの話になった。マイの発言。LN 外では、主なゾンホは *Trần Ngọc* である。2 支あって祀堂も残っている。先祖はゲアンから来た。自分は 11 代目に当たる。先祖のゾーは 6 月 12 日である。黎朝景興年間に官吏になった人がいた。自分の一族は地主だったので、土地改革のときに史料はすべて没収されてしまった。同じ LN 外のゾンホとして *Trần Trọng*、祀堂がある。3 番目以下のゾンホとして *Trần Xuân, Nguyễn Khắc, Trần Văn* などがいる。

LN内のゾンホについて。ここには3つのゾンホがある。しかし家譜は残っていない。最大のゾンホはTrần Quangで、5 chiある。祠堂は再建した。他にNguyễnとTrần Vănがあり、いずれも祠堂がある。

ボイ：フックマンの住民の先祖はカンプチアである。村にはゾンホが5つある。それらは、Đỗ, Phạm, Trần, Nguyễn, Ngôである。

村にカトリックが入ってきた由来について、マイが説明したが聞き取れず。とにかく20世紀のことだといっていた。それに対し、そんなに新しいのか、とLuanが聞いていた。

10：20 乗車して移動。

10：33 ディンに到着。Đình Lý Nhân Nội。ここで奥から位牌を出してもらい。わざわざ箱をこじ開けて表に出してもらい撮影する。カウドイ・棟木など大谷が撮影。牧野・桃木が筆者・撮影。

11：20 đình Lý Nhân Ngoạiに到着。ここでも左右に位牌が各1基あって、右は大谷撮影、左は桃木・牧野が筆写。カウドイ他は大谷が撮影。

11：50 寺。漢字で清涼寺、ノムはchùa Lý Nhân Thượng。手前の建物の左側がフーになっていた。祀っているのは1柱だけで、それは何かと尋ねると、đề nhật thiên thiên thánh mẫuといっていた。同時に、Tam tòa thánh mẫuで柳杏公主、水宮、上岸と言っていた。右側には神の台座が置いてあり、それがもとのデン・ミエの儀礼道具だと言っていた。Ông từはTrần Minh Khênh (66歳)。レーホイについて、チュアが8月11日で、フーは7月。レンドンはしていない。

この建物は寺のほうのフーのほうも棟木には成泰11年と書かれていた。

12：14 乗車。すぐ堤防上で社から来てくれた2人を降ろして帰途につく。

12：43 TT ヴィンチュエを通り過ぎたところにある飯屋で昼食。

14：30 県のロンをPVH-TT-TTで降ろして、フリーに戻る。

15：07 ホテルに到着。

2006/08/14

参加者：桃木、大谷、吉本、Luân

7:15 出発。博物館のViệt、そしてHiên、Đứcの3人同乗。省道971号線を走る。

7:55 リー・ニャン県文化通信一体育室に到着し、一行は下車せずに室長のロンをピック

アップ。8時12分ごろ堤防道を走る。紅河の向こう岸は Thái Bình 省である。

8:20 Nhân Thịnh 社の UBND に到着。いつもの挨拶。社主席の Ngọc と PCT の Toan が参加。社について尋ねると、ここは昔 xã Lam Cầu で、現在は xóm Lam Cầu 1 と 2 に分かれている。

8:37 乗車。42分頃、NVH に到着。元のディンだったという。トアンが同行し、ここで老人4人が待機。Huu、Đặng?、Son、Thiêm。そして2人の thôn trưởng が参加。

以下、主にヒューが説明。

この村は、黎朝以前は làng Chàm Thôn といった。このチャムとは、xanh tươi という意味だといった。黎朝から xã Lam Kiều で、それが後に Lam Cầu に変わった。1945年以前は1社1村であった。1945年以降は現在の xã Nhân Thịnh に入っている。

次に寺について。Chàm Thôn Bào Sãi と言った。ディン亭は My E を祀っていたが、フランスによって破壊された。デンは đên vua thiên đá という神を祀っていたが、これもフランスによって破壊された。1949年のことか？

その神は何だと尋ねると、黎聖宗がこの地に来たときに赤い石が道を邪魔していて、これをどけたものに褒美をやると言ったところ、この王が帰途についているときには石がどけられていたので、どけた人物を祀った。ただし、後にここに My E を祀るようになったので、この神は thổ thần すなわち土神に降格した。

次に：Văn chi があつたが、堤防建設によって破壊された。お寺には明命18年の石柱碑がある。明命12年の釣鐘がある。また、カウドイが4つある。お寺はいつからあるのかはわからない。堤外に còn chùa という場所がある。今の場所に移転したのは嘉隆丙子のことである。勅封は残っていない。伝説では、堤防からこちらに入ってきた道は đường bển と呼ぶ。昔は紅河がここまで流れていて、bển (すなわち船着場) があつた。また Ngòi lòng sông があり、これは我が村と隣の xã Do Đậu との境である。Nền đình cũ が残っており、そこから今の場所に亭を移したのは、黎朝の官僚だった Trần Tất Tố である。

他に村内には、いつの時代のものかはわからないが、ma cá, ma đồng bà, ma con voi, đường cò ngựa などの地名があつた。

次に陳氏のことについて：陳氏の始祖は Trần Minh という人である。伝説によれば、陳朝の thứ phi がここに逃げてきてこのチャンミンを生んだといわれるが、定かではない。チャンミンはレロイを助けて、1443年に Thái bình hậu の爵位を与えられた。家譜が残っているが、ナムディンにいる族長が持っている。それは何代目だと尋ねると37代と答えた。

次に My E の由来を大越史記全書に基づいて説明。リーニャンの行殿で入水自殺した。リーニャンの行殿というのは、Nga Khê という場所にあつた。それは今の xã Nguyên Lý である。

(この部分は根拠不明) その死体は Phúc Mãn に流れ着いたので、そこに墓を作って占城人に守らせた。同時に、3村のタインホアンに封じた。祭りは旧暦3月10日と6月10日にある。これらの祭りは3村がそろってする。通常は3日間だが、3年に1度だけ vào đám する。

そのときは3月10日から20日までの10日間お祭りをする。そのときは3村がそれぞれ御輿をだして *đền chính* に集まった。

9:25 乗車。28分ごろ下車し、寺に行った。青蓮寺。本堂の前庭に明命13年の石柱碑。大谷撮影。本堂の右の外側の壁に成泰4年7月11日の東甲碑記。大谷撮影。89歳の住職 *Thích Đàm Ngọa*? が出てきた。本堂の右側にフーがある。本堂の中に、右側の階段横に碑文がある。これも大谷撮影。階段の上に釣鐘。皇朝明命拾貳年辛卯拾壹月拾捌日。本堂で勅封その他の文書が大量に出てくる。ルアンが全て撮影、桃木が一部撮影。

10:20 乗車。フックマンへ向う。フーフック社の *UBND* でムンとヒエップを乗せてディン・フックマンへ行った。しかしほとんど何もなかった。

社人民委員会のムンによると村の人口は約1,800人、主な生業は水稻耕作である。宗教は仏教とカトリックで、カトリック信者はおよそ300人という。また、この10年くらいは村で栽培したきゅうりを台湾や日本にも輸出している。紅河からハイズオンまで運ぶ。

11:00 乗車。車で堤外の *làng mộ bà My Ê* に行った。しかしここも何もなかった。*Bà từ* の *Trần Thị Quỳnh* (61歳)によると、祭りは旧暦の1月14日、3月10日、6月10日、12月14日である。また、この女性が毎日、朝の8時か9時ごろに線香を上げる。

この後、社の公安や文化担当も加わって、堤外のビアホイで *bia Nada* を飲み、終了。

2006/08/15

参加者：桃木、大谷、友保、吉本、Luân。

7:00 少し過ぎに出発。省文化通信局遺跡管理委員会の *ヴ・デ・アン Vũ Đại An* が同乗。

7:23 *UBND xã Mỹ Phúc, huyện Mỹ Lộc* に到着。ご挨拶なし。同乗したのは社の文化担当である *ブイ・コン・チャン Bùi Công Chân* (1972年生)。

7:30 出発。乗車して *đền Bảo Lộc* に向う。修築中。前もって連絡が届いていなかったが、急遽連絡を取ってもらい古老らに来てもらう。*Trần Đức Dật* (1926年生)、*Đặng Huy Hải Lâm* (1937年生)、そして *trưởng thôn* の *Đặng Huy Dục*。以下、主にラムの話。自分の著書に基づいて語る。

*Trần Liễu* と *Trần Thủ Độ* が対立して講和した時に、*sông Vinh Giang* を境に、向こう側を *Tứ Mạc* の領域、こちら側をアンラック *An Lạc* の土地にして、アンラックの土地を陳の土地にした。最初は人百戸、田余百畝という状態だったが1252年に *Trần Liễu* が没し、その息子チャンフンダオがこの土地を継承したときには、人余万戸、田余万畝になっていた。1252年

に Trần Liễu を祀るデンを Hoàng Giang (現在の sông Châu) の川岸に建てた。これは3間の建物だった。1300年にチャンフンダオが死ぬと、ここにあわせて祀られ、やがてチャンフンダオの方が主となった。ところが、村が川沿いであって水害が多いので、1525年に村の中に miếu thủy thần を建てたが (その nền cũ は残っている)、水害防止の祈りはかなわなかったので、この川岸のデンは1562年に現在の場所に移転した。1881年にこのデンを拡大することが決定したが、実際に工事を開始したのは1902年で、完成は1929年である。

現在、境内には4つの建物がある。現在いる đền chính (チャンフンダオを祀っている) のほかに、チャンフンダオの父母を祀った đền khai thánh と chùa と phủ がある。ここから600メートル離れたところにチャンフンダオの墓 lăng がある。チャンフンダオは Túc Mạc で生まれたと言われているが、自分はそう考えない。その父のチャンリュウがトゥックマックで最初の妻を亡くした後に、こちらに移って別の妻を娶って、チャンフンダオを産んだのだ、と解釈している。神譜は焼けた。

このデンの現在の ông từ はチャン・ドゥック・トゥーTrần Đức Từ (56歳) である。トゥーによると、バオロック村の人口はおよそ140人で、4つのゾンホがある。大きなゾンホから順に、Trần, Đàng, Xuân, Đào である。チャン氏は村外含めて3支あり、トゥーは第二支に属している。

8:30 デン・チンの後ろにあるデン・カイ・タインに行った。ここがデン・アンラックがこの場所に移ったときの最初の建物であり、デン・チンは1902年から建てたものである。ここには4人の像が祀られている。中央が vương phụ (Trần Liễu)、その奥が Lý Thị Nguyệt (普通は黎氏とするが、李が正しく bà Thuận Thiên の友人であると古老が言った)、後宮には vương phụ の左右に2人の女性が祀られている。右は đề nhất vương cô、これはチャンフンダオの娘でチャンニヤントンの皇后である。左は đề nhị vương cô、これはチャンフンダオの養女で、ファングーラオの妻である。このデンは1935年まで đền Hạ Lộc と呼ばれていたが、バオダイがバオロック Báo Lộc に改めさせた。

次にチュアを見学。天福寺。柱は1525年に建てられたデンのものを転用している。次にフーを見学。フーに祀っているのは、bà Trần Thị Mỹ Huệ で、この人はチャンリュウを助けて死後にタインホアンとして祀られた人である。天仙聖母上等神と呼ばれディン đình・バオロックで祀られていた。ここの柱はディン・クー đình cũ のものである。なお ông từ のトゥーによるとフーでは柳杏も祀るようになり、レンドン、ホーボンなどもやっている。村にはバードンが一人いる。名前は Trần Trọng Thắng? (47歳) である。コンニャン con nhang について尋ねると、その代表?である Trần Đức Từ の電話番号を教えてくれた。

9:02 乗車。車で用水路の向こう側まで渡り、歩いて移動。川へ向う道を đường Phiên Đông という古い道である、と、この近くに住む Chử が言った。北へ歩いてチャウザンの川岸まで出た。向かい側はリー・ニャン県である。この場所に元デンがあったはずだが正確な場

所やプランはわからない。再び歩いて用水路沿いの nhà văn hóa に戻る。これを建てるときにチャントゥアのデンの土台が斜めに走っているのを発見した（東北から西南方向）。ただしここにデンがあったというのは伝承に過ぎない。

社の文化担当であるチャンに社の概要について簡単に聞き取り。社の人口は7,000人以上、そのうちバオロックの人口は461人である。住民の主な生業は水稻耕作であるが、主な収入は副業で稼いでいる。副業とは木工？、đậu tươì を栽培し栽培して豆腐を作るなど実に多様 đa dạng である。ここ5年間の傾向として、若者の8割から9割が近くに出来た工業区へ働きに出ており、800,000ドンから900,000ドンの月給を得るようになってきている。なおチャン自身は社の幹部以外に Prudential というイギリス系の保険会社の外交員という顔を持っている。

9:27 乗車。Lăng mộ Trần Hưng Đạo に行った。ここの後ろの池から色々な遺物が出ている (gạch đầu rồng など)。ランモは現在重修中。昔はその建物はもっと小さかった。このランは bà từ が管理している。現在は Trần Thị Lạc (77歳) である。昨年9月1日からバートゥーをしている。このランは村の高齢の女性が当番として管理している。人気は1年である。毎日、朝の五時と夕方の6時に線香をあげる。

9:46 乗車。陳守度を祀る đền thờ thôn Lựu Phố へ行った。保大2年の棟木があった。元々この地は陳守度の thái áp cũ だった。こちらの場所では、陳守度を祀る場所が2箇所あって、ここが chính で、もう1つ đền Lộc という đền phụ がある。ここの後宮に位牌が4基あった。

1. Thông quốc thái sư (Trần Thủ Độ。位牌のほかに像もあった。)
2. Đức thánh Trần (Trần Hưng Đạo)
3. Quân tiến sĩ
4. Thành hoàng làng (Hà Nhân Giả。この人物は tiến sĩ の父で村の建設に功績のあった人)

前堂には陳守度の像、その後ろに妻の像。この建物の左にチュアとフーがあった。チュアの後ろの祖師堂に碑文「報恩塔」。大谷撮影。フーについて。何を祀っているのかと尋ねるとリュウハイン柳杏だと、ông từ の Trần Trung Triều (66歳) が答えた。真ん中の3柱はタムトアで右から順に đề nhất, đề nhì, đề tam。レンドンはやっているが村にバードンはいない。途中で大雨が降り出しお堂のなかでお茶、バナナ、ザボンをごちそうになる。

10:40 乗車。帰途につく。

2006/08/16

参加者：桃木、松尾、友保、吉本、Luân

7:05 出発。省文化通信局遺跡管理委員会のアンと、博物館の幹部で Y Yên 県出身の Khuong が同乗。

7:35 TT. Gôi で左折。

7:57 社の UBND でご挨拶。社の PBTĐU、CTX、PCT、CBVH の Thánh、途中で県の文化担当で考古学専門の Xuyên が参加。チャンカインズの村はここから 2 キロの場所にある。そこは昔 5 thôn で、今は 3 làng である。この 3 ランというのが、Khang Giang、Nam Đồng、Tiền Thắng で、このうちナムドンが làng Vọng、ティエンタンが làng ? である。明日行く予定の Phúc Chi はティエンタンにあるようである？

8:25 đền Vọng 「望中霊祀」に到着。後宮で線香をあげる時、古老のタム（後述）がお祈りを述べるとき、最初と最後に「アジダオフアット」と言った。線香を上げたあと、dinh Vọng 遺跡保存委員会会長の Nguyễn Việt Thâm (70 歳) と、その兄である ông từ の Nguyễn Việt Tín (75 歳) など古老が続々とやってきて話が始まる。

タムの話：このデンは 1836 年に建設された。1985 年に堤防が破れて全て壊れてしまった。1836 年に建てられた建築は前堂が 5 間、中堂が 3 間、後宮が 3 間あった。この地方で最大だった。1985 年に破壊された後、1990 年に修復を議決して、1990 年に後宮 1 間を造った後、1992 年に 4 間（中堂のことか？）を造った。お堂の前に土地を用意しているが、これ以上の拡大は出来ていない。再建分も既にひびが入ったり、老朽化している。是非寄付をお願いしたい。

話の途中で Dương Văn Vượng が史料を集めていると言及。この言及の後に hòm sách から史料が出てきた。漢字の「神譜」、そのクオックグー訳、1972 年に造ったデンの財産目録、これらを漢字の「神譜」をルアンが撮影、クオックグー版と財産目録は桃木撮影。

開村の話：チャンカインズが名付けた ấp An Trung が阮朝期に ấp Vọng Trung になった。他にもチャンカインズが名付けた村があり、ấp Thạch Nghi が làng Gon に、ấp Đê Nhi が今の？になり、ấp Đông Khê? が xã Yên Nhân になった。

この村（アップ・アンチュン）を開くときは 25 戸を招募した。農業を生業としたが、河口であったので水軍としても活躍した。1302 年の 10 月に開村した。10 年後には戸数も増加した。チャンカインズが致仕してハナムの Dưỡng Hòa に移った後、92 歳で死んだ。この地は nhà tướng の Bùi 氏と Nguyễn 氏がこの地を守った。元の水軍を雲田 Văn Tôn で破った。そしてチャンフンダオが勝てたのはそのウントンの戦いのおかげであり、彼ら（元軍）には武器や食料がなかったからである。

道具の話。元のデンが洪水で壊れた後、残った儀礼道具を chùa Tháp (とチュアヴォン?) に保管してもらっていたのだが、再建後にはそこからここに戻した。例えばこのカウドイは古いものを塗りなおしただけである。後宮に位牌が 3 基。中央がチャンカインズ。向って右側がブイ氏、左がグエン氏である。bát hương が 4 つあって、一番奥が bát hương chính, 手前がチャンフンダオ、一番手前のはお祭りのときに rước するものである。中堂正面はチャンカインズの位牌を置き、中堂の右側に Hồ chủ tịch を祀っている。

レーホイの話。レーホイは旧暦 3 月の 13 日に開始して、14 日にズオック rước して、15 日に tế lễ をする。テーナム tế nam とテーヌー tế nữ がある。ズオックホイドン rước hội đồng は、5 thôn が rước してここに集まる。その中で、đình Khang Giang と đình Gôn は別の神を祀っているのだがやはりここに集まらねばならない。昔 5 thôn があって、thôn Vọng, thôn Khang Giang, thôn Nhuế Dục?, thôn Thích Nhi (Gôn), thôn Đề Nhi この村は今に残っていない。

ゾンホの話。現在村には 18 のゾンホがある。最大のもは Đoàn Định、次に Nguyễn, 3 番が Trịnh, 4 番が Hà, 5 番が Vũ、6 番が Phạm, Bùi はなくなっている。グエン氏は 5 つの異なる họ がある。それらは、Nguyễn Việt, Nguyễn Đình, Nguyễn Vũ, Nguyễn Sĩ, Nguyễn Văn である。タムとティンの兄弟は 7 代目。家譜は gia đình のものだけがある。ドアン氏の老人に質問。ドアン氏は 5 つの chi がある。この老人たちは 8 代目。先祖はタインホアの Nga Sơn から来た。今は全国のドアン氏連絡会を設立中である。

古地名の話。Xứ đồng の話。西北がスードン Tra Lai。東北が địa văn chí、西側が bãi thương, thương sinh と thương quán に分かれる。東が bãi で、南へ行くと đề Hòn Đức 洪徳がある。đề Hòn Đức の向こう側がダイ川である。

村の中の go の地名。Go quy, go ban, go miếu gôn。Mộ ông vệ, mã anh hùng。Thông Đề Nhi には Go mộ tổ họ Bùi があったが今は残っていない。

村人が黎朝後期の陶磁器を数器もって来てくれたので撮影。クオンくんの発言；この近くの làng Gạch で出た陳朝の陶器はハノイの歴史博物館に陳列してある。

ご挨拶の後で松尾が勅封を発見し、一同が撮影。これはチャンフンダオへの勅封で đền Trần のものである。しかしこの勅封は本物ではない。偽物ないしは写しである。

この後、おじいさんが修復費用をほしいと言った。

社の概況について社のタイン：社の人口は 13,000 人（このうち 3,100 人はカトリック教徒である）。社は 8 つの thôn からなっている。デンは thôn Vĩ Nhuế に属している。thôn Vĩ Nhuế の人口はおよそ 600 人で、宗教は 100 パーセント仏教である。thôn Vĩ Nhuế には 3 つの làng、すなわち làng Nhé, làng Lâm Vọng, làng Gôn がある。住民の生業は農業で、副業として帽子や衣服の縫製などが行われている。デンにいたお婆さんたち、Trần Thị Mẫu (56 歳)、Trần Thị



Tâm、Nguyễn Thị Thìn に聞き取り：このディンがある làng Vọng (すなわち làng Lâm Vọng) はドイバートゥー (34 生産隊) で、220 戸ある。ディンでのレーホイは旧暦 3 月 13 日、14 日、15 日でミニサッカーや闘鶏などの催しが行われる。ここは元々ディンがあった場所であるが、洪水で壊れた後にこの土地は居住地として使われた。その後、2800 万ドンで買い取りとった？デンを再建するために住民は最初 5 キロ cân の米 lúa gạo を供出し、その後も 10 キロ供出した。お金がないので再建は大変だった

ông từ のディンが線香を上げるために後宮に入った女性たちを追い出していたので：村の女性は後宮には入ってはいけないのかと尋ねると、入れる、と答えた。

10:00 記念撮影の後、乗車。その後、洪徳堤を見に行っった。

下車して、南北に伸びる排水路に沿った農道を南下する。この排水路は 40-50 年前に造られたものである。現在、村の居住地よりも南側の田は米の二期作を行う。北側の農地は 2 月から 6 月まで落花生など、6 月から 10 月が米、11 月からジャガイモ、とうもろこしなど。19 分ごろに洪徳堤の手前までたどり着き写真撮影。左手にコンクリート作りの小さな建物が見えた。それが元々 quán とって、農作業の途中に休んだり、飯を食べたりする場所であった。今の建物は再建したものである。

北に向って歩く途中、右手の少し高くなったところに村の跡地と寺 (chùa Tháp?) が見えた。

車が動けなくなったので、村人を呼んでもらって押してもらいかろうじて方向転換。

10:55 乗車。社の UBND で付き添いのタイヤを降ろして、帰途につく。

11:55 ホテルに到着。

2006/08/17

参加者：桃木、松尾、友保、吉本、Luân

7:05 出発。曇り。省文化通信局遺跡管理委員会のアンと、博物館の幹部で Y Yên 県出身の Khuong が同乗。運転手は昨日とは別人。

7:36 T.T.Gôi で、山の手前の道を左折。

7:55 道に迷う。少し戻る。

8:03 イエンタン社 UBND に到着。最初、社の主席の部屋に通されて、そこには社の地図がかかっていた。主席の名前はディンドウックティン đình Đức Tính。社の西北の境界をソン・サツ sông Sắt が流れている。隣の会議室に移ってご挨拶。会議室には省全体の大きな地図がかかっていた。ここでご挨拶。党書記 BTĐU, 社主席 CTX, 文化担当 Trưởng Ban VHx など、6 人ほどが出席。

8:30 挨拶が終わって、乗車。前の道に戻って北に入ったところにあるお寺の前で、33分に下車。ここに碑文が5基（プラス門前の破片）。この碑文はいずれもあまり読めないが、Ban quản lý di tích に拓本があると言っていた。友保が撮影。碑文で最も古いのが嘉隆12年。本堂の入口の柱の礎石に陳朝のものが2つある。左のものは特に珍しい様式で、đền Lưu Phú, xã Mỹ Phúc に5つ、ここに1つあるだけである。本堂内部の右側に Trần Nhật Duật の bàn thờ がありその装飾は黎朝後期のものである。後宮には Trần Nhật Duật の位牌がある。

仰惟三宝含（？）賜邱知南無清浄法身忠惠王菩薩

中央の Bàn Tam Bảo の上に「崇巖禪寺」という額がかかっている。左にフーがあった。この寺の住職であるダムティン Thích Đàm Tĩnh (65歳)によると、祭壇の一番上の段にある3柱は Tam vị thánh mẫu、上から2番目の段にある4柱は Tứ vị cháu bà、上から三番目の段にある3柱は、両端が hai cô hậu cạnh、真ん中の大きなものが mẫu đẻ nhất である。この名前は何であるかと尋ねると、柳杏 lưu hành だと言った。また祭壇の下にあるトラは nam ông ngũ vị quân tướng、そして祭壇の手前両側に置かれているのは hai cậu bé で、右が cậu đôi、左が cậu thối である。村にバードンはおらず、レンドンはない。

村の長老が持ってきてくれた2冊の漢字の本のコピー本、そして寺にあった勅封を撮影。桃木、ルアン他。

桃木が寺の東隣にある Trần Nhật Duật の墓の跡に案内される。そこには1949年にフランスによって破壊されるまで、9層6面で高さ18メートルの塔があった。塔には陳朝太師宝塔という字があった。塔はレンガと漆喰で出来ていた。案内してくれたのは trưởng ban di tích lịch sử của làng の Nguyễn Tất Thắng (73歳)。昔この村は、Phúc Long と Phúc Ly に分かれていた。

寺に戻り、左側にある祖師堂に戻って、お茶をよばれながら聞き取りを行う。まず、ディン・ランがあるかと尋ねると、ディン・ランはあり、独脚神を祀っている、と言った。そこでタンが Trần Nhật Duật をたたえる自作の詩を読んで聞かせようとする。

Trần Nhật Duật の話。タンがノートを見ながら説明する。Trần Nhật Duật は Trần Nhân Tông の第六子である。Trần Nhật Duật がこの村を開いて、4人の草分け 4 ông tổ、すなわち Nguyễn Huệ Tông, Nguyễn Văn Hiến, Nguyễn Văn Tài, Phạm Thuận Nghĩa が元になって、現在では13のゾンホがある（村の人口は500戸、1,770人。吉本聞き取りは後述、参照）。現在最大のゾンホは Nguyễn Huệ Tông の子孫である。このゾンホは3 ngành あってそれぞれ祀堂があり、漢字の家譜もある。成年男子の数は360人である。先祖はどこから来たのか、と尋ねると、先祖はタインホア Thanh Hóa からきた。タインホアから2人の兄弟がやってきたのが起源である。代数を尋ねると、最初は「6代」と答えるが、周りの老人と話すうちに15、16代と

答えるようになった。2番目に大きなゾンホは、Nguyễn Văn Tài を始祖とする一族である。3番目が Nguyễn Văn Hiền の一族、4番目が Phạm Thuận Nghĩa の一族である。Tran Nhat Duat のゾーは旧暦に3月1日にある。その日にはテーレー-té lễ する。旧暦の1月9日と10日には社全体で đầu xuân mới のレーホイ lễ hội をする。これにはおみこし rước、人間将棋 cờ tướng、獅子舞 xư tử rồng などが行われるが、相撲はやらない。1月12日にはディン・独脚 độc cước の祭りをする。これは我々の村だけで行う。

次に古地名の聞き取り。この村には最初、4つの trại が出来た。その名前は；中林 Trung Lâm trại、東市 Đông Thị trại、西市 Tây Thị trại、連南 Liên Nam trại である。これらが後に、làng Phúc Long になった。ところが明命年間に、Long の字が皇帝のいみなに当たるので、Phúc Chi に変えさせた。Phúc Chi は Đông thôn と Tây thôn、ないし thôn trên と thôn dưới に分かれていた。1956、57年に、Đông thôn が xã Phúc Chi、Tây thôn が xã Phúc Lộc とされた。今も Phúc Chi と Phúc Lộc の2つの thôn があるが、遺跡保存は共同でやっている。

Xứ đồng の名前の話になった。Xứ đồng xoi, xứ đồng lu u, xứ đồng chiêm chiêm, xứ đồng chùa con…などの名前が挙がる。Chiêm chiêm に áp Lâm Thị という最初の村があった。khu tạp mậu thảo hoa 十畝草花。ここで社の幹部が割り込んで、đảng bộ liên tỉnh Nam Định-Ninh Bình がここで誕生した、と言った。以下、たくさん知名が出てきた：Đông núi chùa、con ma phat?, quán giữa、đồng trung kho、đường sáng、đồng đường cỏ、đồng trung nhất、đồng trung nhị、đồng đọi、đồng cửa làng、đồng sâu ngõ、mã trên、mã dưới、mã gỗ。陶磁器やレンガの欠片が本堂左手前の池からたくさんでた。所在をめぐっているいろいろな意見がでたがよくわからない。

遺跡管理委員会 ban di tích quản lý の thủ quỹ を務める Nguyễn Quang Tòng (61歳) に聞き取り。まず、社と村の概要について。者の人口は12,000人、17の thôn がある。Thôn Phúc Chi の人口は2,200人、450戸と社の中では最大である。住民の主な生業は農業であるが、この村は昔から建設職人 thợ xây の村であり、現在でも男性の多くが建設の仕事をしに村の外に出稼ぎに行く。自分の4人の息子も全て建設業をしており、3人はゲアン、1人はハイズオンで働いている。女性は農業以外に chấp lứa xuất khẩu hàng の仕事をする。

遺跡管理委員会について。寺が歴史文化遺跡として文化省に認定された1990年12月に立ち上がった。現在、13人の委員がおり、そのうち3人は女性である。遺跡の保存に必要な費用はどのように供出しているのか、と尋ねたところ、寺の前に遺跡の水田 ruộng củ a di tích があり、そこから供出している、と答えた。この水田の面積は1マウで、米作を二期 2 vụ 行っている。遺跡委員会は各 vụ に 220万ドン (2 triệu 2 trăm) 徴収する。

生産に関して：6つの組 tổ に分かれて、それぞれの組の組長の名前は、anh Hiền, chị Lý, chị Đào, chị Hợp, chị Lợi, chị Mạnh である。各組が220万ドン供出するのではなく、全部の組をあわせて220万ドンを納めさせている。各組には1から10の家族 gia đình が参加している。遺跡管理委員会と同様に5年を1つの任期としている。これらのお金はどのように使うの

か：毎年1月10日の té lễ など、寺の祭りなどに使う。

レーホイについて。旧暦1月10日の te le が最大である。1月9日の午前8時に御輿を出すことから始まり、翌日10日の5時には終了する。この te le は委員会が管理するのだが、これ以外にも、hội con nhang（現在のメンバーは100人ほど）が組織する入夏 vào hạ、出夏 ra hạ などがある。コンニャンは旧暦3月1日から10日にフーザイに行く。村には hội con nhang 以外にも hội tính đồ がある。そのメンバーは200人程おり、60歳以上になると入会する規定がある。フランスの爆弾で破壊した2000年に再建された村のディンのレーホイは旧暦の12月2日の chạp thánh、そして1月9日、10日の te le の際にもディンを開ける。フーを見学しているときにレンドンはしているのか、と尋ねたところ、「していない」と答えたが、ここで会話を続けるうちにもう一度尋ねたところ、「時々」と答えた。しかし村にはバードンはいない。村出身のバードンがハノイに暮らしており、時々やりに来る。レンドンをする時は委員会の許可を得ないといけない。以前は許可していなかったが、最近では許可することになっている。しかしあまり公にはしない。それはなぜか、と尋ねると、村には迷信異端はあってはならないからだ、と答えた。なぜ迷信異端はだめなのか、フーザイではレンドンはもう公に行われるようになってきているが、と尋ねると、フーザイのように大きなところでは警察や軍が管理をしているが、村の場合は無秩序状態 mất trật tự になってしまうと、観客の誰かが寺に盗みに入ったりする恐れがあるからだ、と答えた。ティングオン信仰は問題ないが、秩序がなくなるのでそれが問題なのである。

「文化の村建設」について。2002年に発動した。しかしこれまでにはまだ省に認定されていない。隣の thôn Phuc Loc は2005年に公認されている。社の村はここ以外は全て認定されている。なぜ認定されないのか、と尋ねたところ、まずひとつに、村の徴兵率が低いからだ、と答えた。この村では、10人のうち3人ほどしか bộ đội に行かない。それ以外の理由として、納税？が遅いから。村の人口が多いので、まとめるのは難しい。レンドンなど迷信異端が認定されない理由ではない。早く認定されて欲しい。

歌についての聞き取り。(Phuong Chi の著書に綿 bông と関わる歌に関する言及があったため) 綿に関する歌がまだ残っているか、遺跡管理委員会の2人と住職に尋ねたところ、ない、と答えた。ただし、lang Phuc Loc に住む Nguyễn Thị Côn (70歳くらい) は、毎年1月10日にこの寺で行われる te le の際に bài hát truyền thống を歌っている。なお、村では1960年ごろまでは綿を栽培していたが現在はもうしていないとのこと。

次に、歩いて đồng chiêm chiêm を見に行った。あぜ道を北に歩く。北に寺があって南が池であった、という場所まで歩く。レンガ片が多数みられる。1962、63年に寺は破壊？破壊される前、そこには10個の像があって、それを持ってきて nghĩa trang の建設に使った。その場所の南側の田んぼが cánh đồng cửa làng である。Tập mậu thảo hoa というのは、現在の chùa

を囲む区域である。南側は省道まで、東西も道で区切られていた。

10:40 寺に戻りご挨拶。スイカやお茶をいただく。スイカを食べるうちに Luan が大きな版木のようなものを見つけた。漢字やサンスクリットが彫ってある。友保撮影。

女性の住職に寺のレーホイについて聞き取り。1月9日と10日がホイ ngày hội、2月19日が観音記念 kỷ niệm đức quan âm、3月1日が Tran Nhat Duat のゾー、4月15日が入夏 vào hạ、7月15日が出夏 ra hạ と tết Trung Nguyen...

11:20 乗車して帰途につく。帰りに「thị chố」の下に「tiêu hổ」とかかれた看板があり桃木がルアンに、あれは猫肉のことか、と尋ねると、そうだ、と答えた。

11:55 ホテルに到着。

2006/08/19

A 隊、B 隊全員でナムディン省博物館へ史料収集。

8:00 出発。雨。タクシー3台で現場に向う。最初は会議室のなかで史料を撮影。その後、展示室に移動し勅封を撮影。撮影終了後、展示室を見学し、公園内を歩いて移動。桃木、松尾、嶋尾、蓮田、吉本、キエンは大雨が降ってきたので途中で雨宿り。Luan が雨具を持ってきてくれたので再び歩き出す。博物館がある公園内では、朝からカオダンの学生たちが軍事訓練の準備をしていたが雨のためか彼らも撤退。

10:25 事務室のある建物に戻る。再びタクシー3台で帰途につく。

10:40 ホテル到着。

## 2006 年度 ナムディン省各村落調査B隊フィールドノート

2006/08/08

参加者：八尾隆生（隊長）、嶋尾稔、松尾信之、友保浩法、ド・キエン Đỗ Kiên、チャン・スアン・ビン Trần Xuân Bình（省博物館：文化遺産保存担当）、Vũ Đại An（省文化通信局幹部）

◎行った地点：Nghĩa Hưng 県 UBND 人民委員会、Nghĩa Hùng 社の人民委員会、同社の Đền Trần Sĩ Hội、ハイハウ県の Thịnh Long 海水浴場

◎UBND h. Nghĩa Hưng

社主席：Đặng Văn Tác

phó văn phòng：Vũ Trung Khiêm

県の概況について若干の説明を受ける。ダイ河とニンコ河に挟まれた細長い県で、50 キロ以上あり、一番狭い箇所は 500 メートルしかない。行政単位としては、23 社、2 市鎮 thị trấn からなる。

次に主席から近年の開拓の状況について説明を受ける。

現在も堆積が進んでおり、年間 5～10 メートル海岸が前進している。

1930 年 Nghĩa Hùng, Nghĩa Hải, Nghĩa Thành, Nghĩa Thắng, Nghĩa Lâm を防潮堤防で囲む (quay đê)。現在のものほど近代的な堤防ではない。

1958 年 Thị Trấn Rạng Đông の防潮堤防。

1964 年 Nghĩa Phúc 社の防潮堤防。

1970 年 Nam Điền 社の防潮堤防。

1980 年 Nam Điền 社の東方の養魚地域を囲む堤防。

1992 年 Nam Điền 社と養魚地域の南方のナムディン省の公有地を囲む堤防。

ギアフン県には、近隣の県や省からの移民が多い。

Nghĩa Lợi 社に仏領期の碑文がある。

◎県から社に行く途中（県から車で 5 分程度）、Quần Liêu の水路と堤防を通過  
ビンによれば黎中興のころのことのこと。

◎UBND xã Nghĩa Hùng

党副書記長：Trương Công Khởi

文化班長：Nguyễn Yên Biên

元県主席：Trần Xuân Quảng、78 歳

若干の歴史・文化の説明を受ける。

著名な Phạm Văn Nghị は Nghĩa Lâm の出身。デンには勅がある。

村の概況は以下のとおり。

面積：7.5 平方キロ。

人口：8200 人。

カトリックが 58%。

Làng が 3 つ：làng Sĩ Lâm, làng Sĩ Hội, Làng Văn Giáo。

Làng Sĩ Lâm は 1852 年成立、làng Sĩ Hội は 1865 年成立、Làng Văn Giáo も 1865 年。

Làng Văn Giáo は 100%カトリック。教会あり。

旧「Sĩ Lâm 社」の地分は現在の行政単位では、Nghĩa Hùng と Nghĩa Lâm に分かれてしまった。

宗教施設としては、Làng Sĩ Lâm には、Đền Quế Lâm、Chùa Nam Hải (1920 年) がある。làng Sĩ Hội には、Đền Sĩ Hội (1914) がある。Làng Văn Giáo には教会あり。1880 年に建設、1920 年に修築、45 年に破壊、最近再建。

Đền Quế Lâm には、勅がある。Đền Quế Lâm 、Đền Sĩ Hội はともにチャン・フン・ダオを祀る。

ゾンホについては、Làng Sĩ Lâm は、Trần Đức 族が大きい。làng Sĩ Hội では、Vũ 族、Trần 族、Phạm 族、Lê 族が大きい。Làng Văn Giáo には、大きなゾンホはない。

### ◎Đền Trần Sĩ Hội

・インフォーマント：

①元県主席 Trần Xuân Quảng、78 歳

②守祠 Trần Văn Đôn (60 歳以上) など。

デンは南面

首座はチャンフンダオ。脇に護衛の椅子。

東側に「七位招募」(墓誌あり。最近のもの、写真撮影)

西側には城隍神＝土神。

タイムマウ Thánh Mẫu は祀っていない。

陰暦 8 月 20 日には、チャンフンダオの祭礼 (Hội cha)。チャンフンダオは Thánh Cha。

タイムマウは祀らないが、三月の *hội mẹ* にはフーザイに行く。  
祭礼は3日間、3年に1度大祭。ゲームもあり。人民委員会からデンまでズオック。

・史料（すべて写真撮影）

3道の勅封。

- ①啓定9年7月25日 陳興道宛
- ②啓定9年7月25日 当境土地靈宛
- ③維新5年閏6月8日 陳興道&当境土地靈宛

ベトナム語の報告書2冊

- ① *Lý lịch di tích đền Sỹ Hội ....* 06/2002印刷. 於 Nam Định
- ② *Tư liệu Hán Nôm đền Sỹ Hội ....* 06/2002印刷. 於 Nam Định

碑文1基（ベトナム語と漢字）

碑題「碑立邑士会」Bia Lập áp Sĩ Hội

「招墓」Chiêu mộ

「陳玉徳」Trần Ngọc Đức

以下に招募の7人の名前を記す。

◎Thịnh Long 海水浴場

渡りでニンコ河をハイハウ県側に渡る（写真撮影）。

海水浴場から、ニンコ河の河口を望む（写真撮影）。海岸の堤防は最近作られたもの。

昨年の台風の際は、高波が、堤防を越えて、ひとつの集落を破壊。海外の海の家も大きな被害。

◎帰途につく

2006/08/09

参加者：八尾、嶋尾、松尾、友保、Kiên、Bình、An

◎行った地点：Đền thờ Phạm Văn Nghị Sĩ Hội、nhà thờ họ Nguyễn Đức（Nghĩa Hùng 社）

◎Đền thờ Phạm Văn Nghị Sĩ Hội（Nghĩa Lâm 社の làng Sĩ Lâm Đông）

建物の方位：40度。

棟木：保大辛未年（1931）



・インフォーマント：堂守 Phạm Đăng Đầu、70 歳。Phạm Văn Nghị の 5 代孫  
Phạm 族の祠堂は別にある。しかしそこには史料は残っていない。

祭壇：中央には Nguyễn Tương Công, húy Diên khai chi  
Phạm Văn Thanh trại trưởng Sĩ Lâm (兄)  
Nhị Giáp (Hoàng Giáp) Phạm Văn Nghị (弟) の三位

祭礼：旧暦 1 月 13 日から 15 日 (これは忌日ではない)。  
Phạm Văn Nghị の忌日は旧暦 12 月 12 日。この日は tế をする。  
giao thừa と新年もやる。祭りの範囲は旧シーラム社ではなく、現ギアラム社である。

近隣では以下の 4 箇所ではファンバンギをお祭りしている：

Sĩ Lâm Nam (xã Nghĩa Hùng)  
Sĩ Lâm Đông (xã Nghĩa Lâm)  
Văn Lâm (xã ?)  
? (Xã Nghĩa Thành)

現在のギアラム社は、làng Sĩ Lâm Đông, làng Văn Lâm, làng Lạc Phú からなる。  
ギアフン社に làng Sĩ Lâm Nam は含まれる。

・史料  
碑文：嗣徳年間  
他に史料はない

◎nhà thờ họ Trần Đức (Nghĩa Hùng 社の làng Sĩ Hội)

建物の方位：200 度。

・インフォーマント：Trần Văn Hiến、67 歳。現家長の次の叔父。  
この祠堂は昔からあるが、現在の建物は 2002 年建設。

◎Trần の私邸 (上記の祠堂の一族の現家長の家。祠堂の隣)

・インフォーマント：

①Trần Văn Đễ、現家長の末の叔父。Trương Văn bảo quản di tích lịch sử đền Trần thôn Sĩ Hội

祖先は Trần Phúc Ngoạn, thôn Quý Đê xã Trục Mỹ huyện Trục Ninh とのこと

八尾注：上記の人物は ông tổ ではなく、chi tổ のはず。

何度か聞いた、Chùa Sĩ Lâm とは chùa Nam Hải の通称。

・インフォーマント：

②Nguyễn Yên Biên、1954 年生まれ。洗礼名 Pero

例の教会は 1954 年に破壊。54 年にバンザオのカトリックのうち半分（親フランス派）が南に。

社のトン、ソムの構成について

Thôn Sĩ Hội : xóm Bắc, xóm Nam

Thôn Sĩ Lâm : xóm Hòa Lạc, xóm An Ninh

Thôn Văn Giáo : xóm 1-4, xóm Thờ Ứng, xóm Thượng Trại, xóm Bạ Đê

祭壇に、昨年亡くなった前族長の遺影と位牌名 Trần Văn Lung を書いた紙。前族長の妻は現存で、我々を迎えてくれた。

我々が家に迎えらる直前、現族長や若者が、一族の所蔵史料を見せることに難色を示し、何か大声で話していた。叔父たちの説得で史料を見せてくれた。

・史料

多数の貴重なハンノム史料（写真撮影）

①*Lương giáp điều ước*

②*Văn tự đời Từ Đức*

③*Văn tự bán đồ vật*

④*Gia họ Trần Đại Tộc*

⑤*Bài Vị họ Trần*

⑥*Văn tự bán ruộng 3 件*

⑦*Văn tự xem số*

その他の収集史料は Nguyễn Yên Biên がコピーして渡してくれた

*Đảng ủy xã Nghĩa Hùng*（編）, *Lịch sử đảng bộ xã Nghĩa Hùng, 1997?* の第 1 章 *Quá trình tạo dựng làng, xã Nghĩa Hùng* など

◎帰途につく

2006/08/10

参加者：八尾、嶋尾、松尾、友保、Kiên、Bình、An

◎行った地点：Nghĩa Thành 社の人民委員会、同社の Đền tiến sĩ Doãn Khuê、Chùa Thư Điền

・文化通信局のアンから以下の史料貸与（写真撮影）

*Lịch Sử Đảng Bộ Hoàng Nam*

*Lịch Sử Đảng Bộ Nghĩa Hoà*

*Lịch Sử Đảng Bộ Nghĩa Minh*

*Lịch Sử Đảng Bộ Nghĩa Sơn*

*Lịch Sử Đảng Bộ Nghĩa Thái*

*Lịch Sử Đảng Bộ Nghĩa Thắng*

*Lịch Sử Đảng Bộ Nghĩa Thành*

◎UBND x. Nghĩa Thành

主席・副書記長（氏名聞き漏らし）

元主席の古老 Trần Đức Nam（*Lịch sử Đảng bộ xã Nghĩa Thành* の編纂に関わった先生）

文化担当幹部：Trần Minh Lãm

まず、主席の挨拶。

続いてナム先生の講義（別の場所で聞いた話もここに含める）

- 進士 Phạm Văn Nghị と進士 Doãn Khuê の事跡と人間関係について（同郷、同志、同科）：  
Doãn Khuê が Phạm Văn Nghị の事業を継承。
- 1854 年に Thư Điền 社 (> Nghĩa Thành 社) が作られた。Trần Ích Khiêm, Lai Văn Kiều, Trần Văn Đán, Trần Văn Thượng の 4 人が、Doãn Khuê の指導のもとに、開拓・開村した。寺に碑文があり、彼らに言及している。72 年に現在の Nghĩa Thành 社内の別の集落（キリスト教）が成立した。
- Nghĩa Thành 社には、3 つの thôn がある。thôn Thư Điền, thôn Tây Thành, thôn Chỉ Thiện。社全体は約 9,000 人。thôn Thư Điền は約 6,000 人で、大半が仏教徒。別の 2 村はキリスト教徒。社全体の 43% がキリスト教徒。
- 上の 4 人の草分け一族の祠堂がある。Doãn Khuê の碑文は、デンにあり、4 人の草分けに言及した碑文が寺にある。そのほかに墓誌がひとつある。
- 10 近いデンやブーがあり、20 近い祠堂がある。寺はひとつ。教会は、linh mục のいる nhà xứ がひとつ、nhà thờ họ đạo が 4 つ。
- xóm について

thôn Thư Điền

xóm Phương Điền = đội 1

xóm Minh Điền = đội 2

xóm Bảo Điền = đội 3

xóm Mỹ Điền = đội 5

xóm Lương Điền A & B = đội 4

xóm Hậu Điền = đội 6 & 7

xóm Phúc Điền = đội 8

thôn Tây Thành

xóm Lưu Thành

xóm Đức Thành  
xóm Quang Thành  
thôn Chí Thiện  
xóm Thiệu Vinh  
xóm Thiệu Thắng  
xóm Thiệu Lợi  
xóm Phú An (新設)

主席の話：

この地域では南方で順に堤防を作って開拓を進めている。現在新しい 3 つの堤防建設中。近年に 8,000 ヘクタールを造成。

◎Đền Tiên Sĩ Doãn Khuê (在 Thôn Thụ Điền)

・インフォーマント：Trần Đức Nam

Doãn Khuê が 1887 年に死んですぐに、村人が建設。  
1950 年に重修、1994 年にまた重修、文化遺跡に認定。

中央に祭られているのは、Doãn Khuê。  
向かって左は、4 人の草分け。  
向かって右は、城隍神。神は土神。

かつては、城隍神の廟あり、フランスが破壊。

デンの祭礼は、旧暦 1 月 19 日。偶数年は 2 日間、奇数年は 1 日。

城隍神のみの祭礼はない。

仏教徒もキリスト教徒も参加する。

脇の木造の建物は、別の場所にあった建物の建材を買ってきて再建したもの。この建物の中にはさらにもう 1 軒分の木材を購入して置いてある。ニンビンで購入。「呉世榮」と記された額あり。

・史料 (写真撮影)

- ①碑文 1 基：嗣徳 25 年
- ②勅 3 道 (写し)：維新 3 年、啓定 9 年、成泰 13 年
- ③鐘：成泰 4 年
- ④椅子の上の位牌 2 基

◎Chùa Thụ Điền (海雲寺、在 xóm Minh Điền, thôn Thụ Điền)

Doãn Khuê の息子が建立。  
初代の住職は Thích Tâm Hy

現在は、数人の尼が住持。  
住職（留守、複数の村兼任）： Thích Đàm Huy  
その他は、Ni cơ

- ・史料（写真撮影）
  - ①碑文 1 基（題「南無阿弥陀仏」：保大 8 年（村の歴史にも言及あり））
  - ②クオックグー碑文 1 基（功德碑文）

◎帰途につく

2006/08/11

参加者：八尾、嶋尾、松尾、友保、Kiên、Bình、Nghĩa Thành 社から Trần Đức Nam（昨日の先生）、Trần Vinh Giám（77 歳、かつての社主席）

◎行った地点：Nghĩa Thành 社の祠堂 2 箇所（Lại 族、Trần Đức 族）、同社のキリスト教徒の墓地、ギアフン社の外れの水門の跡、Khu di tích Văn Cù, xã Đông Sơn, h. Nam Trực

◎Lại 族祠堂（在 xóm Phương Điền, thôn Thư Điền）

南面する。

支派の祠堂。始祖は 18 代目の Lại Thế Kỳ

- ・インフォーマント：Lại Hải Hà、67 歳  
この支は第 2 支。  
さらに ngành が 2 つ。  
このハーは支長。  
この頼族の故地はタインホア省の河中県。

- ・史料（写真撮影）
  - ①仏領期の里長の任命関係書類 3 通。
  - ②受戒の度牒 3 道、年代不明。
  - ③Văn khoán 文書多数。1 枚のみ撮影。

◎ハー（上のインフォーマント）の私宅

全国頼族総譜を見せてもらい、表紙のみ撮影。

◎Trần Đức 族祠堂（在 xóm Mỹ Điền 第 5 隊, thôn Thư Điền）

南面する。

Trần Ích Khiêm（4 人の草分けの 1 人）を祀る。木像がある。

1950 年以前に建設、最近再建。

御輿あり。社のお祭りの時にズオックする。他の 3 人の草分けも同じとのこと。

収集史料なし。

◎キリスト教徒の墓地（在 xóm Lưu Thành, thôn Tây Thành）

村の開拓に貢献した Nguyễn Văn Vĩnh 夫妻の「陵」がある。そこに漢字の碑面あり。保大 14 年。

・史料：上記の碑面（写真撮影）

◎ギアフン社の外れの水門の跡

UBND から南海寺に至る道路は南海寺で舗装が終わる。そこからさらに未舗装の農道を 2 キロ北上した地点。かつての農道は少し西方にずれて走っていたため、水門はかつては水田の中にあった。北西方向にダイ河の現在の水門が見える。この農道に平行する水路が合流する地点。ガイドしてくれた村民によると、この水門跡は抗仏期にはあったとのこと。レンガが現在のものより小さい。旧堤防との関係は不明。写真撮影。

◎Khu di tích Văn Cù, xã Đông Sơn, h. Nam Trực

デン、寺、ディン、フー等のコンプレックス。

・インフォーマント：Phạm Văn Nghị、かつての社幹部、現在は慶節会の幹部

ここはフォーの生まれ故郷。広東から来た中国人が伝えた麺をベトナム風にアレンジ。現在でも名産。

我々はデンのみに行った。創建は 17、18 世紀とのこと。当時の装飾（木彫の竜傘など）の一部が残っている。後殿の重修は嗣徳 30 年。前殿の重修は保大 2 年。最近の重修は 70 年代以前。祀っている神は第 5 代雄王 Minh Bảo Lan 大王神。

◎帰途につく

2006/08/12

参加者：八尾、嶋尾、松尾、友保、Kiên、Bình、An

◎行った地点：Nghĩa Lạc 社の人民委員会、同社の nhà thờ giáo xứ Lạc Đạo

◎UBND x. Nghĩa Lạc

副主席：氏名聞き漏らし

社の公安担当：Nguyễn Văn Trò

社の文化担当：Nguyễn Văn Thủy

県の公安担当：氏名聞き漏らし

社の面積 11122.5 ヘクタール

ダイ河の水位がニンコー河より 20 センチ高いため、ポンプ場は無いが、重力で灌漑、排水が可能。

人口は 10500 人。キリスト教徒がほぼ 100 パーセント。全員がキリスト教徒の社、全国 3 社のうちのひとつ。

ソムが 13。

đội ドイ (1~13) とソム名との対照。

đội 1 = xóm Đồng An

đội 2 = xóm Đồng Ninh

đội 3 = xóm Đồng Lợi

đội 4 = xóm Đồng Thịnh

đội 5 = xóm Đồng Hưng

đội 6 = xóm Đồng Nhân

đội 7 = xóm Đồng Lực, Đồng Nguyên

đội 8 = xóm Đồng Nguyên

đội 9 = xóm Đồng Lực

đội 10 = xóm Đồng Thành

đội 11 = xóm Đồng Quang

đội 12 = xóm Đồng Lom

đội 13 = xóm Đồng Tân

仏領期には 2 つの社 (Đồng Liêu, Lạc Đạo) であった。

giáo xứ が 2。xứ Đồng Lạc (より古い) と xứ Đồng Liêu。giáo họ が 7。

教会 9。うち giáo xứ の教会が 2、giáo họ の教会が 7。

giáo xứ は複数のソムを統括。giáo họ は 1 つのソムを統括。ただし giáo xứ、giáo họ は教会の単位で、ソムは行政上の単位。

我々が気づいた点：UBND 内にホー主席の肖像 (画) や政権スローガン見当たらず。

ビンの話：社内に党支部はあるが、大衆諸団体は無し (要確認)

8月14日に *Lịch sử Đảng bộ xã Nghĩa Lạc* を見せてくれるとのこと

◎nhà thờ giáo xứ Lạc Đạo (在 xóm Đồng An か xóm Đồng Ninh)

神父：Trần Kim Tiên、61歳、1946年生

教会学校の関係者（先生？）：Vũ Minh Uyên

・神父のあいさつと情報

ザオスー：ラックダオの人口は7,500人。

私は赴任して6ヶ月のために、この土地についてはあまり知らない。

この教会は250年の歴史がある。

歴史史料は何も無いとのこと。

教会の棟木は成泰6年（1894）。外壁には1942年と書かれており、重修か？

塔の外壁に1927と書かれている。1990年に重修か？

・史料

事務所に20世紀の文献があるが、保存状況が悪い。ラテン語の諸文献（印刷本）。手書きのベトナム語の記録類、教区簿冊と思われるもの。チューノムで書かれた説教書。

上記のチューノム文献、4冊（1902年と1904年のものがあり）それぞれ冒頭数ページ。教区簿冊と思われるものの内の数ページを写真撮影

◎帰途につく

2006/08/14

参加者：八尾、嶋尾、松尾、蓮田、友保浩法、Kiên、Nguyễn Quang Hải（博物館）、An

◎行った地点：1995年時点の党書記 Nguyễn Đức Mậu 宅、Đoàn Văn Thặng 宅、Trần Văn Toại 宅、Nguyễn Văn Sang 宅

◎Nguyễn Đức Mậu 宅（在 xóm Lạc Đạo）

・インフォーマント：Nguyễn Đức Mậu

Q. *Lịch sử Đảng bộ...* の歴史部分の典拠は？

A. 高齢者に聞いただけで、書いたものは残っていない。草分けの1人が Đoàn Huy Lăng。Xuân Trường から来た。この地はかつて海辺で、海岸砂丘があった。300～400年前に開拓した。でも、誰も正確には覚えてない。ただ、そのときの大きな木（cây đề）が今でも残って



いる。

Q. 草分け達の子孫はいるのか？

A. 200 年も前の話なんだから、分からん。

Q. 史料はあるのか？

A. 仏教徒ならあるかもしれないけど、キリスト教徒はねえ…

*Lịch sử Đảng bộ...* 編纂時のインフォーマントとして thôn An Ninh 在住の 2 人の名前を挙げてくれた。Đông Liêu のインフォーマントとして Trần Văn Toại, Nguyễn Văn Hiền, Nguyễn Văn Sang の 3 人の名を教えてくれた。

#### ◎Đoàn Văn Thặng 宅 (在 xóm Lạc Đạo)

・インフォーマント：Đoàn Văn Thặng、主人の Đoàn Minh Quan  
草分けの 1 人 Đoàn Huy Lãng (1804 生) の子孫。

Đoàn Huy Lãng は Trà Lũ 出身。カソリックだった  
Trà Lũ 内の地名をとってここを Lạc Đạo と名付けた  
Đoàn Văn Pháp が邑を建てる申請をした  
自分たちは移住第 4 世代

・史料：

手書きの家譜 (クオックグー計 3 冊、Đoàn 編)。1 冊写真撮影、2 冊コピー

#### ◎Trần Văn Toại 宅 (xóm Đông Lợi)

・インフォーマント：Trần Văn Toại

この村は 1824 年に成立

文献は天災でなくなってしまった。

土地改革の頃、共産側の社に勤務していた。

自分はずっと Xuân Thủy の人間で、ここは妻の故郷。

*Lịch sử Đảng bộ...* 編纂時のインフォーマントは全員死んだ。

旧 3 社成立の経緯

－旧 Đông Liêu : Quận Liêu (Nghĩa Sơn) から来た。1868 年開拓。この地域は Quý Nhất (現 Nghĩa Hòa 社) まで開拓した。

－旧 Lạc Đạo は Trà Lũ の人が 1824 年に開拓。

－旧 An Ninh 社は Trúc Ninh と Hải Hậu の人が開拓。Lạc Đạo より以前のこと。その一部である thôn Đò Mười は 20 年前まで Nghĩa Lạc 社に属していたが、その後 Nghĩa Sơn 社に移

- った。Đò Mười に開拓経緯を記した碑文がある。
- ー現 Nghĩa Lạc 社内にもかつては碑文があったのだが、合作社時代に堤堰を造るときに転用してしまった。
  - ー文献史料もない。土地売買文書もない。無い理由は土地改革と 60 年代前半の台風。

革命以前の風俗習慣は旧 3 社それぞれ違う。旧 Đòng Liêu は特別な習慣はなかったが、Lạc Đạo 独特で nộp cheo があつた (道路用の石材 5m 分)。今は全部セメント敷き。Đòng Liêu の人は出身村である Quận Liêu の人と日常的に交流がある。Lạc Đạo の人は出身村である Trà Lưu とそれほど密接な交流はない。

郷約は昔あつたが、今は残っていない。  
キリスト教について：ダイ側以西は dòng cru thê、以東はドミニコ会。でもファッジエムに行くことにこだわりはない。

#### ◎Nguyễn Văn Sang 宅

- ・インフォーマント：Nguyễn Văn Sang、1926 年生  
文献はない。持っていた人は皆死んでしまった。
- ・史料  
クオックグーの家譜 (印本) 有 (写真撮影)  
漢文版は Nguyễn Văn Huyền (故人、Quận Liêu の人) が持っていた。当人はとうに他界し、Quận Liêu には係累も残っていないらしい。  
Quận Liêu に Bác Hội という人がいてその人に聞けばいろいろ分かるはずとのこと。

#### ◎帰途につく

2006/08/15

参加者：八尾、嶋尾、松尾、蓮田、Kiên、Binh

◎行った地点：UBND x. Nghĩa Sơn、nhà thờ xứ Tân Liêu、Đền chính Tân Liêu、Đình chúa Lý Nhân、Đền ngoại Tân Liêu

#### ◎UBND x. Nghĩa Sơn

社主席：Vũ Văn Đăng

副主席：Lê Ngọc Khánh

文化担当幹部：Trần Văn Khanh

主席より、社の歴史の概要について説明を受ける。基本事項は *Lịch sử Đảng bộ* で要確認。

人口 16,000、戸口 4,000。

キリスト教徒、86.3%

祠堂は、Lý Nhân の武氏と Tân Liêu の阮氏。最近新築したもの。家譜ある。

社には以下の thôn あり。各村の代表的な宗教施設を付記す。

1 thôn Lý Nhân: đình chúa, từ đường họ Vũ

2 thôn Tân Liêu: Đền chính & chúa, đền ngoài, từ đường họ Nguyễn

3 thôn Đại Đê

4 thôn Quân Khu

5 thôn Quân Liêu: nhà thờ xứ Quân Liêu

6 thôn Ngòi Voi

7 thôn Đò Mười: bia đá

Lý Nhân と Tân Liêu は仏教徒、その他はキリスト教徒。

昨日の聞き取りどおり、Xã Nghĩa Lạc の thôn Đồng Liêu と Tân Liêu には交流があり。

昨日訪れた xã Nghĩa Lạc の thôn Đồng Liêu の Sang が、よく知っている人として教えてくれた、Tân Liêu の Bác Hội は既に 90 歳近く、話はできない状態。

Đò Mười の碑文を見に行く途中で雨がひどくなり、田圃の中にあるとのことであきらめて帰る。途中、文化担当の Khanh の家で休む (ガソリンスタンド経営)。

#### ◎nhà thờ xứ Quân Liêu

・インフォーマント：Nguyễn Văn Chân、1974 年生

赴任して 5 ヶ月。村の歴史や文献についてはまだよく把握していない。

教会の環境改善に努める。電気を新しくする、果樹園を作るなど。

棟木では、1884 年の建設。1938 年重修。

歴史に関する史料は一切なし。チューノムのキリスト教文献もなし。

Giáo phận Bùi Chu の地図を写真撮影。

#### ◎Đền Chính Tân Liêu

・インフォーマント：守祠 Vũ Hồng Thái、67 歳、本村の人

デンの祭壇

真ん中：趙越王

向かって右：5人の開拓者

先里長阮典

先社長杜讓

先該総杜故

先該総宋良

先甲紙阮戰

向かって左：興道大王

外では向かって右から、nhà thờ (建設中)、寺、デンが並ぶ。  
字が摩滅して読めない碑文が庭に3基。

・史料 (写真撮影)

①勅封 現物1とコピー1 (状態悪し)

◎Đình chúa Lý Nhân

右側が寺 (建物には「光仁寺」、門には「望仁寺」)、左側がディン。

ディンの中央奥、陳興道、中央の手前、Nam Giang Thủ Tướng

向かって左は、Nê Nội (Lê Lợi)

向かって右は、Quan nghề

◎Đền Ngoại Tân Liêu (在 Xóm 9)

・インフォーマント：守祠 Trần Văn Nội、70歳

3人の古老がいたが、昼に近かったため詳しい聞き取りできず。そのうちの1人が、5人の開村者の子孫。祠堂があり、家譜もあるとのこと。明日に期待。

向かって左の椅子：東海大王。忌日は9月26日。春祭は1月6日から。

向かって右の椅子：Thần kỳ Ninh (Linh) Ứng Đại Vương

真ん中に5人の開拓始祖

◎帰途につく

2006/08/16

参加者：八尾、嶋尾、蓮田、大谷昇平、Kiên、Bình、社から Khánh (副主席)、Khanh (文化担当)

◎行った地点：nhà thờ họ Nguyễn, nhà thờ họ Đỗ, nhà thờ Đò Mười (Thiên Chúa) の庭

◎nhà thờ họ Nguyễn (在 thôn Tân Liễu (xóm 8))

南面する

壁に家系図表がかかっている (写真撮影)

・インフォーマント

①Nguyễn Văn Trụ、68 歳、族長 この人はよくわかっていない様子

②Nguyễn Xuân Hách、85 歳

③Nguyễn Xuân Vận、68 歳

始祖 cụ tổ Nguyễn Văn Viễn に 5 人の子供あり。4 番目の子 Nguyễn Xuân Chién がイーイエン 県から、この地にやってきて、開墾し村を設立。5 人の開村者の 1 人。Chién の命日は陰暦 3 月 1 日、その父の Viễn の命日は 4 月 20 日。この祠堂で祀るとともに、デンでも祀る。cụ tổ は、開村後に子供に従ってこの地に移る。

Nguyễn Xuân Chién には、3 人の息子と 1 人の娘。この代で 3 支に分かれる。第三支には後継者なし。

中央の祭壇は Nguyễn Xuân Chién を祭る。

この祠堂は、長支のもの。1999 年に修築。元の祠堂の建設年は不明。

印刷された家譜のみ

・史料

①家系図表

②印刷された家譜 (1998 年編纂。元になった漢字家譜は文化通信所が保管)

◎nhà thờ họ Đỗ (在 thôn Tân Liễu (xóm 8))

南面する

・インフォーマント

①Đỗ Văn Giàm、89 歳

②Đỗ Văn Khơ、??歳

おじいさんからは明解な話を聞けず。息子さんは手書きのベトナム語家譜とメモをもとに説明 (撮影済)。

もとになった漢字家譜は文化通信所が収集済み。開村の 5 族の家譜は皆文化通信所の Lê Sung Quang が持っている。

この族は2つの支に分かれる。こちらは長支。次支の祠堂は小さい。

Cụ tổ の Đổ Cố (杜故 : giỗ tổ は2月20日、妻の命日は2月8日) がこの村に来て開墾、開村。家系図表によると、Cụ tổ には5人の子供があり、長男 Ngọc Trường が第一支、四男 Quý が第四支。第二、第三、第五は後継者なし。

始祖夫妻およびその長子の夫妻の位牌あり。名前・生年を確認できる。ただし、位牌は新しいものと見られる。

#### 位牌

##### Cụ Tổ cai cố

阮故該総諱吉又諱故神主

孝子杜玉長奉祀

##### Cụ giáp trường

阮前先紙姓杜諱玉長諡正直行二神主

生於戊寅年二月二十四日

卒於己丑年七月二十八日

享齡七十二歲

孝子杜玉成奉祀

祭壇の裏に、きちんとした身なりの人物の写真あり。この人物は Ngọc Trường の子 Thành。家譜によるとその官職は Tiền cấp bằng thập lý hầu giáp Trung lành trưởng kiêm tư văn hội。生没年不詳。

#### 嶋尾 :

写真撮影がなされたのは20世紀初頭か?とすると Thành の父 Ngọc Trường は19世紀の人。位牌の生没年は、戊寅=1818年、己丑=1889年となろう。その祖父の Cụ tổ が、この村にやってきたのは19世紀前半か?ただ、このときに開村されたとは限らないのではないかと  
思う。それ以前に別の族が来ていた可能性もあるのではないか?

5族を村の草分けとしてまとめる観念は後に成立した可能性を考えてもよいのでは?

5人の草分けの位牌のタイトルに里長と社長が並ぶことも示唆的である

#### ・史料 (写真撮影)

手書きの家譜

家系図表

位牌

◎nhà thờ Đò Mười (在 xóm 28, thôn Đò Mười)

xã Nghĩa Sơn の南端の田圃の中の教会の庭に咸宜元年 (1884) の碑文 (「横瀝碑記」) あり。もともとあった水路を埋めて開墾したことに関する碑文。范義齊 (文誼) の撰 (ただし、ファン・ダイ・ゾアン論文によれば、范文誼は 1881 年に他界。)

車の通れないあぜ道を行く。帰路大雨で全員ずぶぬれ

教会は今世紀の建物。最近では 1998 年に修築。それ以前にはここに集落があった。

◎帰途につく

2006/08/17

参加者：八尾、嶋尾、蓮田、大谷、Kiên、Bình

◎行った地点：UBND x. Nghĩa Trung, đền Liễu Hải, chùa Liễu Hải, đền Hải Hạ, nhà thờ họ Hoàng

◎UBND x. Nghĩa Trung

党書記：Phạm Văn Phan

かつての幹部 (引退)：Nguyễn Ngọc Lanh、75 歳

文化担当幹部：Đỗ Quang Tân

党員会のオフィスで概況説明を受ける (*Lịch sử Đảng bộ*)。そのため社の略図は見られず。

面積：6.37km<sup>2</sup>

3.5 km × 3 km

人口は 8,600 人以上

キリスト教徒は 3%

3 村：thôn Liễu Hải, thôn An Cát (現 Phúc An), thôn Thư Ích

14 の khu phố / xóm

耕作地：330 ヘクタール

宗教施設の多くは自然災害や戦争で破壊

デンは多数。歴史のあるデンは đền Liễu Hải (1778 年), đền Hải Hạ

寺は 3。歴史のある寺は chùa Liễu Hải (1782 年、黎懿宗期)

教会は 3。nhà thờ Liễu Hải, nhà Thờ Cát Điền, nhà thờ ... Đá

祠堂多数。ゾンホは 18 (下記)

歴史概況：200 年の歴史あり。

1. Cổ Liêu (Liêu Hải) 莫朝末期の開村と伝えられる。5人の草分け。イーイエンから。
2. An Cát 1848年開村、チャールーから。
3. Thư Ích 1799年開村。イーイエンから。

ゾンホは18

Nguyễn, Phạm, Lê, Đinh, Vũ, Hoàng, Đỗ, Dương, Tống, Bùi, Phan, Tạ, Mai, Trịnh, Trần, Lương, Đồng, Lưu

生業

農業が中心

副業はござの生産（全国に輸出、さらにラオスとカンボジアへ）

教会

20世紀に入って、nhà xứ Liễu Đề から Nghĩa Trung に布教

1932年に Nhà thờ Liễu Hải 建設

それ以前から Nhà thờ Phúc An は存在したが、規模は小さかった。最近再建。

◎đền Liễu Hải

200度の方向。

1778年建設。博物館の雑誌に論文がある。

・インフォーマント：守祠 Lương Xuân Oánh、74歳

趙越王と開村者を祀る。

趙越王の像は、古いものと新しいものが2つあり。左右に文官、武官の像あり。

開村者の位牌は、向かって右に3人、左に2人。(撮影済み)

忌日は陰暦8月14日。

8人でかつぐ御輿や祭りの時に手を洗い清める道具 Quán Tẩy (後期黎朝時代のものとのこと) あり。

・史料

①位牌

②勅封九道 (もっとも古いものは、光中年間、ただし抄本)

③玉譜

◎chùa Liễu Hải

100度の方向。



1782 年建設。2004 年重修。

「蓮尊寺」という漢字名。寺の隣にフーあり。

・インフォーマント：住職 Thích Đàm Đăng、Thích Đàm Khánh（ともに女性）  
たいしたことは聞けず。

字の彫ってない作りかけ（？）の碑文あり。

お経の版木あり。

漢文およびチューノムの仏教関係文献多数。ごく一部分のみ撮影。

◎đền Hải Hạ（在 xóm Hải Nam, thôn Liêu Hải）

210 度向き

・インフォーマント：守祠 Bùi Văn Biện、73 歳  
たいしたことは聞けず。

1879 年建設、1993 年重修

・史料

①勅封 1 道（啓定年間）もう 1 道は撮影し落とす。

◎nhà thờ họ Hoàng

西向き

・インフォーマント：Hoàng Xuân Quang、85 歳

長支が断絶。第四支が族を継承。

始祖は Hoàng Bá Tân、忌日が 2 月 15 日

夫人の忌日は 2 月 7 日

本来、莫姓であったが、莫氏断絶後、黄姓に変えた。

Lanh によると、チャールーから来た。ただし仏教徒。

・史料

①クオックグー家譜および葬式祭文（写真撮影、状態悪し）

◎帰途につく

2006/08/16

参加者：八尾、嶋尾、松尾、蓮田、友保、Kiên、Binh

◎行った地点：UBND thị trấn Liễu Đề、Đền Nam Phú (Tích Nhân)

◎UBND thị trấn Liễu Đề

thị trấn の人口は 6,300 人

面積は 10km<sup>2</sup>

キリスト教徒 43%、その他は仏教徒。

11 の dân khu があり、そのうち 8 が生産労働、3 が商業経営。

キリスト教教会が 4、そのうち 1 が主たる教会で、あと 3 が小さな教会。

寺は 1、94 年に建設。教会で建設 100 年記念の式典を最近行った。

デンが 1。Đền Nam Phú。抗仏戦争のときに焦土退却作戦のために破壊。

現在のデンは再建したもの。小さい廟がいくつかある。

ゾンホの状況については、この地には各地から人が集まってきているのでよくわからない。  
漢文家譜は見たことも無い。

もともとは、làng Đại Đề の一部。その後、xã Liễu Đề になる。

さらに Xã Trực Hoa, xã Minh Tâm (huyện Trực Ninh) 時代を経て、1960 年に Nghĩa Hiệp、1987 年に thị trấn になる。

## 歴史

16 世紀に開墾・開村が始まる (*Lịch Sử Đảng bộ* 参照。根拠は不明。)

Đình 氏は現在に至るまで 14 代。

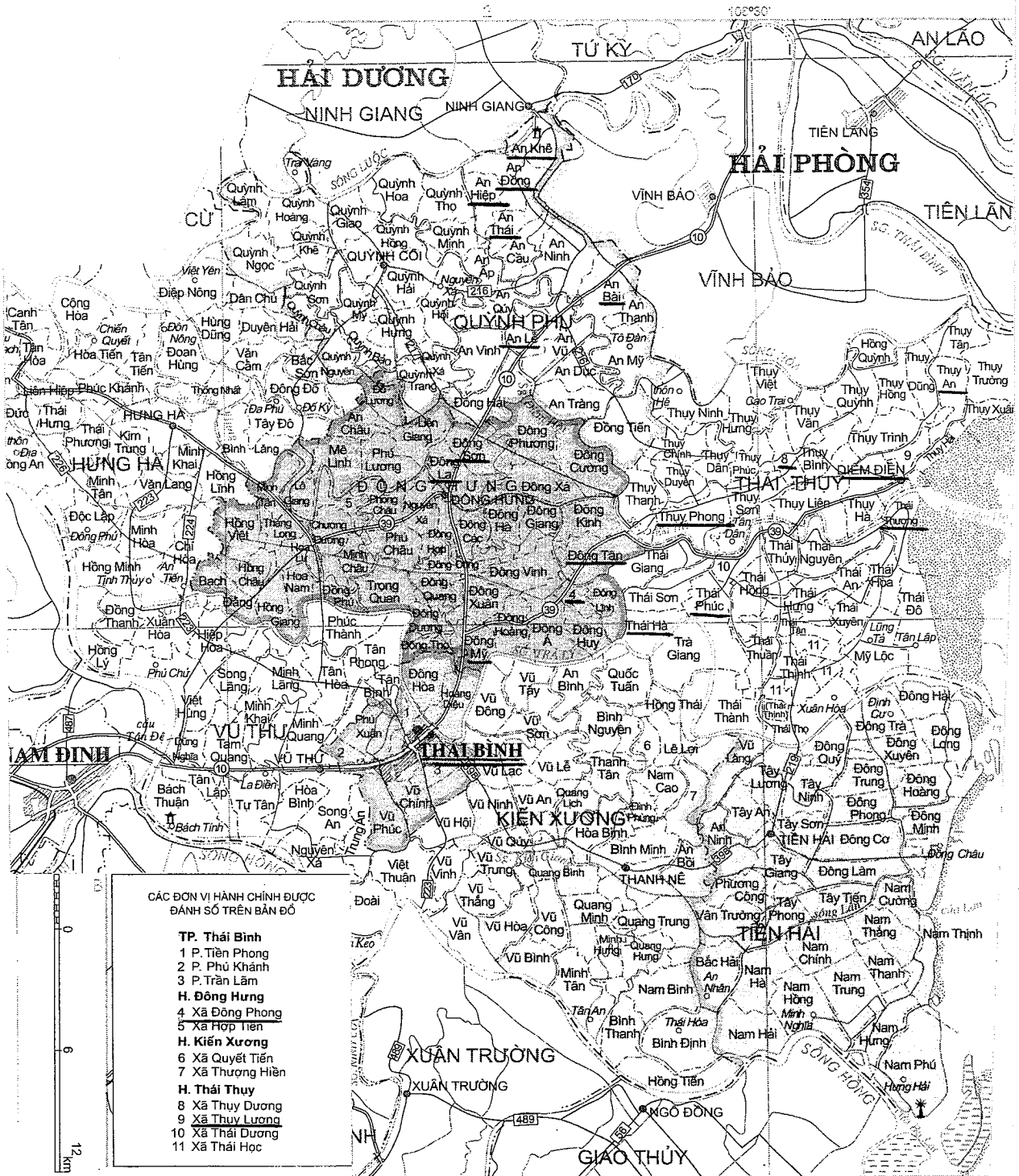
◎Đền Nam Phú (Tích Nhân)

鍵がなく中に入れず。趙光復を祀るとのこと。

・史料 (写真撮影)

建物の外にあった保大年間の碑文 1 面

I-3 2007年度タイビン省各村落調査フィールドノート



下線は調査村落 二重下線は滞在拠点

## 2007年度 タイビン省各村落調査A隊フィールドノート

2007/12/22

参加者：日本人全員、ゴック教授、キエン

タイビン省文化局訪問・打ち合わせ

局長：Nguyễn Thanh (阮清)

元博物館副館長、文化局事務局長：Bùi Đăng Việt

文化局局員で làng nghề の専門家、修士：cô Nhung

ベトナム学研究所の学生：cô Hoài

タイビン省の概況のレクチャーを局長より受ける

面積：1540 平方キロ

人口：188 万

人口密度：ハノイ、ホーチミンに次ぐ第3位、1,300 人/km<sup>2</sup> (?)

面積が毎年1から1.3 km<sup>2</sup> 拡大、10年で1つ社が増える。

わが省は山がない省である

紅河からルオック河が分岐する地点クワルオックからルオック河が55 km、紅河が90 km、  
そこらチャーリー河が分岐し63 km。

諺：

“Quay đê lấn biển” (堤防を繞らせて海を侵食する)

“Đẩy sông ra xa, kéo chân trời gần lại.” (河を遠くへ押しやり、地平線を近くに引き寄せる)

さらに全国各地に移住 (ゴック先生の説明：省の人口の半分が外へ。ディエンビエンの開拓はタイビン人の貢献が大きい。中部高原もしかり)

なごやかに歓談の後、

地誌3冊を頂戴

Nguyễn Quang Ân và Nguyễn Thanh (chủ biên), *Tài liệu Địa chí Thái Bình*, 3 tập, Hà Nội: Trung tâm UNESCO thông tin tư liệu lịch sử và văn hóa Việt Nam, 2007.

最近完成した博物館は全国最大規模で明日参観の予定。

2007/12/23

8:00 出発 タイビン省博物館へ

参加者：日本人全員、ゴック教授、キエン

博物館副館長：Vũ Đức Thơm

文化局事務局長：Việt

文化局局員：Đỗ Thị Nhung (女性)

博物館副館長 (ハノイ大史学科卒。途中参加)：氏名聞き漏らし

ゴック教授の挨拶

Thơm の挨拶&レクチャー

2003年正式開館。

タイビンの地勢についてのレクチャー

博物館は3階建てで展示面積6,000㎡あまり。3,000点以上の資料を収蔵している。2,164件の遺跡を管理している。うち574が省レベルの指定遺跡、114が国家レベルの指定遺跡。

Việtによる、今後の調査の段取りについての説明。午後は市内の史跡を回ることに

Nguyễn Ngọc Phát và Vũ Đức Thơm (biên soạn), *Di tích khảo cổ học ở Thái Bình*, Bảo tàng Thái Bình, 1999 を頂く。

博物館を見学。最初はレクチャーしてくれていたが、あまりに日本人が勝手に動くのでそのうちぐだぐだになる。

10時頃 宿舎に帰投。

昼食

14:00 出発。小雨。博物館で Thơm を拾って、Đình Bó (市内の phường Kỳ Bá, phố Lê Đại Hành と phố Nguyễn Đình Chính の交差点の東北角) へ

十二使君のひとり陳覽を祀る。

Bí thư Đảng ủy の Phú、phường の文化担当 (かなり若い)、地元の古老3人。古老の方がデインの来歴を説明してくださる。

ここは Đức Đại Vương Trần Lãm を祀っている。938年に呉権を助けて南漢を破る。丁部領の建国に貢献し、ナムディン、タイビン、ニンビンの3省で合計53カ所で祀られている。60歳を過ぎてナムディンに夫婦で帰郷し、堤防を作り海を埋め立てて村を作った。だから今でもナムディン側とタイビン側の双方で祀っており、Lễ hội の時などは互いに交流する。

Việt の補足説明：昔はここにファム・グー・ラオとイエット・キエウも祀っていた。また Mẫu も祀っており、現在再建中。ここはもと làng Bó で、それが Ké Bó と呼ばれるようになり、これに漢字を当てたのが奇布（あるいは岐布）。これがさらに訛って Kỳ Bá となった。sông Bó という名前もあり、これは Trà Lý 川のこと。1000 年前はここが布海口という河口だった。西暦 3 世紀にはここから西北に 3 キロ行ったところに居住址があり、ここが最前線だったと思われる。ダオ・ズイ・アインの研究によると、もう 1 つ重要な遺跡として陳明公（陳覽）や丁部領を助けた Bùi Quang Dung を祀った遺跡がある（場所不明）。唐が東興縣においた重要な中心として Kỳ Trong（あるいは Kỳ Thượng）という所があり、もうひとつ Kỳ Nhai、そしてこの Kỳ Bó。この 3 カ所が三角形をなしている。このディンはもとは 1 キロ離れたところにあった。1893 年（成泰 5）にここに移った。そのご戦争や時の流れで壊れていたのを、1987 年から修復開始。2002 年に省の史跡 (di tích lưu niệm sự kiện lịch sử) に指定。

史料（全てコピー：原史料は社会科学院にあるらしい）を撮影。

マウの祀堂（再建中）：sơ đồ によると、向かって左がチャン・フン・ダオ、中央が柳杏公主、右が Lê Mại Đại Vương を祀る。Lê Mại Đại Vương は một vị chúa của Sơn Nam được phong sắc với Lê Mại Đại Vương とのこと。

その後、chùa tiền (phố Lê Đại Hạnh を西進し UBND phường Kỳ Bá の対面) に向かい、見学。かなり巨大な寺。碑文 1 基（啓定 4 年の聖隆寺紀念碑文、裏面は后仏碑記）あるも、本文は摩滅しきっており判読不能。

16:00 頃 宿に帰投。

2007/12/24

参加者：桃木至朗（隊長）、蓮田隆志、岩田寛子、一瀬絵里、Kiên、Thom。

本日より 2 隊に分かれて現地調査開始

曇天、やや気温低し。

7:00 h. Quỳnh Phụ に出発。Bảo tàng にて Thom と合流。  
sông Trà Lý に架かる cầu Thái Bình を渡り、国道 10 号線を北に。

7:13 h. Đông Hưng に入る。

7:23 thị trấn Đông Hưng。sông Diên Hộ に架かる cầu Nguyễn をわたる。

7:35 頃 桃木トイレ休憩。県役場には寄らないらしい。

8:08 UBND x. An Hiệp 着。

社側

社主席：Xuyên

社副主席：Hành?

あとで phòng văn hóa の男性、bí thư chi bộ が合流。

挨拶はあっさり終了。

8:29 Đình Vược = Đình Nguyên Xá = Đình Đá 着。

碑文 1 基：正和 5（1684）年（地名表記：太平府美舎社阮舎村）。

Nguyễn Đại Hường が字を起こしたものあり→Thom 経由で岩田撮影。

かなり立派なディン。石はニンビンから持ってきたとのこと（Hường によるとタインホアから）。

老人数人と対談。Phan Minh Vũ（Mảnh đất và con người làng Vược（dur thảo）, 1998/12 の主編者）。Nguyễn Đại Hường（87 歳）など。

この地は 11 世紀以来の歴史。

ディンは 1076 年に宋を撃退したのちに建設した。次の修築が正和 5 年。1936 年に修築決定、42 年完成。1996 年に省の文化財に指定。

この thôn Nguyên Xá はもともとは Nguyễn Xá だったのが、一画違いで Nguyên Xá になった。tên Nôm là làng Vược。1945 年以前は thuộc x. Mỹ Xá。

Vũ は現在は đình の trưởng ban khánh thiết。2001 年までの trưởng ban tư vấn văn hóa だった。そのときの仕事は(1)ディンの復興、(2) làng văn hóa の建設、(3) chợ hôm の建設。

開村の由来 Ninh Bình の Nho Quan から移住。三兄弟が Dương Công という人に学問を習い、thi đỗ làm quan。抗宋戦に貢献し、この村で宴を催した。3 人はここを去るが、dân làng は恩を感じてディンを建設。3 人は 2 王朝より上等神に封じられる：Thái thường Thủy đại vương, Thái thường Kỳ đại vương, Thái thường Vĩ đại vương。

300m ほど離れたところに miếu あり。對聯の文句：Đông hải Cần vương, Nhất đại nguyên công, Truyền lý sư, Nam sơn khiến thánh tam trung mỹ đức。これに対応する文句がこちらのディンの對聯にもある。

陰曆 2 月 9 日が忌日。miếu からディンに rước して mô hôi vào đám し、3 月 5 日に rước して

戻る。昔はこの間がずっとお祭りの期間だった。現在は条件に応じて2-3日程度。

Lễ hội : thi bánh giã giày (餅つき大会) がある。むかしは vật (相撲) や chơi gà, đi cầu đóc mộc (内容不明)、bóng chuyền など、夜にはソムごとに歌舞音曲を催していた。現在は hội phụ nữ が仕切っている。

昔は chùa と đình の両方あった (碑文に関連記事あり)。

このディンは工字型 (にするつもり) なのだが、3間の後堂がまだできていない。

ゾンホについて 大きいのは Nguyễn と Phạm。昔は 9 giáp 11 dòng họ だった (トムによるまとめ)。Vũ は孫の代で7代目。

9:00 頃 辞去。徒歩で移動。

9:25 寶靈寺 (在 thôn Nguyễn Xá)

本堂は南に向かって60度東。

鐘楼あり。鐘は2006年製。

4面石柱一基。正和甲戌15年(1694)。

ここは15世紀までは多翼県。それ以降は附翼県。

9:48 頃 辞去。ディンの所に戻り、Vũ などと分かれる。車で移動。

10:04 阮族の祀堂に。

族長の Nguyễn Văn Kiêm 77歳。もと bí thư Đảng ủy。

抗仏戦には参加、抗米戦は村に残って仕事に従事。

18世紀の進士阮炎を戴く。1691年生まれ、1721年に第三甲同進士出身。海陽按察使・御史などを歴任。登科録によれば保泰2(1721)年第三甲同進士出身、官は憲使に至る。

祀堂：箱入りの位牌が2基。中央に阮炎の母親の絵(1804年描：省博物館に拡大した複製あり)。

現在5支あり、それぞれが祀堂を持っている。族は4代にわたって官僚を輩出。

ngày giỗ は覚えていない。自身が何代目かも記憶していない。

この場所は thôn Cầu (thôn Lam Cầu)、むかしは làng Me と呼んでいた。

村のゾンホ：村外に多数出ているが、村内には7戸ある。

4面石柱一基。昭統2年(1788)。

勅封5道、族譜1冊(『全族世譜』)を撮影(岩田)。

トムの解説：ここはもともと低地に貼り付いた微高地だった。最初の居住はこう言うところ



ろから始まるものだ。

10:55 UBND に戻って挨拶、帰路に就く。

トム：Đông Hưng に陳朝の An Hạ vương の田庄があった。

12:00 頃 ホテル着。

2007/12/25

参加者：桃木、蓮田、岩田、一瀬、Kiên、Thom

曇天、やや気温低し。

7:04 h. Quỳnh Phụ に出発。Bảo tàng にて Thom と合流。x. An Thái に向かう。

7:45 省道 217 号線で Quỳnh Phụ 県都 Quỳnh Côi。Thom がいったん下車。朝市を強行突破して市外へ。

8:05 x. An Hiệp を昨日と反対側から通過。

8:16 UBND x. An Thái 着。

挨拶

phó chủ tịch xã : Lương Văn Vương

chủ tịch mặt trận tổ quốc xã : Nguyễn Văn Toại,

trưởng thôn thượng : Nguyễn Văn Luân

trưởng phòng văn hóa huyện : Nguyễn Văn Hùng

phó trưởng phòng văn hóa huyện : Đào Đức Trọng

トアイ同乗してデンに向かう。

8:23 頃? đình A Sào (在 thôn A Sào = làng A Sào)

陳興道の米倉があったとの伝承。

外観だけ見てあっさり撤退。やや離れたところにある田んぼの真ん中のデンに移動。

8:43 着。

台座の両側のカウドイ (他は写真撮影)

(向かって) 右：南嶽降塵傳萬代

左：陳朝猷跡支旃容

左右の柱のカウドイ (下側が写真撮影不能につき筆写)

右：西結粉[マ]兵威萬古英聲京北

左：東阿留勝跡千秋靈應振南天

本堂の右側の別棟で史料撮影。

勅封：6道、全て写し。文字・印のない用紙も1枚。

9:25 辞去。

9:31 đình Thượng, thôn Thượng

ディンはほぼ北面。

一面碑文1基：上村亭碑誌（保大陸年）

カウドイたくさん→筆写

Cao Ma Lâu を祀る。附近6村を建てた人。共通して祀られている。6村の一部は An Hiệp に含まれる。

Cao Ma Lâu はハタイの Quốc Oai の人。lê hội は旧暦2月10日。

10:12 徒歩で城隍の墓に。

李朝建國千秋在

美地開居萬代古

Thom 曰く、これは墓ではなく文址だった。

10:27 thôn Thái Thuận の đền làng。閉まっていたので先に chùa に行く。

chùa Thái Thuận = chùa Me Đòà

本堂は2006-07年にかけて再建。

柱だけになっている旧本堂の屋根の上中央に「寺靈雲」（並びはマ。読順不明）。

碑林あり。半分はクオックグーの功德碑。左半は次の漢文碑文1基を除いて未刻。

碑文1基、保泰年間（両面）

結婚式（đi đón dâu）に遭遇。

10:47 đình làng

陳興道を祀る。

昔ここに李朝時代の石の bát hương があったが無くなった。→すかさず Thom 訂正。そんな古いものがあるわけ無い。阮朝のものだ。

現在の建物は1992年建造（棟木より）

カウドイメモ

前堂左：闔以外人望而畏之

前堂右：位正中神徳其盛矣  
前堂入り口壁右：恩在民心除國賊  
前堂入り口壁左：名留戦跡破元兵  
後宮中の位牌：太王師父上國公諡曰興道大王之位

勅封：同慶7年？（要写真確認）。他にもたくさんあったが失われてしまった（内容を写したノート・リストはあり）。玉譜などもあり。

11:00 過ぎ 辞去。  
昨日と同じルートで国道に出て帰投。  
11:54 ホテル着

2007/12/26

曇天。気温、昨日よりも低し

メンバー：桃木、八尾、蓮田、一瀬、Thom

7:03 出発、博物館で Thom 合流。thị trấn An Bài へ向かう。  
開国功臣范盃の故郷らしい。

国道10号線をひたすら北上。

7:39 国道沿いの UBND 着

挨拶

幹部

文化担当副主席：Nguyễn Đình Thuán

文化担当幹部：Vũ Đức Duyên

県幹部：Trọng、公安：Viên（昨日もいた）

最近 thị trấn に昇格。UBND の建物はまだ xã の表記。

8:02 出発。国道10号線を少し北上し、西に入る。

đình Đông Linh（在 xóm 1 thôn Đông Linh）

おじいさんたち多数に迎撃される。

遺跡管理班30人。長は Lợi（？）さん。

三字型。230度向

前殿：Lê Bôi 黎盃（范盃）の位牌

中殿：中央が Lê Bôi の帽子。椅子の上、向かって左が第7位の位牌（范盃と一緒に蜂起した人間）、右が第6位（范盃と一緒に蜂起した人間）。6位と7位はもともと別の所に祀っていたのを移した。

中庭右側の回廊部に烈士を祀る空間あり。1997年立の烈士の碑。その手前にカウドイ4つ。写真撮影不能だが、チュノム多用で打ち込み困難（桃木メモあり）。

後殿：Lê Bôi の陵墓（地中に遺骸ありとのこと）。位牌あり「亭棟大王祠下」。

碑文4基（全て2面）

范盃（黎盃）について：父親は Phạm Chương が京北より移住。京北での范氏の12代目。村の女性 Phan Thị Tố と結婚して盃を生んだ（陰暦1397年2月12日→忌日に）。1471年に74歳で死亡。

祭：2月12日が準備日、13・14が礼、15日が正礼。15日が正礼なのは ngày dăm だから。16日は閉幕。

范一族は今は居ない。だから家譜も祀堂もない。

この làng の大族：Nguyễn Duy と Vũ Như は祀堂あり。このほかに Nguyễn Bá, Hoàng, Trần, Phạm（范盃とは無縁）、Bùi, Nguyễn Văn, Ngụy（魏）などあり。

ディンは1736年創建。そのご修築を繰り返すが、焼けてはいない。

9:05 頃 辞去。

9:10 đình Lý Xá（在 xóm 11）。かつては làng Lý Xá だった。

80度向き。前庭+前殿+後宮（建設中：棟木は2007年に相当する干支）。

前殿：正面向かって右側に祭壇という変わった構造。

祭神：Đức Thánh Ba。Đức Thánh Cá はすぐ近くの đình Lý Xá（同じ名前のディンが2つある）に祀っている。

もとは後宮は3位の神を祀っていたが、現在は、その左右に別の祭壇あり。それは他所で祀られていた神をここで合祀する予定だから（?）

この村には3つの寺がある。Khánh Vân tự, Linh Quang tự, chùa Lúa

中庭で作成途中（乾燥過程）のカウドイ4枚と Đại Tự 1枚は、かつてあったものに基づいている。後宮のカウドイは新しく創作したもの。

玉譜と村の歴史を記した文書（クオックグー）を撮影。

9:42 辞去

途中で sông Cò (sông Trà Lý 経由で海に繋がっていると言われたが、地理的には合わない) を渡るが、車が通れないので、橋からは徒歩。

途中に墓地あり。そこに Đỗ 氏のある ngành の墓あり。嫁いできた他姓の女性の墓も同じ敷地にあり。

10:03 đình Đáy = đình An Giang (在 làng Đáy) 着。

250 度向き。100 年ほど前に破壊された。歇驕 Yết Kiêu を祀る。

外壁の下が写真の撮れないカウドイ。

内側：下邨元貫下邨興

横側：安江萬古傳人傑

建物が前後に区切られている。手前側左に mẫu が祀られている。

勅封 1 道 (啓定 2 年 3 月 18 日) と玉譜 (Yết Kiêu に就いてではない) 撮影。

ここはもともと漁民の村 (勅封によれば安江坊)。水上居民がいた。現在は全て陸に上がっている。

10:30 辞去

10:53 UBND を辞去して帰路に就く。

11:27 ホテル着

2007/12/27

参加者：桃木、八尾、蓮田、岩田、一瀬、Kien、Thom

7:03 ごろ 出動、博物館でトムと医学部生という娘が乗ってくる。娘はどこかに用事があるらしい。

7:35 UBND xã An Lê 着

会議室で挨拶。ここも社の地図なし。マルクス・レーニンの肖像 (ホーチミンは別に掛かっている)。

党委員会書記：Nguyễn Thanh Nam

人民委員会副主席 (?)：Đình Văn Thuần

文化幹部：Đình Chí Phung 他。

県幹部 (文化室副主任)：Trọng も来ている。

トムとナムの挨拶

7:55 乗車。近くに日本の援助で出来た小学校校舎（窓ガラスが全部はまっている）。

アンレー社は4村：Đông Phúc, Đạm Đồng, Hưng Hòa, Đồng Bằng

国道を戻って西へ折れ最初の đền Đồng Bằng (1986年国家指定史跡、在 xóm 5, thôn Đồng Bằng。Đồng Bằng村は xóm 4 と xóm 5 が属する)。

門前に店が並ぶ大きなデン。横から見ると3棟分。230度向き。

まず後宮（宮禁）で礼拝。デンの人が供物の皿を持ってくる。後宮中央祭壇に祀られているのは Đức Phu だが、

トム：祭礼は8月20日で実質的にはチャンフンダオである（8月20日はチャンフンダオの命日）。このデンは初建年代不明。重修は阮朝で最後は1942年。神蹟によれば神は雄睿王の時の水神で、もとは9つのデンで部下たちをそれぞれ祀っていた。祭礼は8月20日でボートレースがある。それにはハイズオンの làng Nuôi から来る。

後宮の額は啓定甲子秋。

カウドイ右「靈光日朗天晴洞口祥風通八海」

左「徳化雷行電迅雲頭法雨潤群方」

神像後ろに位牌がしまっている。大3基中4基？ そのうち1つを出してくれて撮影。これと香鉢を8月21日にズオックして đình Bơi へ持っていく。

後宮祭壇下に井戸があり今でも使っている。外径120cm。

以下、前殿の撮影。范五老の詩を書いた額など。

前殿の一番奥が第一官の像、向かって右に聖母を祀る部屋あり。

その前に第二官像、その前に第三官の帽子、その前に第四官帽子、その前に「共同神」の位牌（「三界天主 四府萬靈 共同聖帝」と紙に書いて貼ってあった）。

鐘と馨（新しいものでハノイで铸造）が1つずつ。

ナム：ここの神は永公大王で李朝時代にこの地域が海口であった時にその8つの海口（八海、海口毎に洞 động = thôn あり）を守った者とのこと。城隍神より格上。

本殿右奥の建物で挨拶。本堂前で記念撮影

9:00 時乗車。

国道を北へ戻り西へ折れる。

9:06 đền Sinh (省指定史跡) / đền Mẫu Sinh (在 Đồng Bảng 村、xóm 5) 着  
本殿は N20 度 E。門は西に開いている。  
本堂に向かって左側に đền thờ Bác がありホーおじさんを祀っている。

まずお線香。後宮(霊廟)は左右に3つ台座あり。それぞれ女神を祀る。中央が đức Vua の母親。前殿に祀られている đức Vua は次男。その前に Ngũ vị Tôn Ông と呼ばれる官吏集団の像。その前に「公同」の線香鉢

ここで勅封2道撮影。ぼろぼろ。各祭壇の上にはつり下げた傘などフーの雰囲気。

デントー・バック(2005年建設)も拝んで(右側カウドイのチュノムが読めない)辞去。

9:32 乗車

国道を北へ走り đền quan lớn Đệ Nhất のところで左折。村の中を走る

9:40 下車。歩いて đình-chùa Đồng Bảng (省指定審査中) へ。

まずディン(在:古名は Đồng Ông。現在地は xóm 6 thôn Hưng Hòa (この村は xóm 6~8。x. An Lễ は 8 ソムある)) へ

ディンの本堂左壁にサクフォンと神譜をクオックグー化したプレートがある。祭礼は3月3日。雄睿王を助けて蜀の賊を破った。

Bác sĩ Phan Văn Cường (chủ tịch hội cao tuổi xã An Lễ, 78 歳、医科大学卒業) が熱心に解説してくれる。電話番号まで教えてくれた。

寺(chùa Hưng Phúc or chùa Đàm Liên)に回る。

本堂は S 60 度 W 向き。本堂でまずお線香。堂内右手前に紹治年間の鐘。脚立を借りて岩田・桃木が撮影。

本堂前の左右に碑屋。後仏碑を5基ずつ置く。向かって右を一瀬+蓮田、左を岩田+桃木で撮影。正和2年など黎朝後期の碑文。前庭の灯籠にも文字。一瀬撮影

寺の女性住職は Tụ Đàm Liên。赤十字会に 100,000 ドン寄付した表彰状あり。

寺の本堂右側奥にフーがある。別棟のフーは今日初めて。ここでロク(お下がり)のチョコパイ、ウエハース、みかんなどいただき記念撮影

11:05 乗車。

11:15 国道脇の食堂で社の招待宴会。犬猫とかいう声が聞こえ店の前には犬が檻に入れられているので心配したが料理は魚の鍋中心だった。3卓に分かれ vodka Hanoi で乾杯を繰り返す

返す。蓮田が最初にはじけ、氣勢をそがれた八尾は控え目。キエンもかなり出来上がり。

14:00 時過ぎ 帰館。

夕方 写真整理など一部するが寝ている者もあり未完成。吉本合流。

2008/12/28

参加者：八尾、桃木、蓮田、岩田、一瀬、Thom

曇天。昨日よりやや暖かい。

7:05 出動 バオタンで少し待ちトム乗せる。

7:15 発車。

7:45 アンバイから左折。

8:00 xã An Đông の UBND。

県のチョンと公安のおじさんも合流。

8:06 トム挨拶。

社側

党委秘書記：Bùi Mạnh Ưu,

PCT UBND：Nguyễn Ngọc Lưu

trường ban văn hóa：Nguyễn Văn Tuấn

chủ tịch mặt trận Tổ quốc：Tu

Yêu 挨拶。

この社は6村：Đông Lễ Văn, Tây Lê Văn, Vũ Xá, Bắc Dũng, Đông Tâm, Đào Xá  
すぐ歩き出す。

đình Vũ Xá (2002 年省指定史跡、在 thôn Vũ Xá)

停電。W 10 度 S 向き。黄氏の3神 (Hàng Quế, Hàng Hòe, Hàng Liễu) を祀る  
チャンフンダオも。

黄氏3神は後宮左台座。中央はチャンフンダオ像。ご開帳して見せてくれる。

後宮右台座は左から位牌一冠一位牌。字は無し。このディンは仏軍に壊された。

47-49 年ごろ仏軍が来た。後宮棟木は辛巳年 (2001?)

前殿右側にいろいろな写真。サクフォン4道の写真、98年2月10日の祭礼の写真(このとき復活?)、2002年文化財指定の際など。チャン・クオック・ヴオン先生が写っているものもある。

祭礼では獅子舞や将棋、闘鶏などをやる。陰暦2月10日が lễ hội、8月20日がチャンフン



ダオの ngày giỗ。

前殿左側はフー（隣に新築中で仮住まい）。

8:50 UBND に戻って乗車。西へ路上市場を抜け北へ折れる。集落の中に入る。

8:55 下車。

「生祠徳大王」とあるが寺 chùa Am Quả（在 xóm 4, thôn Bắc Dũng）

トム：もとチャンフンダオはディンに祀ったが戦争で破壊。今の幼稚園の場所

棟木「丁丑年新造」（1997 年）

祭は 8 月 20 日（19-21 日の 3 日間）。1996 年省指定史跡審理中の証明書あり

9:17 乗車。UBND で県の幹部は自分のバイクに乗る。

9:32 đình Tây của thôn Đào Xá 着。S 60 度 W 向き。

隣は chùa Đào Xá（tên Nôm が chùa Hội）

この村にはディンが 2 つあるとのこと

前殿カウドイ

右柱「保大五年春一片黄雲天応夢」

左「双符白玉地鐘英 本社当次里長范立基恭進」

その奥

左「民風陶造溢歌声」

右「聖代太平隆造典」

後宮入り口前

右「正直聰明体物誕敷陶造徳」

左「衣冠礼樂飲（？）和共+翁太平風」

後宮 手前の台上に椅子。後に位牌 3 基。

左「城隍当亭靈応大王」

中「天神尊神歳（威？）勇大將軍大王」

右「善治普護恵沢広済大王」

城隍は 3 位：Đỗ Hiến（忌日は 2/12）、Đỗ Hạ（10/11）、Hung Tuấn Chính（5/18）

石仏多数。17 世紀末から 18 世紀のものとのこと。

省指定史跡審理中

9:58 乗車 村の文化幹部のトゥアンはここでお別れ。北へ走って xã An Khê へ

10:03 UBND xã An Khê ここは会議室に地図あり。

人民委員会副主席：Vũ Ngọc Sơn

文化室長：Nguyễn Duy Vương

トム挨拶、ソン挨拶し予備のお土産渡してすぐ出発。

10:10 出て徒歩で đền Lòng Khê へ。国家指定遺跡。

村のテンノムは làng Nhón? 屋根瓦に「祠中普」の3字を描く。

陽徳年間の碑文あり。裏面は壁に近すぎて読めない。

前殿 5 間。

中庭右側の部屋（3 人の đức ông を祀る）に陽徳碑文。

左の部屋はマウ（聖母）を祀る。

中庭には đức Thánh Trần

その手間（前殿の後壁下）に古い石（11 世紀のもので昔国師が踏んだとの伝説あり。その石が沈んでいたとされる池が寺の正面にあり、やはり古いものとされる石橋が架かっている）。

中殿には李常傑。左右壁に絵がある。中央祭壇には仏像。後に李常傑像（布をめくって一瀬撮影）。これはもとディンにあった đức Đại Vương である。横に版木が置いてある。左の祭壇には手前に仏像 2 体。後に椅子 2。右の椅子には位牌置くが字無し。右祭壇前は仏像 2 体。後に椅子 3。中・右の椅子には位牌。右のは字あり撮影も読めそうもない。

後宮入り口前の祭壇には仏像 1 体、後に 3 体の đức ông 後宮内 中央に仏像。その後に楊空路像。左にその母、右にその父。

中央左右にカウドイ。

手前左「降龍妙術阮真仙灯台濟名」

後左「李朝出現仏真靈」

手前右「止蛤靈方李仁聖同辰尊礼」

後右「陳世陰扶神表夢」

後宮外側壁のカウドイ

左「無窮其徳洲留神呪到于今 右（居）士阮和恭進」

右「乙亥年孟春 不朽著名祠屹靈宵伝自古」

それより手前は撮影可。サクフォン・古書が多数出て撮影におおわらわで終了。

11:18 記念撮影して県幹部とも別れ乗車。

11:37 国道。

11:45 頃 雨。

12:00 すぎ 帰館。

2007/12/29

参加者：八尾、嶋尾、松尾、吉本、蓮田、岩田、大谷、川本、Hân, Nhung  
本日より1隊となって行動

曇天。気温やや低く、風あり。

7:04 出発。

7:42 UBND x. Đông Sơn 着

副主席：Lã Quý Trọng（貴重？）、51歳。

挨拶はしゃんしゃんと。

この社は làng nghề dệt may

社の小史。かつては3つの社から成った。

xếp hạng された遺跡が8つあり、3つは国家レベル。5つは省レベル。

8:01 出発 道すがら社の幹部に聞き取り

社の人口は12,000人。400 haの田圃。

この村は文献の村だと自慢。

道は全て煉瓦敷き。nộp cheo で敷いた。

現在のUBの所在地は、かつてはディンがあったが、フランスが壊した。

1962年建設の建物が今でも使われている。

トンとソムの関係：6村10ソム

thôn Bắc : xóm 1, 2

thôn Trung : xóm 3, 4

thôn Đông : xóm 5, 6

thôn Nam : xóm 7, 8

thôn Phấn Dũng : xóm 9

thôn Nam : xóm 10

8:08 nhà thờ họ Phạm Huy (在 xóm 4, thôn Trung)

やけに立派な祀堂（国家指定史跡）280度向き

洋式水洗トイレあり。

ここは2年前に重修した。

族の代表 (Phạm Huy Hạnh、66 歳、12 代) の演説：長〜い

この祀堂は范氏全体の祀堂←Hân の誘導訪問による。

初代 (Phạm Phúc Minh) は 1660 年にこの村に来た。現在は 14・15 代目がいる。

3 支派ある。4 代目 (Phạm Huy Lao) に 3 つの chi に分かれた。

現在はあわせて 319 世帯、703 口 (おそらく男子のみ)。うち 83 世帯が国内外各地で活躍中。烈士 26 人。

ゾンホとは血と心の絆である！相互扶助の精神が大事で、祀堂はそのための教育施設なのだ！！

家訓あり (写真参照)。

族には 3 つの財産がある。

①祀堂：19 世紀末の抗仏戦で焼けたが再建した。勅封や文献は皆焼けた

②始祖の墓：400 年前のもの

③漢文家譜：Phạm Huy Quang についての記述あり。現在ではクオックグー化したものもある。

著名人では、阮朝の官吏で帰郷して学校を開き、勤王運動に参加した Phạm Huy Quang (8 代) がいる。

勅封や Phạm Huy Quang 関連史料は抗仏戦で焼けた。

始祖はタインホアから戦乱を避けて移住。

17 世紀にやってきて開拓した。

家譜を撮影 (2 冊だが、家譜部分は同じで、片方には忌日一覧が付け加わっている)

村の歴史：

古老によると、この村はかつて xã Phú Lưu だった。これは 3 つの thôn (thôn Phù, thôn Thượng, thôn Đại) から成っていた。その上に tổng Đồng Vi (黎朝では tổng Phù Lưu) があった。Hân によると、この村の tên Nôm は làng Tàu。その由来についての伝承では、10 世紀に呂一族の始祖が中国 (のどこからか不明) から移住した。現在も呂氏は村に多数居住している (最大の族)。

呂一族の始祖は中国 (のどこからか不明) から移住して、丁部領を助けた。

副主席も呂一族。呂族の歴史についての文献があるとのことだったが、実見叶わず。詳細不明。

祀堂の前庭にて聞き取り。

・インフォーマント：Phạm Huy Sờ、39 歳、第 3 支の 11 代；族長の Hanh には実の兄 Phạm Huy Nam がおり、現在はランソン省で立業、医師をしている (?)。Nam が族長の地位を Hanh に譲ったので、現在の族長は Hanh である。

続いて、社の副主席に thôn について聞き取り；現在の社には6つの thôn がある。それぞれの名称（古い名称、文化史跡）はいかの通り。

thôn Trung = làng Tàu : Đình Triều Quốc Mẫu, từ đường Phạm Huy

thôn Đông = làng Đào Xá : đình Đào Xá, chùa Xanh

thôn Bắc = làng Đọ : chùa Đọ, miếu Bắc

thôn Nam = ? 調査漏れ : đình Tàu

thôn Phấn Dũng = làng Quai : chùa Quai, đền Tứ Phủ

thôn Nam Dụ = làng Rọ? : đền Rò?

この後、車中にて博物館副館長のハンが、社全体で64のゾンホがあり、そのうち40のゾンホに祀堂があるとのこと。

伝統手工芸である絹織物業について上記の Sò に聞き取り；現在はこの村で織っている人はいない。織機をもっている人もいない。1994年までは thôn Bắc の Đại Đồng 合作社が織物を行っていたが現在は縫製工場になっている。この辺りでは、現在は làng Mẹo でしか織っていない。前庭に座ってお茶を飲んでいたおばあさん達に織物ができるか尋ねたが、できるといったものはいなかった。

帰り際に族長である Hạnh にゾーの日について尋ねたところ、tư quy すなわち旧暦の1月24日、5月27日、7月25日、12月10日の4回行う。マムの数は20

9:08 辞去

9:15 đình Tàu (在 thôn Nam)

140度向き

勅封12道。祭られている城隍神は2人いる。

ディンを管理している古老によると、李朝期のものから数えて16の勅封がある。中央の祭壇に祀られている城隍は Hai Vị Đại Vương で、具体的な名称はないとのこと。言いつたえでは、李朝期に敵を討ってこの地で犠牲になった。

左側の祭壇は抗仏抗米期の烈士、右側の祭壇はディンの建設に貢献した人々を祀っている。祭日は旧暦の3月10日で、13日まで行われる（14日、15日まで続くこともある）。ディンは500年ほど前に建築され、今から110年前に一度修復を行った後、3年前にも塗装などを含めた修復を行った。

9:36 辞去

9:40 Nhà thờ họ Trần Công (在 thôn Nam)

170度向き

祠堂（陳功族全体のもの、史跡指定はされていない）の前に小さい家屋があり、その前で立っていた女性達に聞き取り。

・インフォーマント Trần Thị Hiền (63 歳)。系統的に族長にあたる Trần Công Quân は 2 年前に 61 歳で死亡した（命日は旧暦 2 月 11 日）。前庭の家屋にはその妻、Hợp (63 歳) が独りで暮らしている。故人 Quân の長男である Trần Công Quang は現在 30 歳で、サイゴンの水産会社で運転手をしている。彼は遠方におり、また、若すぎるので、現在は第 1 支の年長者である Tê、70 歳が祠堂の管理を引きうけている。ゾンホは 7 支ある。祠堂は 3 年前に修復した。ゾーは 3 月 27 日、70 マム用意する。昔は女は入れなかったが、今は祠堂に入っても問題ない。

ヴェトナム語版家譜（第一支のもの）を写真撮影

10:00 辞去

10:08 chùa Đọ (在 thôn Bắc)

漢字名は金龜寺。国家指定史跡。本堂は 290 度向き

住職：Thích Thanh Toán 師。

副主席の耳打ちによると異能のある人。漢字をよくし、風水の知識があり、墓や家を造るなど色々な機会に彼を頼る。僧であると同時に thầy cúng である。この寺には次官のような大物も寄進をしている。

呂氏の始祖の妹を祀った祠がある。

鍾銘 1 (タイソン期)、祭壇裏の銘記 (正和)、4 面石柱×2 (どちらも「安南國」表記・1 基は正和年間)、そのほかに碑文

三教の經典を刻んだ版木あり。

本堂の正面左に府。住職によると仏領期からあったが (?), 修復をしたのは今年になってから。中央の祭壇の奥に 3 柱の聖母。左から順に緑、赤、白の服を着ている。中にいた女性に聖母の名前を聞くと Tam Tòa Thánh Mẫu と答えた。祭日について住職に尋ねたところ、年始 (đầu năm) と年末 (cuối năm) で、レンドンはあるのかと尋ねるとないと答えた。

本堂の奥で版木を拭いていた女性への聞き取りでは、府では旧暦 3 月 3 日に礼をする。レンドンもある。村に Cầu cô Quyên というオンドンがいる。

10:42 : 辞去

廟に行くまでに「1940」という文字が飾られた教会の前を通過。その際の車中での会話：  
社には教会が1つ、カトリック教徒が約175人。

10:48 miếu Bắc (在 thôn Bắc)

正北面。国家指定史跡。

丁朝の將軍4人を祭る。勅封4道(但し4人分ではない)を撮影  
隣接する烈士記念施設について、320人の烈士がこの村から出た。

鍾銘：嗣徳17年(1864)

ハン：最初ディンが1つのムラにはあるが、それが分かれて複数のムラになると、それぞれが独立したミエウを建てる。規模はディンより小さい

ちなみに建物の中の壁にはデン・バックとあった。

西側の府には勅封無し

11:10 辞去

11:15 下車

11:19 chùa Quai (在 thôn Phần Dũng)

漢字名は興福寺。本堂は正西面。省指定史跡

碑文5点。うち1点(「古刀渡市」という市場に関する碑文)は祭壇との間に挟まって撮影不能。

住職：Thích Đan Năm(女性、70歳)。本堂の中央祭壇の右隣に赤い服を着た聖母の祭壇あり。住職によると Lư Hành である。旧暦3月3日に礼をする。レンドンは時々やる。村にはバードンもオンドンもない。

11:35 辞去して、宿舎に帰投。

2007/12/31

参加者：八尾、嶋尾、松尾、大谷、川本、吉本、蓮田、岩田、ハン、ニユン

7:05 ホテル出発。曇り。やや明りがみえる

いつものように博物館へ。ハンとニユンが同行。

行程では Đông Tân 社のみ訪問の予定であったが、史跡の数が少ない Đông Phong 社にも行くことになった。よって1月2日は xã Đông La へ

7:25 国道10号線を行き過ぎてタイビン方面に引き返した後、左折。

国道 39 号線に入り、道が狭くなる。

7 : 35 Cầu Gọ 通過。

7 : 45 下車。Đông Tân 社人民委員会に到着。

ニュンの挨拶がはじまり

主席 : Ngô Văn Ban

Ban Văn hóa xã 社文化委員: Nguyễn Thanh Hạ

ハンの挨拶。Múa giáo cờ, giáo quạt の村があり、史跡の紹介など。

主席の挨拶。

社には 2 つの歴史文化遺跡。そのうち đình-chùa-lăng は国定である。

Múa giáo cờ, giáo quạt は村の代表団が 1997 年? に渡欧し、ドイツやフランスで実演した。

そのうち現在は 80 歳? を超えた女性もいる。36 の踊りの型? がある。

8 : 08 車で cụm di tích đình-chùa-lăng (đình, lăng mộ, chùa) の đình へ。

160 度向き。

ディンの真正面の門 (三門) について : かつては真ん中の門は通れず、両脇の門を使った。

1989 年に重修。

社の公安 (Công An viên xã) である Bùi Văn Sơn (35 歳) : 祭祀の対象になっているのは Trần Thị Quý Minh 陳氏貴明である。この女性はディンを建て、立邑 lập làng し、Múa giáo cờ, giáo quạt を残した。彼女の像が「宮禁」(後殿張り出し部分) に存在。普通は見られないとのこと。

社には 4 つの thôn がある。

thôn Đông Thượng Liệt

thôn Tây Thượng Liệt (かつてこの 2 つは làng Thượng Liệt というひとつのランであった)

thôn Lại Xá

thôn Vĩnh Ninh

社の人口委員 dân số xã の Lưu Thị Loan (51 歳) : 社の人口は 6,335 人 (うち女性は 3,295 人)、個数 1,181 戸である。社にはいくつのゾンホがあるのか、と尋ねると、それはわからないが、一番大きいのは Trần だと答えた。

6 歳ごろに踊りを習い始めたという Nguyễn Thị Dè (73 歳) に踊りのことについて尋ねる : かつて、彼女が若いころ、踊り手は 5, 6 歳から未婚の女性、つまり処女でないとならなかった。現在は結婚した女性でも踊ることができる。また、亭に祀られている Trần Thị Quý Minh



について次のように話した： bà は Trần Nhân Tông の娘であった。彼女を含む 3 人の娘 3 bà chị em、すなわち、 bà Trần Thị Quý Minh、 bà Hoa、 bà ? (インフォーマントが思い出せなかった) は、父が薦めた同じ họ の男性と結婚しなかったため、それぞれ lập ấp した。 Bà Hoa は làng Phát Lộc, bà ? は làng Đọi を建てた。

社主席および接客所の説明文 (典拠は *Thẻ phả họ Trần* と勅封) によれば、 Trần Thị Quý Minh は陳睿宗の 3 人娘の長女で、末の娘 2 人は h. Thái Thụy のタインホアンになっている。

亭の祭日は、旧暦の 1 月 10 日の *mùng xuân* と 4 月 10 日のゾーである。ゾーの日は祭礼 *té lễ* のみを行うが、 *mùng xuân* では *múa giáo cò, giáo quạt* する。

亭の事務室に飾られた写真に対する解説：この城皇が女性であるので、昔から女官の祭礼と女性の舞が行われてきた。この踊りはむかし生娘だけが踊られた。89 年に復活したのだが、そのときは若者が知らなかったのでおばあさんたちだけが舞った。高齢者が毎年 1 人踊りを教える係りになる。毎年交代する。

8 : 47 亭に向かって右側にある làng を見学した後、歩いて Chùa (門に天徳寺の名有り。逆にノムの名は無いとのこと) へ。

正面の本堂は修築中 (25 億ドン) であるため、一部の仏像が本堂に向かって右側の、聖母を祀るお堂に保管されていた。寺の敷地にいた老婆に聖母の名前を尋ねると、 Tam Tòa Thánh Mẫu と答えた。聖母像に対する祭礼の日は旧暦の 1 月 10 日で、レンドンもある。公安の Sơn もレンドンはたくさん行われると答えた。

踊り手の一人で、làng の管理を任されている Nguyễn Thị Lùng (78 歳) から、村の踊りを紹介する DVD をもらう。彼女も写っているとのこと。

亭に戻って勅封 (通しナンバーが振ってある) と *Số Vàng Thương Liệt* の一部を撮影。

撮影順に

No.22 維新 3/8/11

No.10 景興 1/7/24

No.11 景興 28/8/8

No.12 景興 44/7/26

No.13 景興 44/5/16

No.14 光中 5/7/20

No.15 景盛 4/5/21

No.16 明命 2/7/21

No.17 紹治 4/6/28

No.18 紹治 4/5/26  
No.19 嗣徳 3/12/17  
No.20 嗣徳 33/12/24  
No.21 同慶 2/7/1  
No.9 永慶 2/12/10  
No.8 永盛 6/8/10  
No.8 ママ 永祚 8/3/14  
No.7 正和 4/閏 6/24  
No.6 永寿 3/11/29  
No.6 ママ 永祚 6/2/20  
No.5 慶徳 4/2/19  
No.4 陽和 8/12/28  
No.3 陽和 3/3/27 (No.1, 2 は欠番)

神譜（1938年編纂？）は国家が管理していると社の幹部や管理人が回答。

9:09 車に乗って thôn Lại Xá にある chùa Lan へ向かう。

9:22 下車。chùa Lan 着

本堂は 140 度向き

かつてはディンもあったが戦中に失われ、今はチュアのみ  
省指定歴史文化遺跡。

寺の敷地に暮らし、管理をしている Đỗ Thị Khánh (68 歳) に尋ねると：この寺の住職は尼僧の Thích Diệu Truyền (63 歳、2008 年には 64 歳)。住職は Đông Cường 社, thôn Hạnh Từ にある Hoàng Văn Tự に常住しており、この寺に来るのは旧暦毎月 1 日、15 日、3 月 3 日の聖母祭、4 月 8 日の Phật Đản などの日だけ。

寺は 1696 年に建立。一番最近では 1997 年？に修復した。

村の trưởng hội Phật tượng だという Nguyễn Thị My (57 歳)：寺の信者 Tín đồ 男女合わせて 120 人。

聖母を祀るお堂の内部を見学。聖母の名前を尋ねると Ngọc Hoa Công Chúa と答えた。旧暦の 1 月 6 日にはレンドンもある。村にバードンはいるのかを尋ねると、Quách Thị Thúy (53 歳) と Nguyễn Thị Oanh (52 歳) がいるとのこと

もとディンにあった勅封（明かな再写も含む）を撮影

撮影順に

啓定 9/7/25

啓定 9/7/25

陳興道王勅封の目録

嘉隆 9/6/15

紹治 6/6/16

啓定 9/7/25

維新 3/8/11

嗣徳 3/12/17

光中 5/7/28

紹治 6/7/16

嗣徳 33/11/24

啓定 9/7/25

紹治 4/9/5

景興 44/5/16

嗣徳 3/12/20

明命 2/7/21

紹治 4/8/1

10:10 UBND x. Đông Phong

挨拶

幹部

主席：Tông Hồng Phong (1969 年生)

副主席：Tông Quang Vinh (1958 年生)

副書記長：Bùi Mạnh Khiết (1959 年生)

耕地面積 257ha、人口 3,115 人。

阮朝期の進士 Lê Hữu Thành についての情報無し。主席によれば、この村から進士が出たようだがその子孫は残っていないとのこと。資料や遺跡も残っていない。

ここは元々は太寧府と東關縣の中心地。

この社は thôn が 4 : thôn Thượng Phú, thôn Cổ Hội Tây, thôn Cổ Hội Đông, thôn Châu Giang

10:29 đình làng Thượng Phú

50 度向き

近年は改築していない。彫刻に残る塗料もそのまま。

史料は残っていない。

10:37 辞去。

10:42 đình Cổ Hội

300 度向き。2003 年省指定遺跡。

勅封 4 道（景興 44/5/16×2、啓定 9/7/25、昭統？/?/22）。もう 1 道あったらしいが、それはなくなった。

タインホアンを祀る。位牌 2 位を撮影

11:05 chùa Lan Thành（在 thôn Châu Giang）

130 度向き。

附近の看板では thị trấn Châu Giang。最近昇格したらしい。但し、この寺の地分は xã Đông Phong の管理地である。thôn Châu Giang はかつては thôn Long Mỹ だった。

碑文には蘭城寺とある。もともと龍美寺だったがかなり以前に忘れ去られて、蘭城寺と呼ばれていた。今回史料を集め直して龍美寺という名前が出てきた。

碑文：「蘭城寺四九碑」保大甲申年。鍾：保大 13 年。

1993 年に省指定遺跡。博物館と文化局によって指定されたが、いずれ取り直すとのこと（どうも何らかの理由で指定遺跡を取り消された模様）。

11:27 辞去してホテルに帰投。

2008/01/02

参加者：八尾、嶋尾、吉本、蓮田、岩田、大谷、川本、ハン、 ニュン

晴れ。気温 11℃とかなり低い。

7:24 UBND xã Đông La 着。暑くなってくる。

挨拶

幹部

副書記長：Nguyễn Văn Báo（1956 年生）

副主席：Trần Danh Thán（1959 年生）

文化委員：Nguyễn Đức Khoa（37 歳）

ここは Nhung 女史の夫君の故郷とのこと。

この村は 7 村：Cổ Dũng một, Cổ Dũng hai, Đồng Vi, Thuận Thủy, Đồng Lệ, Báo Châu, Anh Dũng.

7:46 đền-dình Cổ Dũng（在 thôn Cổ Dũng Một）

国道からディン・デンに至る小道に入る所に文化村の門あり

まずは đình. 250 度向き。1940 年上樑。鍾銘 1 : 明命 17 年 (1836)。1989 年国家指定史跡  
祀っている神 : Chàng Kha Thiên Đế (妹 or 弟) , Á Chúa Ngọc Hoàng (姉)

龍飛の元号を持つカウドイあり。中国人の影か? 嶋尾拘泥

ディンはさっさと切り上げて移動。

2 人のゾーは旧暦 8 月 8 日、ディンのホイは旧暦 3 月 10 日。

ディン守 : Bùi Văn Nôn (54 歳)

8:00 đình に移動。200 度向き

Miếu Trúc Lâm? とあるが . . .

ディンと同じ神々を祀る

勅封 : 嗣徳 9, 嗣徳 9, 同慶 2, 嗣徳 6, 啓定 9, 維新 3, 嗣徳 33

鍾銘 : 嗣徳年間

デン守の Bùi Bá Rạng (デン守歴 28 年、86 歳) : 2 人の神は雄王 18 年に Sơn Tây すなわち Hà Tây からやって来て、敵を討ってこの地に立邑した。

村には 16 のゾンホがある。一番大きいゾンホは Nguyễn, 2 番目は Bùi Văn, 3 番目は Mai Văn, 4 番目は Bùi Bá。グエン氏の成員である Nguyễn Văn Kiều (66 歳) : 成員は 1,000 人以上、祀堂の数は 6 つである。Mai Văn 氏の成員である Mai Văn Tiêu (70 歳) : 成員の数は約 500 人、祀堂の数は 2 つである。

ゾーの日はディンと同じである。

デンは 2005 年に修復した。

8:25 頃 辞去。UB に戻って乗車。

? 村村長の Hoàng Xuân Hải 同行

ニユンによると社の人口は約 12,000 人、耕地面積 674.5 ha

8:58 đình Rý (在 thôn Thuận Túy)

250 度向き。1998 年省指定史跡

鐘 : 鍾銘 (年代記載無) によれば、海陽の寺のもの。「買った」とのこと。

勅封

維新 3/8/11

啓定 9/7/25

啓定 9/7/25

嗣徳 6/10/23

嗣徳 6/10/27

啓定 9/7/25

神蹟：啓定 3

碑文：保大年間

旧暦 8 月 20 日がホイで 3 日間行われる。ゾーは旧暦 3 月 10 日。

前庭で隊の作業風景を見学していた女性たちによると、村で一番大きなゾンホは Hoàng。Hoàng 氏族長 Hoàng Xuân Tuân (63 歳) の嫁である Nguyễn Thị Nguyệt (63 歳)：Hoàng 氏には 4 つの祠堂があり、始祖のゾーは旧暦 1 月 6 日である。マムの数は 100 くらい。

女性たちに国道沿いにある広い田の持ち主について尋ねると、「ruộng toàn dân」と答える。1 人当たり 1 sào 3 thước が与えられる。

9:00 頃 辞去

9:05 nhà thờ họ Hoàng Xuân

270 度向き。1995 年省指定史跡。棟木は啓定 7 年

・インフォーマント：Hoàng Xuân Tuân (63 歳、族長)

この族は 6 世紀頃から存在し (始祖 Hoàng Dục?)、李常傑に従い、宋とチャンパ征伐に参加し功績あり

現存の世代はそれから数えて 18-20 代 (但し、具体的に遡れるのは 10 代位とのこと)

勅封：啓定 9, 啓定 9

9:25 頃 辞去

9:43 頃 chùa Đồng Vi (在 thôn Đồng Vi 同為)

漢字名は龍庵禪寺 本堂は 200 度向き。1993 年省指定史跡

かなりでかい。民間の資金で再修築。費用は 30 億ドン

中国滞在経験のある古老 (Mai Nguyệt Chút 枚月 = 祝+小) あり。碑文をすらすら? 読む。

南部から買ってきた白い石の観音像が梱包されたまま置いてある。100 triệu đồng、高さ 3 m、重さ 4 t とのこと。寺の前のスペースに池と高さ 17 メートルの山を造ってその頂上に鎮座させる計画だが、まだ当局の許可が下りていないとのこと。

本堂の裏の後殿棟木成泰6年

本堂の右側に聖母を祀るお堂、すなわち府がある。前方の祭壇に *Thánh* である *Nam Tào Bắc Đâu* が祀られており、後方の中央祭壇に聖母の像が3柱、*Tam Toà Thánh Mẫu* が祀られている。府守の *Bùi Thị Duyên* (60歳) : 真ん中の赤い上着を着ているのが天の女神、左の緑の上着を着ているのが森の女神、右の金(白)の上着を着ているのが水の女神である。ゾーは旧暦3月3日。

上記の *Duyên* によると住職は *Thích Thành Kiều* (33歳)。出家年数は20年以上。

10:24 すぐ近くの *miếu Hạ* に。

170度向き。南海大王を祀る。

勅封

維新 3/8/11 東海大王・南海大王宛

嗣徳 3/12/17 南海尊神宛

嗣徳 6/7/16, 嗣徳 6/7/16, 啓定 9/7/25 南海大王宛

10:50 頃 *miếu Thượng* (在 *thôn Đồng Vi*)

勅封

啓定 9/7/25, 嗣徳 3/12/17, 紹治 6/6/16, 嗣徳 33/11/24 東海大王宛

同慶 2/7/?4 東海大王・南海大王宛

紹治 6/7/16 東海大王宛

・レーホイは旧暦3月10日。文化担当の *Khoa* によると、この廟は村の東北に位置し、また、海に近く、村の後方に当たる。これに対し、上記の下廟 (*miếu Hạ*) は村の南で入り口に位置する。

11:12 *miếu thôn Bảo Châu*

290度向き。1992年省指定史跡

北海大王を祀る

勅封

同慶 2/7/1, 嗣徳 33/11/24, 維新 3/8/11, 紹治 4/5/20 北海大王宛

玉譜など3冊を撮影

廟守は *Bùi Phó Tuế* (77歳)

村で一番大きいゾンホは *Mai* 氏である。その族長である *Mai Quý* 氏の妻 *Bùi Thị Tiểu* : 始祖のゾーは旧暦1月が7日。また史跡としての儀礼が旧暦7月15日にある。*Mai* 氏は7支ある。

11:55 đình Đồng Lê (在 thôn Đồng Lê 同例のはずれ)

210 度向き。一度破壊された後、1999 年から再修開始、現在も継続中  
西海大王を祀る。

勅封

維新 3/8/11 城隍西海大王宛

嗣徳 33/11/24 城隍宛

同慶 2/7/1, ??, 嗣徳 6/11/23 城隍宛

啓定 9/7/25 西海大王宛

神蹟、勅封の写し本など 2 冊を撮影

ディン守は Bùi Duy (85 歳) : ディン歴守 20 年以上。ゾーの日は旧暦 3 月 10 日、その他、  
旧暦 1 月 7 日に会春、旧暦 4 月 1 日に入夏、旧暦 7 月 1 日に赦夏の儀礼をやる。

12:25 từ đường họ Lê (在 thôn Bảo Châu)

280 度向き

始祖はタインホアから来た。これについてはすぐ近くの chùa Vạn Phúc にある陳朝期の碑文  
に書いてある。

ハノイ大史学科の Nguyễn Hải Kế 准教授の岳父がこの族にいる。

祀堂自体は 1 度フランスに焼かれた。家譜なども焼かれた。そのため、現存一族の代数は  
途中で数え直したもの。

現存漢文家譜は 1 支派のもの。

族は 5 支あったが、うち 1 つは断絶したので、現在は 4 支派が残る。

忌日 : 11 月 10 日

祭礼は年 4 回、1 月 7 日、夏は聞き漏らし 7 月 15 日 冬は忌日に兼ねて行う

村長の Lê Ngọc Tấn はこのゾンホである。史跡としての祀堂を管理するのは Lê Ngọc Vu。族  
長は Lê Ngọc Oanh、かなりの高齢で、その息子 Lê Ngọc Thoán (40 歳) が引き継いでいる  
が、現在はダクラク省でコーヒーのビジネスをしている。そのため、Oanh の弟である故 Lê  
Ngọc Miên の息子 Hải (50 歳) が継承している

12:44 辞去して万福寺 (在 thôn Bảo Châu 寶珠) へ

ノム名は Bảo Châu 寺。10 度向き

新築のため史跡指定されていないがかつては、現在の小学校があるあたりに 100 間の堂宇  
があったとのこと。かつては Vương Phi が祀られていた (?)。2003 年に設立された寺建設  
委員会 ban xây dựng の会長は Mai Văn 氏の族長である。



現在の寺の場所は元はディンがあった。ディンは破壊された(?)後、まだ再建築の目処は立っていない。ディンの所有物は学校や人民委員会に保管している。  
現在の寺は左側のダルマ堂が2003年、右の本堂が2006年発行分年に建築された。

碑文5基(ダルマ堂に4基、前庭に1基)。うち最古は光緒4年(1519)。

13:07 辞す

13:45 市内に戻る

2008/01/03

参加者：八尾、嶋尾、蓮田、岩田、川本、ゴック、ハン

晴れ。今日も寒いが暑くなりそう。(実際暑くなった)

7:52 UBND xã Đông Mỹ 着

Ngọc 挨拶

幹部

副主席：Phạm Bình Đăng

文化委員：Nguyễn Công Thạch

この社は5 thôn 11 xóm

thôn Tổng Thô Bắc : xóm Hùng Vương, Lê Lợi

thôn Tổng Thô Nam : xóm Thăng Long, Trần Phú

thôn Tổng Thô Trung : xóm Minh Tiếng, Đê Tam

thôn An Lễ : xóm Tây Sơn, Bạch Đằng

thôn Gia Lễ : xóm Đoàn Kết, Quyết Tiến, Minh Tân

8:20 đình Tổng Thô (在 thôn Tổng Thô Bắc) 着

180度向き。国家指定史跡

古い来歴持つが1911年再修。本殿の奥殿に9つの位牌用椅子あり。

12の城隍神を祀る。何故そんなに多いのか質問したが、明確な回答は得られず。

勅封18道(ディンの庭にすべてを並べて撮影、壮観)：

啓定9/7/25×14道、嗣徳6/10/23, 嗣徳33/11/24, 維新3/8/11, 同慶2/7/1

碑文2基：維新5年、啓定8年

家譜 4 冊 :

范族家譜 (『本族四編譜』)

范族家譜 (Gia Phả họ Phạm Tiên-Thiện 1527-2002) a 漢文版・クオックグー付

范族家譜 (Gia Phả họ Phạm Tiên-Thiện 1527-2002) b チュノム版

范族家譜 (『范公族家譜』)

祭文・家譜・算法など 1 冊

史跡指定の資料か? :

*Di tích lịch sử văn hóa đình Tổng Thỏ, Đông Mỹ, năm 2005.* (なかなか詳しい記述)

ベトナム語で書かれた范族総合家譜を見せてもらうが、撮影はせず。

9:56 辞す

10:08 đền chùa Gia Lễ (在 thôn Gia Lễ) 着。

1997 年省指定史跡。đền は 170 度向き

デンの奥殿が寺(普光寺、ただしデンの中の額には「巖輝寺禪」とある)で、デン自体は大した物がなく、位牌もないが、城隍神を祀る。史跡指定を受けた後、改修の動きが活発になる。

勅封の写しをまとめた冊子を撮影

左側のフーに破断した勅封 2 道 :

啓定??年(恐らく柳杏公主宛)、啓定 2/3/18 柳杏公主宛

鐘 1 果 : 嘉隆 16 年

10:30 すぐ近くの miếu Gia Lễ = đình Gia Lễ へ移動。

180 度向き

勅封(現物の劣化が激しいものは、布に書き写したもののみを撮影)

勅封の写し

10:40 辞す。歩いて北上

10:52 天光寺 Chùa thôn An Lễ (在 thôn An Lễ) 着。

100 度向き

村のノム名は làng Tông、Gia Lễ 村は Làng Già

南にマウ、東に池を挟んでディンがあるがすべて抗仏戦争期に一旦破壊され、近年再建されたものばかり。棟木は成泰 14 年仲春。史跡指定は一切無し

勅封 13 道撮影

啓定 13/7/25×6, 維新 3/8/11, 同慶 2/7/1, 嗣徳 6/10/23×2, 啓定 2/3/18×3

神蹟は現地には残っていない。ハンノム院に所蔵されていると聞くとのこと。

11:15 辞す

11:23 UB に戻り挨拶の後辞去

11:42 タイビン・ヴァンホテル着。省文化情報局・博物館幹部と会食。調査結果の概要を報告

## 2007 年度 タイビン省各村落調査B隊フィールドノート

2007/12/24

参加者：八尾隆生（隊長）、嶋尾稔、松尾信之、大谷昇平、川本智之、ドアン・ゴック・ハン Đoàn Ngọc Hân、ド・ティ・ニユン Đỗ Thị Nhung

7:00 出発

39 号線で huyện Đông Hưng に通り、huyện Thái Thụy に入る。

8:00 過ぎ 県庁所在地 Diêm Điền を通過。左折して田圃の中に道に入る。道の東南が塩田（放棄されたところも多い）、海まで数百 m、西北側が水田。この道が潮止めの堤防。

8:15 UBND xã Thụy An に到着。

県の人民委員会は立ち寄らず、ただし県の文化担当？ 2 人が合流

主席：Nguyễn Văn Rui

簡単な挨拶のみ。

現在の行政制度についての聞き取りを移動の道すがる行う

xã Thụy An

その下に 4 つの thôn

thôn An Cổ Trung, thôn An Cổ Nam, thôn An Cổ Bắc, thôn An Cổ Tân

革命前も 1 社。つまり làng An Cổ = xã An Cổ

戸数と人口：1,300 戸、4,200 人

8:30 Đình An Cổ（在 thôn An Cổ Trung）着

国家レベルの史跡

西向き、柱の配置が 8 本×2 列

16 世紀創建

昔は亭が 2 つあったが、1 つは革命中に消失。

最近の修築 2007 年（柱、装飾にオリジナルを残す）8 月 18 日落成。

聞き取りに対して、各種資料を提供される。

資料

碑文 1 基：『録先賢登科碑』（正和 7 年）

9:15 Đền An Cổ（在 thôn An Cổ Bắc）着

330度向き。省レベルの史跡

南海大王を祭る（ただし、勅封では「当境城隍忠信之神」）

忌日は陰暦11月15日

ちょうど儀礼を挙行中。皆礼服を着用。

・資料

勅封13道（撮影順）：

①景興44年

②紹治4年

③嗣徳3年

④嗣徳33年

⑤紹治4年

⑥明命5年

⑦景盛4年

⑧維新3年

⑨同慶2年

⑩光中5年

⑪啓定9年

⑫昭統1年

⑬景興28年

玉譜1道（勅封の紙の上に書かれる）

碑文1基：『瑞英県広納総新開溪道碑記』（紹治5年）

10:05 Chùa An Cố 崇福寺（在 thôn An Cố Bắc）へ

本堂の中の向かって左側に聖母を祭る。今日もお婆さんたちが儀礼中。本堂の裏側に phù を建設中。

額には「保大13年」とある。

本堂の前の石柱に「永盛8年」とある。

（なお写真のキャプションは、寺の門に向かう面を正面としている）

・資料

碑文1基両面：『四九碑記』（保大8年）

鐘2果：保泰4年、嗣徳31年

10:35 họ Phạm の祠堂 (thôn を聞き漏らし)  
管理をする人が不在で家譜は見られず。

ここが全范族の大本であるとのこと。2001年12月1日 lễ tế tổ họ Phạm を開催。ハイフォン、ハノイ、ソンベ、ホーチミン市など全国から寄付。  
ニュン情報：この村の大族は、阮族と范族。前者は何も残っていない。

その他

この社の産業は農業。3期作。水田とねぎ。ねぎの間にタバコを混植してある。ねぎの収穫後にタバコの収穫。

その後デンでスイカをいただく。タイから輸入された品種。

・後からいただいた資料

- Đảng Cộng Sản Việt Nam. *Lịch Sử Đảng Bộ xã Thụy An*, tập 1 1941-1975, Ban Chấp Hành Đảng Bộ xã Thụy An.
- *Sự Tích Thần Phả Đức Thánh Nam Hải Đại Vương Thượng Đẳng Thần*, Ngày 10 Tháng 8 Mùa Thu Năm 2005 (コピー3部)
- Nguyễn Thu Đạt sưu tầm và biên tập, *Làng An Cổ: Làng "An Dân Cổ Quốc"*, Hà Nội, 2007/08.
- 村の宗教文化に関する手書きの資料のコピー
- CD: *Thụy An: Đất mẹ anh hùng* (村の亭の落成式のビデオ)

早めに辞す。

2007/12/25

参加者：八尾、嶋尾、松尾、大谷、川本、ファム・ドゥック・カ Phạm Đức Kha (県の文化室の専門員)、Nhưng

7:00 出発

県の人民委員会に立ち寄ってから

8:00 過ぎ UBND thị trấn Diêm Điền にて簡単な挨拶

主席：Đặng Văn Hải

3つの社が合併して、86年に thị trấn に昇格。

同行者：Nguyễn Thái Hà, Nguyễn Văn Hanh

◎Đền Tuân Nghĩa. 順義祠 (在 khu 4, thị trấn)

ジエムホ河沿いに位置する

・インフォーマント管理人の Vũ Hữu Bản

区域内にデンと寺と聖母を祭るところあり。

主たる建物の前がデンで後ろが寺。聖母の祠は、管理事務所の続き。

ちょうど聖母の儀礼のやっているところであった (Hóa Vãng)

デンの中央の祭壇

中央 : Thánh Tông

左右 : Phạm Tại & Nguyễn Cao

フランス軍に抵抗して死亡した阮朝の官吏の死体を運んでここで祭る

その前の祭壇に Hai bà Hàng Giang : 河の神で上の 2 人を守護したとのこと。

右側にチャン・フン・ダオ

デン創建年代は不明、抗仏・抗米戦争で破壊され、90 年に再建。

梁には「Ky Ty Nien Tan Tao」とある。

・資料

鐘 1 果 : 紹治 3 年

碑文 2 基 : 無銘 (保大元年)、『遺愛碑記』景興 17 年

◎Lặng mộ Nguyễn Đức Cảnh (在 khu 3, thị trấn)

310 度向き、塔状になっていて、土台の 1 階部分が博物館になっている。

Nguyễn Đức Cảnh はベトナム青年革命同志会以来の革命家で、30 年代初頭にフランスにより断頭罪

首のない遺体が今年に入って見つかって、記念塔の下に祭る (写真付きの報道有り)

1 階部分の左側には、一時的に別の革命家の Hồ Ngọc Lâm を祭る。敷地内に別の墓を建設中。

父親の Nguyễn Đức Tiết は阮朝の挙人 (戊子)

フランスに抵抗、田舎に帰って、学校を開く

その生家を敷地内に復元。

記念館あり。そこには、父子の祭壇、その他の資料写真の展示。

◎ジエムホ海口にある港を見学

Thái Thượng とジエムディエンの間にかかる橋のあたりから望む

造船工場あり

93, 4年に港を拡張、中国の船が多数来航。その後衰退。

ハーの説明：土砂の堆積で大きな船が入れなくなった。

ニュンの説明：中国の密貿易を禁止したため。町には中国人はいない。

陰暦1月12日には、デンの祭礼。その際に、この河でボートレースを行う。

かつては4つの村が競った。現在は9つの区が競う。13人乗りで10人がこぐ。舟に竜の装飾。距離は3キロ程度。昔からある。

その他：

デンマークが数年前に海岸線にマングローブの植林。遠くに望む。

2007/12/26

参加者：嶋尾（隊長、八尾はA隊に移動）、松尾、大谷、川本、Hân、Nhưng

Diêm Điền 到着後、ジエムディエン橋を渡る。

◎UBND xã Thái Thượng の人民委員会にて簡単なあいさつ。

主席：Giang Xuân Nghiệm

文化室長：Phạm Đức Khang

行政区画について

かつては3 thôn：thôn Sơn Thọ, thôn Các Đông, thôn Bích Du

現在は8 thôn：thôn Sơn Thọ 1-3, thôn Đông Thọ, thôn Các Đông, thôn Bích Du, thôn Bắc Cường, thôn Bạch Đằng

◎Đền hét に到着（在 thôn Bạch Đằng（かつては thôn Bích Du））

慶節会会長：Phạm Đức Lân

副会長：Nguyễn Xuân Thu

？：Đỗ Quang Cù

守祠：Đỗ Quang Lợi

Lân の説：このデンは陳朝期に建設された。その根拠は仏領期の里長の報告による。

Hân の説：阮朝期に重修。

確かなことは2004年と2007年とに重修。

祀る対象は范五老、東海大王、柳杏公主など（祭文を見よ）

祭りは陰暦1月8日。竹馬で海を渡る競技（？）などがあるらしい。海まで200メートル



の位置。1288年1月6日の大旁海口の戦勝の2日後。

・資料

勅封

①啓定9年

②年次不明

祭文（共和社会主義49年）

◎一つの敷地に到着（海霊寺、放置されたままの đình Bích Du、幼稚園、老成クラブ。その敷地の出入り口は海雲寺の古い門。かつてはこの敷地全体が寺だったとの証言あり）

◎ đình Bích Du

合作社のもみ倉庫として使われた時期あり。その時のなごりか、土壁に変えられたまま。内部の柱と彫刻はかつてのままであり、彫刻は見事。横の梁に維新戊申年（1908）とあり。Nguyễn Mậu を祀る。

◎海霊寺

・資料

石碑2基

①両面（永慶4年、1732年?）。立例族碑記、立祭田碑記（こちらの面は壁際のため、下部4分の3は読めず）

②后仏2位の石の位牌、石碑の片面に2面の碑文。

◎ đình Các Đông

・インフォーマント:

① Vũ Đức Miện (76歳)

② Phạm Thụng (86歳)、慶節委員会長

Hânによると、黎朝の様式。インフォーマントによると、1972年、1993年に重修。李南帝を祀る。

・資料:

勅封7道（写真撮影順）

①明命2年

②昭治2年

③維新3年

- ④昭統元年
- ⑤嗣徳 3 年
- ⑥啓定 9 年
- ⑦景興 44 年

記載地名は、黎朝期のものには紫裳社、阮朝期のものには閣東社、とある。

社の方々に別れを告げ、いったんジエムディエンに戻る。  
xã Thụy Lương に向かう。

◎一つの敷地に到着（虎隊亭、東雲寺、国母本邑霊祠）

・インフォーマント：

- ①遺跡委員会長：Trần Hữu Song（57 歳）
- ②堂守：Lê Công Căng（80 歳）
- ③社の文化担当：Lê Xuân Đỗi

・資料

鐘 2 果 大越国（虎隊亭）、大南国（東雲寺）

石碑 2 基

①徳隆 7 年、1635 年（国母本邑霊祠）

②「集福記」永慶 9 年（ママ、永慶は 4 年までしかない（1729-1732 年）のだが・・・塔型でその 4 面に碑文あり、国母本邑霊祠の前の庭）

この亭は勅封 23 道を有するとのことであるが、見せてもらえず（コピーを送ってもらうことにするが、本当に来るか否か？）

虎隊亭の裏にも石碑あり。

洪徳 3 年製。原碑文に上書きする形で、新たに「洪徳 3 年」と彫ってある。八尾が来なくて良かった。

◎辞して、Cửa Diêm Điền に向かう。

かつての大旁海口の近傍。何重もの堤防で陸地を拡大。最も近年の堤防から海を臨む。その堤防の陸側はエビ養殖地が主、部分的に塩田。海側は（恐らく）植林されたマングローブ林。漁民 3 名が歩いて漁に向かう。数キロ先まで膝あたりまでの水深の、遠浅の海を歩いていく、とのこと。夜中に帰ってくる。

補足（キエン談）

お告げと地方政権の関係 昨日タイビンの代表的な革命家グエン・ドゥック・カインの「陵墓」を訪問したが、その遺骨は今年になって「発見」された。彼の説明によると、cô ngoại cảm（死者のセアンスの専門家、cô đồngの方が民間的）のお告げでその遺体を発見し、それを地方政権が公認したとのこと。người ngoại cảmのお告げで戦争中の犠牲者の遺骨を探すことは一般的に行われている（彼の親族でも例があるとのこと）。

この件とは関係ないが、カウザイの再開発の際に立ち退きに同意しない一族に対して、地方政権は、cô ngoại cảmから「政権の命令に逆らってはいけない」というお告げを引き出して説得したという話が伝わっているとのこと。

2004/12/27

参加者：嶋尾、松尾、大谷、川本、Hân

◎xã Thái Phúcの人民委員会に立ち寄り、簡単な挨拶。

副主席：Vũ Như Đệ

文化担当：Đỗ Xuân Thắng

Đình、Đền はかつてはたくさんあったが、今はデン、寺ひとつずつ残るのみ（注：他に祠堂は現存）

◎Đền thờ tham hoa Quách Đình Bảo

インフォーマント：

①Quách Đình Thang

②Quách Đình Thuyền

族長 Quách Đình Bảo は病気欠席

郭 Quách 族は13支からなる。ゲアン、ハノイ、クアンニン、フンイエンなどに広がる。ここが起源の地で、この村の Quách 族が長支。20世紀に7人の進士と1人の院士を出している（Hân：この社は近代以前に6人の進士を出している）

Quách Đình Bảo と Quách Hữu Nghiêm を祀る。忌日は、それぞれ陰暦7月1日と陰暦9月9日。古いビエン2本あり。1つは表に「探花」、裏に「癸未科庭試」（1463）とあり、いま1つには「黄甲」「庭試丙戌科」（1466）とある（要写真確認）。

祠堂の創建年は不明。再建年は梁の写真参照。

（Hân：祠堂は黎朝期のものらしい）

ナムディン省イーエン県 BiệT Tiển 社にも Quách Đình Bảo のデンがあるとのこと。ただし、Quách 族はいない。

・資料

漢文資料 1 冊「郭族列祖 南州同譜」（科举合格者リスト、玉譜など）  
啓定 6 年の写本を革命後に写しなおしたもの。

勅封はなくなってしまったとのこと。

となりの社のデンに勅封があると聞き、そちらに向かう。

◎Đền Con Giang（在 thôn Nam Cường, xã Thái Hà）

かつての河口、船型の池が祠堂の前にあり。チャーリー河の堤防を遠くに望む。  
黎朝期の神輿あり。創建年不明。梁には啓定 8 年とある。

・資料

勅封多数。

- ①嗣徳 33 年
- ②嗣徳 6 年
- ③嗣徳 6 年
- ④嗣徳 6 年
- ⑤嗣徳 6 年（重複撮影の可能性、要チェック）
- ⑥啓定 2 年
- ⑦啓定 2 年
- ⑧啓定 2 年（重複撮影の可能性、要チェック）
- ⑨啓定 9 年
- ⑩啓定 9 年
- ⑪啓定 9 年
- ⑫啓定 9 年
- ⑬啓定 9 年
- ⑭啓定 9 年
- ⑮啓定 9 年
- ⑯啓定 9 年
- ⑰同慶 2 年（写し）
- ⑱維新 3 年
- ⑲維新 5 年

他に写しの破損したもの、数道分あるが、撮影せず。

また xã Thái Phúc に戻る。

◎福林寺（在 thôn Phúc Thiện）にて、碑文と勅封を撮影。  
一昨年、コンクリートで重修。

・資料（写真撮影）

碑文 3 基：

塔 4 面 永盛 3 年

福林寺碑記 4 面 永盛 3 年

「××后仏碑記」正和 15 年

勅封 7 道：

①維新 3 年

②啓定 9 年

③啓定 9 年

④年次不明（冒頭、後半が失われている）

⑤紹治 6 年

⑥嗣徳 33 年

⑦嗣徳 6 年

鐘 2 果

◎Nhà thờ chính 阮維族祠堂に移動

族長：Nguyễn Duy Tế（87 歳、17 代目）

官吏を輩出

Nguyễn Phương Khê 等

・資料（写真撮影）

勅封：

①景興 9 年

②景興 37 年

③景興 37 年

仏教関係資料

◎杜族祠堂に移移動

この族の詳細不明

現在の社の党書記はこの族の出身。

官吏を輩出

・資料（写真撮影）

阮朝期の公文数点

- ①嗣徳 29 年
- ②嗣徳 17 年
- ③嗣徳 19 年（同じ資料の写真 2 枚）
- ④嗣徳 15 年
- ⑤嗣徳 19 年

何かの公文の末尾署名部分のみの紙

碑文 1 基：杜族石碑誌 嗣徳 35 年

2007/12/28

参加者：嶋尾、松尾、大谷、川本、吉本康子、Nhung

◎xã Thụy Phong の人民委員会に到着。

副主席：Vũ Duy Tuấn

◎進士范世賢（Phạm Thế Hiền）の（陵）墓を見学。2003 年建設。

墓誌によると、

出身地：Làng Luyên Khuyết, tổng Đông Hồ, h..Đông Quan

生没年 1803 年-1861 年

詳しくは写真参照。

◎范氏祠堂

・インフォーマント Phạm Duy Tam（11 代目）。

仏領期に漢文資料はすべて失われた。

一方では、1979 年に sở văn hoa が残存資料も借りていった、とも発言。

その後、古老たちが資料を収集し、2005 年にクオックグー家譜を編纂。范世賢の事跡については、『大南寔録』などから復元したとのこと。2001 年にはシンゴも開催した。

この祠堂は族の ngành 2 のもので、その祖の Phạm Thế Diệu (第3代) が主たる祭祀対象。あわせて Diệu の子の進士范世賢 (第4代) を祀る。Diệu は 1807 年の挙人。

出発まぎわに、庭で族長に話しかけられた。ダクラク省のブオンマトゥオウトに移住している。たまたま帰省中とのこと。祠堂の管理などは弟たちに任せている様子。

・資料

祠堂管理室の壁に貼ってあった家系樹と范世賢の略史を撮影。またタイプ打ちのクオックグー家譜もいただいた。

◎đình thôn Đông Hòa

創建年不明。かつてはもみ倉庫として使われていた。5 間の立派な建物。

碑文 2 基。1 基は両面摩滅し、その上にクオックグーで重ねぼり。

亭の外の池に 1 基が放置されていた。「海都社保後神碑」

守祠夫婦の Phạm Thị Nhự : 勅封はあったが、省の役人に安全のために渡してしまった。

◎đền Đông Hồ に移る。

・インフォーマント : Vũ Quỳnh (80 歳)

例祭は陰暦 8 月 20 日。レンドンもあるとのこと。

かつては 3 間と 5 間との 2 つの建物だったが、3 間の方のみ現存。

thánh mẫu と thánh Trần とを祀る、とのこと。

Vũ Quỳnh は漢字が得意で、現在でも仏教関係の祭文を書いている。また漢字を教えている。

対象は高齢者。thánh mẫu の名前は、刀江津渡聖母。ここには thầy đồ がたくさんいたとのこと。彼の父も thầy đồ だったとのこと。

・資料 (写真撮影)

勅封 2 道 啓定 2 年と 9 年

◎chùa Đông Hồ に移る。

・資料 (写真撮影)

碑文 5 基

永祚 9 年 (1627)

正和 14 年 (1693)

延成 7 年 (1584)

保大 15 年 (1940)

◎Bùi Quang の祠堂。

・インフォーマント：Nguyễn Văn Ý (70 歳)

梁には「皇朝壬戌年」とあり。

また Quý Mùi (2003 年) 5 月 7 日に (重修の?) 落成式。

忌日は陰暦 5 月 7 日。マムが 50 盆。nội ngoại 両方来る。

2 位の神を祀る。そのうちの 1 位は東閣学士 (Bùi Quang Tuyên?)

・資料 (写真撮影)

勅封 12 道 (ただしそのうち 1 道は写し)

①紹治 4 年

②紹治 4 年

③景興 44 年

④景興 44 年

⑤景興 44 年 (写し)

⑥嗣徳 3 年

⑦嗣徳 33 年

⑧明命 2 年

⑨同慶 2 年

⑩啓定 9 年

⑪啓定 9 年

⑫啓定 9 年

仏領期に勅封を写し、報告した冊子。

勅封を音訳したものあり。高齢者の間に漢字ブームがあるらしい。

◎Bùi Văn の祠堂。

・資料

木匠裴文令 Bùi Văn (Lịch?) に与えられた勅封 (景興 44 年) あり。

◎Vũ Đình の祠堂

・インフォーマント：Vũ Thiện Tước (11 代目)。長男 Vũ Chí Thiếng (58 歳)

Vũ Đình Thường が勅封より勅封を受けたが、その勅封は失われた、とのこと。族の伝承によると、学業により与えられたとのことだが、同時に木匠であったとも。

忌日は陰暦 12 月 5 日。マム 30 盆。



・資料（写真撮影）

碑文と墓の略図と家系図

またクオックグー家譜（大部）の Vũ Đình Thường の部分のみ 2 ページも撮影。

この東湖むらと、バクニン省の東湖むらとの関係について。

インフォーマントによると、この関係については口頭伝承が残るのみ、とのことだが、博物館のハン：仏領期の地誌 (?) に記録があるとのこと。

◎その後、犬肉で宴会

本日で B 隊は解散し、A 隊に合流

## Ⅱ 収集資料分析・活用法

現地調査は3年に及び、その間収集できた資料は膨大な量に及んだ。第Ⅱ部ではその分析・活用法につき、初歩的な例を示すものである。

## 村方に残る阮朝期公文

蓮田 隆志、嶋尾 稔、松尾 信之

北部ベトナムの村方に残る阮朝期公文の「発見」は、この3年間の史料調査の極めて重要な成果である。北部各省の村方で阮朝の地方官の名前で発行された辞令や認可の文書、あるいは村役人から地方官に提出された申請書の写しなどの史料を我々は収集することが出来た。この科研調査に先行する北部村落調査でも、この種の史料の存在自体は確認していたが、それがデルタ各地の村に保存されていることを知りえた点がきわめて重要である。ベトナムにおける歴史研究では、当然のことながら多様な村方史料（碑文、家譜、村誌その他）が駆使されているが、このような文書については等閑に付されていた感がある。一つの理由としては、1950年代の土地改革以降、封建王朝のお墨付きなどを持っていると、反革命地主に分類されて迫害される、あるいは後ろ指をさされる恐れがあったため、多くの地方エリートの家では、このような文書を隠してきたという事情が考えられる。近年になってようやく、そのような懸念が払拭され、日の目をみるようになったのではないかと推測される。今では祠堂の壁に誇らしげに飾っている家さえある。

阮朝の制度史は、従来『大南寔録』『大南会典事例』などの王朝の編纂史料に基づいて研究されていたが、制度を施行する旨の法令の存在について知りうるのみであり、施行の実態については十分に明らかにできなかった。この調査で新たに収集された一次資料は、近年利用が可能になった国立第一文書館所蔵の阮朝硃本とともに、阮朝の制度の実際の運用について探求することを可能にし、阮朝の制度史と社会史の研究の深化に大いに寄与するものと期待される。

本稿では、収集した史料の基礎情報を紹介し、若干の史料に解題をつけることにしたい。なお、史料の写真は附録 CD-ROM に収めてある。

## 収集史料一覽

史料番号	ファイル名	形式	発信者	受信者	年月日
1	dinhhuong001.jpg	申	杜輝曜	南定省學官	嘉隆 10/10/8
	dinhhuong002.jpg				
2	dinhhuong003.jpg	申	杜輝曜	南定省學官	[嘉隆]11/8/23
	dinhhuong004.jpg				
3	dinhhuong005.jpg	申	杜輝曜	南定省學官	嘉隆 12/3/13
	dinhhuong006.jpg				
4	dinhhuong007.jpg	申	杜輝攬	南定省學官	[嘉隆]12/3/13
	dinhhuong008.jpg				
5	dinhhuong009.jpg	申	杜輝曜	南定省學官	嘉隆 17/3/12
	dinhhuong010.jpg				
6	dinhhuong011.jpg	申	杜輝攬	南定省學官	嘉隆 17/8/14
	dinhhuong012.jpg				
7	dinhhuong013.jpg	申	杜輝曜	南定省學官	嘉隆 17/8/14
	dinhhuong014.jpg				
8	dinhhuong015.jpg	申	杜輝律	南定省學官	嘉隆 18/3/8
	dinhhuong016.jpg				
9	dinhhuong017.jpg	申	杜文表	南定省學官	明命 2/5/17
	dinhhuong018.jpg				
10	dinhhuong019.jpg	呈	阮文珍・阮文玉・阮文清等	美祿縣官	明命 4/10/4
	dinhhuong020.jpg				
11	dinhhuong021.jpg	申	杜名成	南定省學官	明命 2/5/17
	dinhhuong022.jpg				
12	dinhhuong023.jpg	申	杜惟光	南定省學官	明命 2/5/17
	dinhhuong024.jpg				
13	dinhhuong025.jpg	咨呈	禮部	北城總鎮官	明命 5/10/17
	dinhhuong026.jpg				
14	dinhhuong029.jpg	申	杜名成		明命 2/8/12
	dinhhuong030.jpg				
15	dinhhuong031.jpg	申	杜名攬		明命 2/8/12
	dinhhuong032.jpg				
16	dinhhuong033.jpg	申	杜惟光		明命 2/8/12
	dinhhuong034.jpg				
17	dinhhuong035.jpg	申	杜文表		明命 2/8/12
	dinhhuong036.jpg				
18	dinhhuong037.jpg	計	山南下鎮鎮官		
	dinhhuong038.jpg				
19	dinhhuong039.jpg	一	南眞縣官		嘉隆 13/2/27
	dinhhuong040.jpg				

20	phamvietcao001.jpg	申	范日高	寧平省學官	嘉隆 17/繼 8/13
21	phamvietcao002.jpg	申	范日高	寧平省學官	嘉隆 15/9/22
22	phamvietcao003.jpg	詔	—	鄉貢試署平陽縣知 縣范日高	明命 9/12/3
23	phamvietcao004.jpg	憑給	兵部侍郎兼都察院右 副都御史巡撫廣治等 處地方提督軍務兼理 糧餉領承宣布政使司 布政使事官	廣治督學范日高	明命 13/8/24
24	phamvietcao005.jpg	詔	—	平陽縣知縣范日高	明命 12/7/3
25	phamvietcao006.jpg	詔	—	廣治處督學范日高	明命 13/9/27
26	phamvietcao007.jpg	憑給	兵部	廣治處督學范日高	明命 12/12/18
27	phamvietcao008.jpg	申	范日儒	廣治巡撫か？	
28	phamvietcao009.jpg	詔	—	戶部清吏司主事范 日高	明命 12/11/29
29	phamvietcao010.jpg	給引	禮部	[禮部] 員外郎范 日高	明命 14/5/9
30	phamvietcao011.jpg	憑給	領寧平巡撫鄧	范日造	嗣德 28/1/28
31	phamvietcao012.jpg	札給	嘉遠縣知縣梁	嘉遠縣秀才范日造	嗣德 15/3/5
32	phamvietcao013.jpg	札給	攝辦嘉遠縣印務吳	[觀榮] 社秀才范 日造	嗣德 15/6/?
33	phamvietcao014.jpg	稟	安化縣吏目范日造		嗣德 29/1/20
34	phamvietcao015.jpg	憑給	權辦寧平省務阮	秀才范日造	嗣德 26/11/28
35	phamvietcao016.jpg	憑給	寧平護撫官	秀才范日造	嗣德 26/10/8
36	phamvietcao017.jpg	憑給	[翰林] 院侍講學士 領寧 [平] 督學范	范文週	嗣德 34/8/14
37	phamvietcao018.jpg	申	范日儒・范日璿・從 者范名恁・阮名穆	廣治巡撫か？	明命 14/6/4
38	phamvietcao019.jpg	申	范日高	寧平省學官	嘉隆 16/4/8
39	nguyendinhkhanh001.jpg	憑給	大法欽命北圻統使大 臣	阮廷慶	維新 2/1/1
40	nguyendinhkhanh002.jpg	錄飭	儒關分府同知府阮	威遠總正總	成泰 13/1/20
41	nguyendinhkhanh003.jpg	敕	—	試差威遠總正總阮 廷慶	成泰 13/2/21
42	nguyendinhkhanh004.jpg	憑給	大法欽命北圻統使大 臣孚	補授威遠總正總阮 廷慶	成泰 13/2/21
43	nguyendinhkhanh005.jpg	敕	—	威遠總正總阮廷慶	維新 2/1/1
44	nguyendinhkhanh006.jpg	憑給	侍郎領寧平巡撫陳	儒關分府嘉遠縣威 遠總試差正總阮廷 慶	成泰 4/5/18
45	nguyendinhkhanh007.jpg	憑給	寧平巡撫黎	碧山社里長阮廷慶	成泰 2/7/28

46	nguyendinhkhanh008.jpg	權給	儒關分府同知府阮	碧山社里長阮廷慶	成泰 1/12/27
47	nguyendinhkhanh009.jpg	憑給	大法權理北圻統使大臣	特格追予從捌品百戶故阮文慶親人	維新 9/10/30
48	lamaiphathat001.jpg	敕	—	歸厚總試差該總呂枚發	嗣德 19/10/23
49	lamaiphathat002.jpg	敕	—	樂捐賞授從柒品文階呂枚發	嗣德 33/6/2
50	lamaiphathat003.jpg	敕	—	原歸厚總該總回休呂枚發	嗣德 26/4/28
51	lamaiphathat004.jpg	憑給	寧平護撫鄧	金山縣歸厚該總呂枚發	嗣德 19/8/6
52	lamaiphathat005.jpg	憑給	寧平巡撫黎	歸厚總試差該總呂枚發	嗣德 14/10/2
53	lamaiphathat006.jpg	憑給	寧平巡撫官	歸厚里里長呂枚發	嗣德 14/3/28
54	lamaiphathat007.jpg	憑給	欽差視師充經略大臣署刑部尚書黎	寧平義勇奇權正哨長呂枚發	嗣德 25/1/3
55	lamaiphathat008.jpg	咨補	戶部		嗣德 19/6/3
56	lamaiphathat009.jpg	憑給	統督軍務大臣領山興宣總督黃	寧坦	嗣德 28/4/28
57	lamaiphathat012.jpg	呈	安慶府金山縣歸厚里全本里上下等	縣	嗣德 13/5/10
	lamaiphathat013.jpg				
	lamaiphathat014.jpg				
58	lamaiphathat015.jpg	呈	安慶府金山縣歸厚總里役者舊全總等	縣	嗣德 14/6/1?
	lamaiphathat016.jpg				
	lamaiphathat017.jpg				
	lamaiphathat018.jpg				
59	vuthevinh001.jpg	敕	—	籍民武世榮	嗣德 11/11/6
60	duongconghuan001.jpg	憑給	寧平道堂官	守中邑里長楊公閩	明命 10/12/12
61	tranvancac001.jpg	給憑	署左軍都統府掌府事領河寧總督兼充統督海防陶·署河內巡撫阮	隊長陳文各	嗣德 20/12/26
62	tranvancac002.jpg	憑給	山北軍次統督勦捕軍務大臣陶	副率隊陳文各	嗣德 22/8/16
63	tranvancac003.jpg	憑給	領河寧總督陳·領河內巡撫陳	權率隊陳文各	嗣德 29/6/11
64	tranvancac004.jpg	憑給	巡撫領定寧總督高	精兵正隊陳文各	成泰 2/5/2
65	tranvancac005.jpg	憑給	山興宣總督高	原精兵正隊陳文各	成泰 3/8/28
66	tranvancac006.jpg	憑給	河安總督黎	精兵正隊陳文各	同慶 3/2/9

67	tranvancac007.jpg	錄給	領河寧總督黎	精兵正隊長陳文各	同慶 1/1/15
68	tranvancac008.jpg	憑給	河內領兵官阮	伍長陳文各	嗣德 15/3/6
69	tranvancac009.jpg	憑給	河內領兵官阮	給憑隊長陳文各	嗣德 20/12/21
70	tranvancac010.jpg	遵給	署都統領河寧總督快州伯阮	給憑隊長陳文各	嗣德 19/4/26
71	tranvancac011.jpg	錄給	河寧總督陳·河內巡撫陳	試差正隊長率隊陳文各	嗣德 29/10/?
72	tranvancac012.jpg	憑給	河內水師領兵阮	給憑隊長阮文?	同慶乙酉 /12/19
73	tranvancac013.jpg	憑給	河寧總督黃·河內巡撫黃	率隊陳文各	嗣德 34/5/4
74	tranvancac014.jpg	札	署河寧總督黃·署河內巡撫黃		嗣德 34/5/1
75	tranvancac015.jpg	敕	—	正隊長率隊陳文各	同慶乙酉 /12/15
76	tranvancac016.jpg	敕	—	精兵正隊試差正隊長率隊陳文各	嗣德 32/9/4
77	tranvancac017.jpg	敕	—	給憑隊長陳文各	嗣德 29/2/24
78	tranvancac018.jpg	稟	陳文臺	省堂桌台	成泰 15/11/15
79	traisyhoi001.jpg	稟	陳文善·杜芳梅·陳元亨全案	布政使司	嗣德 35/12/15
	traisyhoi002.jpg				
	traisyhoi003.jpg				
	traisyhoi004.jpg				
	traisyhoi005.jpg				
	traisyhoi006.jpg				
80	traisyhoi008.jpg	稟	陳文善·里長陳元亨	布政使司	嗣德 35/12/15
	traisyhoi009.jpg				
81	traisyhoi010.jpg	稟	陳文善·武廷護·楊文豁·杜如栢	布政使司	
82	traisyhoi011.jpg	殘簡			
83	traisyhoi012.jpg	稟	陳文善·武廷護·故楊文祿男子楊文豁·故杜文圭男子杜如栢等	營田使衛	嗣德 33/3/12
	traisyhoi013.jpg				
84	traisyhoi014.jpg	稟	陳文善·武廷護·故楊文祿男子楊文豁·故杜文圭男子杜如栢等	營田使衛	嗣德 17/10/3
	traisyhoi015.jpg				
85	traisyhoi016.jpg		士會寨民·義興府官·營田使衛官		嗣德 33/8/24
	traisyhoi017.jpg				
	traisyhoi018.jpg				
	traisyhoi019.jpg				
86	laivanky001.jpg	敕	—	里長賴文紀	保大 3/1/1

87	laivanky002.jpg	憑給	南定省 [公] 使大臣 總督阮	賴文紀	啓定 5/8/29
	laivanky003.jpg				
	laivanky004.jpg				
88	hodo001.jpg	憑給	南定布政使潘	里長杜文邁	嗣德 29/閏 5/22
89	hodo002.jpg	權給	鴻臚寺卿領宣光布政 使統官右支軍務張	幫辦霑化州務經歷 杜德達	嗣德 1[7]/?/?
90	hodo003.jpg	敕	—	福溪總試差該總杜 文且	嗣德 19/?/?
91	hodo004.jpg	憑給	定安總督阮	青關縣福溪總試差 該總杜文且	嗣德 15/11/2?
92	hodo005.jpg	敕	—	試差經歷革留領霑 化州知州杜德達	嗣德 19/6/16
93	hodo006.jpg	呈			?/?/24



## 阮朝期の該総の任命過程に関する覚書

蓮田 隆志

総 *tổng* とはベトナムにおける行政単位の一つで、縣 *huyện* と最末端行政単位たる社 *xã* (里 *lý*) の中間に位置するが、その淵源と機能に関しては未だに議論があつて確定していない。該総 *cái tổng* (正総 *chánh tổng*) とはこの総の長である<sup>1</sup>。該総の職掌や任命に至る手続きについては、『大南会典事例』をはじめとする編纂史料によつてもある程度跡づけることが可能であるが、小稿は本科研において収集された村落文書から、該総の選出・任命過程について再構成を試みる。また、これに関連して、里長についても若干言及することになろう。もとより、各種関係史料を精査した上でのものではないので、遺漏も多かるう。本科研調査にて収集した史料がどの範囲(地理的・時間的)を代表するののかについても、十分な調査は及んでいない。覚書と称する所以である。

本科研収集資料で該総への任命過程が比較的詳細に分かるのは、嗣徳期に寧平省安慶府金山縣帰厚総の該総を勤めた呂枚発と成泰・維新年間に寧平省嘉遠縣威遠総の該総を勤めた阮廷慶の二人である。前者に関する資料は2005年12月31日にニンビン省イエンカイン縣フンティエン社クイハウ村第8集落にある呂氏第2支祠堂(Nhà thờ chi 2 họ Lã, xóm 8, th. Quý Hậu, x. Hùng Tiến, h. Yên Khánh, t. Ninh Bình) に保管されており、その他の資料と合わせて、デジタルカメラにて撮影した。後者に関する資料は2005年12月26日にニンビン省ザーヴィエン縣ザーヴァン社(x. Gia Vân, h. Gia Viễn, t. Ninh Bình)にて、やはりデジタルカメラでの撮影を許可され、デジタルデータの形で収集された<sup>2</sup>。以下、個別の文書に言及する場合は、筆者による仮名称及び前掲のリストに付した史料番号によることとする。

呂枚発は【帰厚里全本里上下等呈(史料57)】によれば、嗣徳13(1860)年時点で20才、辛丑年の生まれとあるので、生年は1841(紹治元)年である。この時、寧平省安慶府金山縣帰厚総帰厚里の里長に「置保」された。また、同文書に「里内人」とあつて、【補授呂枚発敕(史料48)】でも「貫寧平省安慶府金山縣帰厚総帰厚里」とあつて、地元の間人であることが分かる。以降のキャリアを表にすると以下のようなになる。

年月日	役職	典拠文書名(史料番号)
1860/5/10	里長(置保)	帰厚里全本里上下等呈(57)
1861/3/28	里長(憑給)	寧平巡撫官憑給(53)
1861/6/1	該総(置保)	帰厚総里役耆舊全総等呈(58)
1861/10/2	試差該総	寧平巡撫黎憑給(52)
1866/10/23	該総(補授)	補授呂枚発敕(48)

【賞授呂枚発敕(史料50)】では「原帰厚総該総回休呂枚発」とあるので、この勅が出された成泰4(1892)年5月以前に引退したことは確実である。同様に、阮廷慶に就いてみると、年齢は不明だが、【補授阮廷慶敕(史料41)】に「貫寧平省嘉遠縣威遠総碧山社」とあつて、これも地元の間人である。同様に表にすると以下のようなになる。

<sup>1</sup> これに関連して十里侯 *thập lý hậu* なる称号があるが、ベトナム国家大学人文社会大学校歴史学部のファン・ダイ・ゾアン Phan Đại Doãn 教授のご示教によれば、引退した正総を意味するとのこと。すなわち、<sup>たくさん</sup>十の里(社)に君臨する人物(侯)ということらしい。碑刻史料では後期黎朝時代に既に用例が確認される。例えば、保泰4年(1723)立碑の「慈山府僊遊縣中牟社官員監生生徒社長各職斯文等」*Tổng tập thác bản văn khắc Hán Nôm. tập 3, Hà Nội: VNCHN, EFEO, EPHE, 2005, pp.156-159* (ハンノム院所蔵記号2156-2159)。

<sup>2</sup> ただし、2005年次の調査に筆者は不参加だった。小稿は調査後に隊から提供されたデジタルデータとフィールドノートおよびその他の諸資料を元にして執筆されている。

年月日	役職	典拠文書名（史料番号）
1889/12/27	里長（権給）	儒関分府同知府阮権給（46）
1890/7/28	里長（憑給）	寧平巡撫黎憑給（45）
1892/5/18	試差正総	領寧平巡撫陳憑給（44）
1901/2/21	正総（補授）	補授阮廷慶敕（41） 北圻統使孚憑給（42）
1908/1/1	正九品百戸	賞陞阮廷慶敕（43） 北圻統使憑給（39）

1908年に与えられた百戸職は後述するように、大過なく勤め上げた正総への賞授なので、正総から他の役職に移ったわけではない。維新9（1915）年の【北圻統使憑給（史料39）】では、親族が文書の受給者となっており、この時点で阮廷慶は死去していたことが分かる。

両者はともに里長を経験したのち、該総（正総）に就任している。収集史料によれば、里長任命のプロセスは次のようになる。まず、里内で合議した上で候補者を選定し、縣に対して「呈」文を提出して「置保」を請う（【帰厚里全本里上下等呈（史料57）】）。次いで巡撫から「憑給」文書が発給される<sup>3</sup>。呈文には耆老范文琰以下、里の幹部とおぼしき人間が署名（記）あるいは点指しており<sup>4</sup>、末尾には権充該総の武文瑜が「叶舉」（共同推薦）者となっている。この文書は2枚の布に記されているが、それぞれ半分に折ってから紐で綴じられて全部で4頁になっており、連綴部には「金山」印が捺され、さらに何らかの文字（判読不能）が書き付けられている。年号部分の方印は「金山縣印」で、そのすぐ左に「付依乞」の判辞、さらにその判辞に重なるように「金山」印が捺されている。また、本文末尾で「筆跡を付許して憑となし、該名（呂枚発）をして承行・服事するに便を得さしめんこと」を乞うているが、実際、この文書は村方に残されていた。画像上の観察ではあるが、写しや控えとは考えにくく、この文書が里から縣衙に提出されたのち、村方に再交付されたと考えられる。当然、縣では別に記録が残されたであろう。

阮廷慶の場合、呈は残されていないようだが、儒関分府<sup>5</sup>同知府からの「権給」文書が残されている（【儒関分府同知府阮権給（史料40）】）。判読が難しい部分も多いが、本文の最後から2行目末尾が「俟省憑以正名分」と読めるのであれば、省からの文書が正式な辞令とされていたと考え得る。呂枚発の場合、呈文提出から寧平巡撫の憑給まで10ヶ月あまりかかっており、阮廷慶に至っては、権給から憑給まで1年以上かかっている。それまで、縣官の筆跡を付した呈文や権給文書が辞令の代わりとして機能したのであろう。但し、【儒関分府同知府阮権給（史料40）】が正式任命を俟つ間の《仮》任命書なのか、それとも何らかの事情で本来発給に関与しない分府が発給した《臨時》任命書なのかは判然としない<sup>6</sup>。呂枚発関連文書に権給文書が存在せず、阮廷慶関連文書に呈文が残っていない理由についても、時代差や制度の変更、単に失落しただけなど様々な可能性が考えられるが、現時点では不明とせざるを得ない。これら呈への書き付け・返却なり権給が里方になされる一方で、省に報告が上がり、それを承けて寧平巡撫から「憑給」が出される。【寧平巡撫官憑給（史料53）】では「茲に據けたる金山縣衙の稟に叙すらく」とあり、縣から直接巡撫に文

<sup>3</sup> この憑給文書という呼称は仮のものである。後出の権給（【儒関分府同知府阮権給】）や札給（【嘉遠縣知縣梁札給】）、録給（【領河寧総督黎録給】）などと合わせて、例えば、「給式文書」として一括すべきものかも知れない。古文書学的な検討は今後の課題である。

<sup>4</sup> 寫保詞（文書作成・保管者か？）の杜文智は元里長である（【帰厚総里役者舊全総等呈（史料58）】）。

<sup>5</sup> この分府がいつ設けられたかは判明させられなかった。19世紀中葉の情報を載せる『大南一統志』『同慶御覽地輿誌』では、儒関は分府ではなく正式な府であり、また、威遠総の属する嘉遠縣は安慶府に隸している。一方、1920年代に編纂された Đỗ Đình Nghiê m, Ngô Vi Liê n và Phạm Văn Thư biên soạn, *Địa dư các tỉnh Bắc kỳ*. Hà Nội: Nhà in Lê Văn Tân, 1926 や Ngô Vi Liê n. *Danh mục các làng xã Bắc kỳ*. Hà Nội: Nhà in Mạc Đình Tư, 1928（いずれも Ngô Vi Liê n. *Tên làng xã và địa dư các tỉnh Bắc kỳ*. Hà Nội: Nxb Văn hoá Thông tin, 1999 に再録）でも、儒関は府である。

<sup>6</sup> 前出の【帰厚里全本里上下等呈】における「権充該総」についても同様のことが言える。

書が達した、或いは少なくとも府段階で特段の措置を執っていないようだが、逆に阮廷慶の場合（【寧平巡撫黎憑給（史料 52）】）は、「茲に據けたる儒関分府員の稟に叙すらく」とあって、縣と同様の役割を果たしている。

該総の任命プロセスもほぼ同様の経過をたどる。欠員が出ると、その総の里長や里長経験者が適任者を推薦する呈を縣に提出し、縣官（おそらくは知縣）が判辞・捺印して交付した（【歸厚総里役耆舊全総等呈（史料 58）】）。これを承けて巡撫の憑給が下され（【領寧平巡撫陳憑給（史料 44）】【寧平巡撫黎憑給（史料 45）】）、試差該総（試差正総）となる。この場合も、阮廷慶の任命プロセスに儒関分府が関わっており、呂枚発のケースと異なっている。呈から憑給まで、今回は4ヶ月ほどかかっている。「試差」については編纂史料に規定がある<sup>7</sup>。

『欽定大南会典事例統編』<sup>8</sup>卷3 17a 吏部官制 各総正副総

嗣徳五（1852）年、議準すらく、該副総捕犯條款の内の一款、何れの総の該総の缺有るに遇えば、上司より副総を覆察し、何れの年深く敏幹の者に係るは補授を奏請し、何れの日浅きに係るは部に咨して試差とせよ。

『欽定大南会典事例統編』卷4 4a 吏部銓選 試差期満

嗣徳十一（1858）年例定すらく、該総は試差すること三年。限満ちて過なくんば聲請して補授す。何名の限内に杖責一次なれば停留一年、二次なれば停留二年、三次なれば停留三年とす。

3年とは「お試し期間」というには長いですが、この期間を大過なく勤めれば、吏部が「聲請」し、「補授」されて正式な該総となる。【補授呂枚発敕（史料 48）】では「吏部会片」とある。「会片」の語義は確定しがたいが、実態としては「聲請」と変わらないであろう。試差の場合は巡撫の憑給のみであったが、実授（寔授）されると敕が与えられる。また、植民地期の阮廷慶の場合は、同日付で大法欽命北圻統使大臣の憑給も発給されている。

任命のプロセスから見るかぎり、試差期間の存在と勅の発給の有無とが里長と該総（正総）の差として挙げられる。地元が候補者を推薦し、（おそらくはよほどのことが無い限り）それに従って任命がなされていたと思われることや、書類が上っていくルートや発給される文書の形式については、両者は基本的に同じである。職掌についても「兵糧巡防諸公務」（【寧平巡撫官憑給（史料 53）】【寧平巡撫黎憑給（史料 52）】）と全く同じ表現がされている。一方、該総は勤務評定が高評価を得られれば、下品とはいえ品階と職銜が与えられて（【賞陞阮廷慶敕（史料 43）】【北圻統使憑給（史料 39）】）<sup>9</sup>、流官扱いとなる。この点で、村役人や胥吏よりも官員に近い性格が与えられていると言えよう。この性格の差が、会典類に該総の項が立てられているのに対して、里長はそれが無いことなどにも反映されているのかも知れない。

<sup>7</sup> 『欽定大南会典事例』卷15 吏部銓選 試差期満も見よ。

<sup>8</sup> Quốc sử quán triều Nguyễn. *Khâm định Đại Nam hội điển sự lệ tục biên*. 6 tập+, Hà Nội: Nxb Giáo dục, 2004-. これは影印対訳本で、2007年時点まで6冊（原典の巻数に従えば、全60巻のうち巻33まで）の出版を確認している。

<sup>9</sup> 『欽定大南会典事例』卷14 24ab 吏部官制 各総該総副総、『欽定大南会典事例統編』卷3 17ab 吏部官制 各総正副総も見よ。

## 開墾および新村設立の申請書（史料番号 79-85）

嶋尾 稔

この史料は、2006年8月9日にナムディン省ギアフォン県ギアフォン社シーラム村 (làng Sĩ Lâm, xã Nghĩa Hùng, huyện Nghĩa Hưng, tỉnh Nam Định) のチャンドウック (陳徳) 氏の祠堂で収集されたものである。この史料の収集地は、阮朝期には南定省義興府大安県士林総士会寨であった。その上位単位である士林総自体が、1852年に設立された新開村落群であるが、士会寨はさらにその「分村」(後述)として、開墾・開村された。このテキストは、士会寨の開墾・新村設立を進めた人々が、その許可を地方官に求めた文書である。デルタ沿海部開拓の具体的なプロセスとそれへの国家の関与を具体的に示す貴重な史料である。

ここでは、まずこの資料の残存形態について簡単に示し、ついで、既に先行研究のある士林総の開村過程について概観した上で、その開拓の過程がさらに次世代の人間に継承され推進されたことをこの文書および同時に収集された若干の史料に基づいて明らかにすることを通して、阮朝の社会把握・統制のための文書行政が実際に末端まで行き届いていたことを確認し、村方の申請文書の史料的重要性を示したい。

この資料は、嗣徳17年(1864)に提案され、嗣徳35年(1880)に実現する新村設立に関わる複数の申請書の村方控えや写しを綴じたものであるが、破損、錯簡、重複などの混乱が見られる。ほぼ十全の内容をうかがうことが出来る文書は4種である。それらを綴じられた順で見てゆくと、まず嗣徳35年12月15日の丁簿・田簿の承認申請(印の押された村方控えと下書き(の写し?)と布政使司による承認の署名の写しが原型とは違う形で出鱈目に並べられているようである。後述)、いくつかの文書の残簡をはさんで、嗣徳33年3月12日の開墾・新村設立の再申請、嗣徳17年10月3日の開墾・新村設立申請、嗣徳33年8月24日の営田使衛による合同実地調査報告文書である。

士林総の開拓・開村については、グエン・ヴァン・カインとファン・ダイ・ゾアンの研究がある [Nguyễn Văn Khánh & Phan Đại Doãn 1992] [嶋尾 2003]。この研究によると、その開拓のプロセスは次のようであった。

1852年に知識人=官僚である范文誼の主唱により、ダイ河とニンコ河の堆積によって新たに作られた土地の開拓が始められた。彼は、地方官を歴任したのち、帰郷して学校を開いて教育活動に従事したり、学官(南定督学)として科挙受験生を指導したりした。また、フランスの侵略に際して、義勇軍を募って抵抗したことでも知られる。彼の開墾事業の呼びかけに応じて、彼の親族や彼の教えを受けて科挙合格者や官吏となった弟子たちが資金を提供した。真寧県を中心に、近隣各県(務本、大安、南真)の貧民92人が開墾に参加した。防潮堤を建設し土地の塩分を抜く作業を経て、5年後の1857年に初めて収穫が得られたが、そのときの開墾面積は、1300畝であった。このうち、200畝を公田公土とし、832畝を出資した16人の官員に分配し、268畝を開墾者に分配した。その後、1868年に第二の防潮堤を建設し、さらに開墾の前線は400メートル前進し、400畝が得られた。これは公田とされた。

士会寨の開拓は、士林総設立後、士林総から海に向かって前進してゆく土地に目をつけた真寧県の人が出したものである。上述のとおり、真寧県の住民が士林総の開拓に多く参加しているので、堆積地の拡大などの情報を耳にしていたのであろう。士林総に帰属する下位単位として開墾が行われたが、親村から分岐したというわけではないので、正確に言えば分村ではない。この新村の開拓過程を、今回収集した文書に基づいて検討する。

嗣徳17年(1864)10月3日に南定省春長府真寧県延興下総揆堤社の楊文禄と揆壹寨杜如圭が提出した開墾申請の写しが残されている。この文書によると、楊文禄と杜如圭は、召募した34人の人丁とともに、士林総に隣接した沿海地帯に堆積によって新たに形成された湿地2箇所1100畝を開墾すること、士会邑を建てることを願い出ている。

しかし、この計画は順調には進まなかった。嗣徳33年(1878)3月13日に同じく南定

省春長府真寧県延興下総揆堤社の陳文善、楊文裕、杜如栢らの提出した開墾・新村設立申請によれば、楊文裕らの申請を受けて営田衛が実地確認をしている間に楊文裕が他界してしまい、召募した人丁の多く漂散、杜如圭が一人で事業を推進するのは困難な状況に陥った。そこへ、士林総の人々が開墾面積を拡大してきたので、最初の開墾計画は放棄されることになった。ここで士林の開墾として言及されているのは、[Nguyễn Văn Khánh & Phan Đại Doãn 1992]が述べている 1868 年の開拓のことであろう。この同じ年、嗣徳 23 年 (1868) に、揆堤社の人々は別の開墾計画を提起する。この時、堆積地はさらに海側に前進しており、新たな湿地約 600 畝がその対象となった。杜如圭は開墾のトップ・リーダーの座を陳文善に譲り、陳文善が「管募」として、人丁 21 人を動員して開墾を行い、土会寨を建てることを申請した。このときも認証の手続きが「有事」(74 年のフランスの軍事行動であろう)で滞り、さらに杜如圭が他界したためにまた沙汰止みとなった。1878 年に至って、陳文善に加えて、故楊文裕の子楊文裕、杜如圭の子杜如栢、そして武廷獲が中心になり、最初の計画と二回目の計画の参加者のうち 22 名を動員して、再度、二回目の開墾計画を再開することになった。

この申請を受けて、営田使衛が関係者を一堂に会して実地調査を行った。嗣徳 33 年 (1878) 8 月 24 日に出された、その報告の写しもこの史料には添付されている。この文書の署名は以下のとおりである。

陳文善記  
楊文裕記  
杜如栢記  
義興府知府陶仲統 義興府印  
営田衛正玖品黃文車 木篆  
営田衛未入流書吏 陳文美 木篆  
義興府未入流書吏 阮文本 (破れ)  
士林寨里長 范文籍 木篆  
書田寨里長 范文計 木篆  
士林總該總 陳文義 木篆  
副總 杜如山記

営田衛の役人の調査に、申請者だけでなく、士林総および士林総に属し開墾予定地に隣接する士林寨・書田寨の長も立ち会っている。これらの人々による調査を知府が承認するという手続きを経ていることが知られる。実地調査では、開墾予定地の面積・隣接地が確認され、隣接地との境界に二基の「木碣」が建てられた。開墾予定地は「内水升深」によって 2 種に分類された。3、4 尺に至る土地が 250 畝、5、6 尺に至る土地が 444 畝 7 高 5 尺であった。

そして、嗣徳 35 年 (1880) 12 月 15 日に土地・人丁登記の申請が、南定省の布政使に提出された。この文書は、申請書、添付書類 (丁田簿)、布政使の認可の署名の三つの部分からなるが、微妙に内容を異にする 2 種類のもが含まれており、かつかなり混乱した順序で綴じられている。一種類には印が押してあるので、こちらが正規の村方控えではないかと思われる。文面の若干異なる印の無い方は、下書きではないかと推測するが、なぜ下書きが保存され、しかも認可の署名の写しまで付されているのかという疑念は残る。ここではとりあえず、印のある方の文書に従って記述を進めたい。この文書によれば、営田衛の合同調査のあと、この件は上奏され、中央の裁可を受け、丁田簿を作成するよう指示が下った。これを受けて丁田簿を作成して布政使に提出し、その認可を受けようとしたのが、この文書である。布政使の証文の部分は以下のとおりである。

布政使司  
通判尊室 = \*承閱 木篆 \*清の右横に見  
經歷裴集承攷 木篆  
正捌品阮嘉禎承此 木篆  
正玖品阮廷厚承此 木篆  
未入流書吏阮珏承究 木篆

布政使司布政使童覈寔 木篆

添付された丁簿は極めて貴重なものである。地簿については、第一国家資料保存センターや漢文チューノム研究所に大量に保存されているが、丁簿については、そのようなまとまったコレクションが知られていないし、現物があまり残っていないようである。いくつかの興味深い点を挙げておこう。まず記述の形式であるが、最初の行を試みに挙げると以下のとおりである。

名善陳文善 年庚壬辰五拾壹歳

姓名、生年・年齢の情報が得られる。姓名については、まず冒頭に名を記していることが注目される。日常生活で姓より名を常用するベトナムの習慣によるものであろう。ちなみに、壮項 26 人のうち年齢のところが破れて見えない一名を除いた平均年齢(数え)が 27.56 歳(陳文善を除くと 26.58 歳)、50 代が一人、30 代が 3 人で、残りはみな 20 代である。また、注記によると、陳文善に動員された人々はすべて、揆堤社と大堤邑の外籍民である。里長に選出された陳元亨もそうである。

このムラに残る阮朝の公文は以上であるが、このほかにも村方文書に開拓の過程を記したのものがある。開村から四半世紀を経た成泰 18 年(1906) 1 月 20 日に「義興府大安県士林総士会寨良甲兄次里役全甲等」が、開墾・開村に参加した各族の祖先を記念するために毎年春に祭祀を行うことを決めた。そのことを記した文書も、上の公文と同じ場所で収集した。この文書に署名している「耆老陳曰盛」の名は、上述の丁簿の中にも見える。すなわち、開村の当事者も加わって作成されたものである。ところが、その歴史認識には、公文に記されたものとは少しく相違が見られる。この文書によると、士会寨の設立の経緯は次のとおりである。「嗣徳 22 年(ママ)」に楊文祿が開墾を計画したが、頓挫した。その後、嗣徳 30 年代になって、「揆堤社秀才陳文徳(ママ)」と揆一社旧正総陳玉珞が人丁を招募して士会寨を建てた。また、祭祀すべき草分けとして具体名の記されている人の位牌名を挙げると以下のとおりである。

揆堤社前庚戌・丁卯科二科秀才陳貴公字文徳府君  
揆堤社一場杜仲柄府君神位  
士會寨里長陳元和府君神位  
士會寨副里長范世玩諱 = 府君神位

また、維新 2 年(1908 年)に定められた村の規約の条文(この祭祀について規定)でも、「前揆堤社庚戌・丁卯科二科秀才陳貴公」が各族(陳族、楊族、范族、吳族、杜族)先哲を率いて開墾を行い、士会寨を建てたと端的に記されている。

原則的には、事実の記述としては、同時代史料である公文のほうが、信頼性が高いとみてよからう(それが偽文書でなければ)。特に初期の挫折した計画については、後の村人が既に正確に記憶していなかったとしても不思議はない。しかし、開墾の主導者の名前が違っているのはどうしたことか。陳文善と陳文徳、なにか似た雰囲気の名前であるが、もちろん同じではない。位牌に記された名前のうち、范世玩の名は丁簿の中にも見られる。里長の名は、公文では陳文亨、位牌では陳文和。一つの可能性としては、名前が二つあったということが考えられる。阮朝期のベトナム人が名前を変えることは、『国朝郷科録』など

でも見られるところである。位牌の記述で「范世玩諱＝」（残念ながら字が読めない）とあることから、少なくとも、この人物が二つの名を持つことは知られる。もし、この推測が正しいとすれば、揆堤社一場杜仲柄は、開墾の主唱者の一人杜如栢の別名かもしれない。困惑するのは、揆一社旧正総陳玉珖なる人物のことである。この人物のことは公文史料には一切記されていないし、この時点での草分け祭祀の対象にもなっていない！これは謎のままである。

村方で作られた史料では、開墾のトップ・リーダーが「二科秀才」であることが強調されている。また、もう一人のリーダーが科挙の「一場」合格であることも知られる。このようなリーダーの「学位」に関わる情報は、公文では得られない。阮朝期の村落社会において、科挙の最下級段階の「学位」を持つ人たちが、重要な役割を果たしたこと、開墾にも強い関心を向けていたことはすでに知られている。この村の「親村」の場合も知識人たちが開墾を先導し、その名も「士林」と冠した。そして、この村も「士会」と名づけられた。この村の開拓を「科挙エリート」が指導したことは、十分ありうることである。

草分け一族として、村で編まれた文書は、呉族の名前を挙げる。少なくとも丁簿には、呉という姓は見られない。後に加わったのであろう呉族の祖先を村の祭祀に加えること自体は自然なことであるが、歴史記述としては正しくない。

以上のことは、ある出来事から比較的遠くない時期に記された現地の史料であっても、うかつに使用してはならないことを示唆している。また、公文史料の重要性と限界を認識させてくれる。

#### <引用文献>

Nguyễn Văn Khánh & Phan Đại Doãn. 1992. “Công cuộc khẩn hoang thành lập tổng Sĩ Lâm (Hà Nam Ninh) từ giữa thế kỷ XIX đến đầu thế kỷ XX.” Viện Sử học. *Nông dân và nông thôn Việt Nam thời cận đại*, tập 2. Hà Nội.

嶋尾稔. 2003. 「紅河デルタ沿海部開拓史研究の概要」. 春山成子（編）『紅河デルタの環境変動と環境評価』平成 12-14 年度文部省科学研究費（基盤研究（一）（B））研究成果報告書.

## 考課関係の文書（史料番号 1-19）

嶋尾 稔

今回の調査に先行する北部ベトナム村落の地方文書調査として、松尾信之（名古屋商科大学教授）を代表とする研究プロジェクト（科研費、国際調査）が2002～2004年度に実施されている。今回の調査とはメンバーも重複し、連続的なプロジェクトと言える。このときの調査において初めて、村方に残る阮朝期の公文の重要性に着目することになったわけがあるが、その史料についてまだ紹介がなされていないので、ここに合せて簡単に検討しておきたい。この史料は、2004年12月31日に、ナムディン省ヴバン県ダイタン社ディンフオン村（thôn Định Hương, xã Đại Thắng, huyện Vụ Bản, tỉnh Nam Định）のド（杜）氏の祠堂で収集したものである。

阮朝ベトナムの科挙制度において、科挙に先立つ学力試験として年二回（仲春・中秋）に課が実施されたこと、その合格者は兵徭免除（一年ないし半年）が許されたこと、その前身となる制度として阮氏政権下で饒学試が行われたことは周知のとおりである〔竹田1972〕。これらの史料は、その制度施行の実態について具体的に教えてくれるものである。

収集地は、阮朝期には南定省天長府南真県時邁社であった。『国朝郷科録』によると、時邁社はこの時期には举人以上の合格者を一人も輩出していない。それでは科挙試験に全く無関心であったかということそうではない。この史料によると、杜族のみで1810年代から20年代にかけて、5人の科挙受験者がいたことが知られる。

収集史料には、4種類の関連文書が含まれている。

- ① 考課の合格者による兵徭免除願い、
- ② 考課の合格者による社の受験者リスト（試簿）への登録願い
- ③ 受験者による申込書
- ④ 村内の兵徭免除対象者（科挙の一場・二場合格者等）の通知文書である。

①から③の申請書式について検討しておきたい。

まず、①のタイプである。一例を挙げる。

天長府南真縣時邁社杜輝攬

申

計

一由茲年秋仲考課、愚幸預中格、敢乞

本鎮學官批付文憑、候領○鎮章、准免搜另半年、得  
便從學、茲

申

嘉隆十七年八月十肆日○申

杜光攬【年庚二十四歳／旧饒學】記指

この種類のもものが8点残されている。年次は、嘉隆10年、嘉隆11年、嘉隆12年（2点）、嘉隆17年（3点）、嘉隆18年である。基本的には同じスタイルであるが、若干の相違も見られる。嘉隆11年と嘉隆12年のものは、「考課」とあるところが、「考饒学」と記されている。内容的には、いずれも同様で、考課に合格した者が、学業専念のために兵徭免除の認可を与えるように学官に申請するものである。「搜另」とあるところは、ベトナム語の



suru lính という語をチューノムで表記している。意味は徭役・兵役である。この申請書に対して、学官は書き込みによって裁可した。その書き込みは、「奉准免搜另半年」「山南下鎮督学〇〇伯・助教××男批付」という定型句であった。中央の規定では、半年ないし一年の免除ということであったが、この地では半年に決まっていたようである。名前の後に「旧饒学」とあるが、これは、この人物が、1813年の科挙一場に合格して、「饒学（兵徭免除）」2年の特権を得たことがあることを示している。そのことは④の通知文書から知られる。この年にはこの村では2名が「預中一場」を果たしている。ちなみに、この人物が④のタイプの文書にも現れるが、その記述から1819年にまた一場に合格していることが知られる。

②のタイプは次のようなスタイルである。

天長府南眞縣時邁社杜文表

申

計

一由茲期考課、愚幸預中、敢乞

本鎮督學官、給許文批壹道、得便回呈社長、著入試簿、茲

申

明命二年五月十柒日〇申

杜文表【南眞縣時邁社／年庚二十一歳】記

この種類の文書は、同年同月同日のものが3点あり、個人情報を除いていずれも同じ文面である。内容は、考課に合格した者が、社の受験者リスト（「試簿」）に登録してもらうために、督学に合格証明の発給を求めたものである。証明書の提出先は社長である。これに対して、この文書に「奉許社長著入試簿」という印を押すことで証明がなされた。まず、1807年の郷試法に「応試士人、先期所在社長著簿」とあるとおり（*DNTLCB.I.q.32,11b-12b*）、受験者リストに士人を登録する権限が社長に与えられていることを確認できる。1807年の規定では、受験資格として受験を許さない場合を記しているが、受験に必要とされる条件は示していない。課士法の諸規定を検討した竹田龍児も、課士法は、科挙受験資格とは関係ない単なる学力試験であると位置づけている〔竹田 1972〕。しかし、この文書の文面を見る限りでは、少なくともこの時期においては社長による受験リストへの登録に当たって、考課合格が条件となっている考えた方が自然であろう。もちろん、本当は不要なのに、覚えをめでたくするために考課合格証明を添付する風習がこの地方であったという可能性を完全否定はできないが、その蓋然性は低いように思える。

ただし、明命6年（1825）に科挙制度の抜本的改革が行われ（合格者の名称変更【郷貢⇒举人、生徒⇒秀才】、採点方法の変更、一場・二場合格の廃止）、本試験前の予備試験である考覈の規定が整備されているので（「凡試期、応試士人、由所在訓導等考覈」）（*DNTLCB.II.q.35.7a-11a*）、この時点で受験資格としての考課の位置づけが変わった可能性を今後検討する必要がある。実際、この年に、考課の実施時期が仲春・仲冬から夏冬孟月十五日に変更になり、また、1828年には、従来一場・二場合格で兵徭免除特権を得ていたレベルの人たちがその恩恵を受けられなくなったことを受けて、科挙不合格者が科挙試験後最初に行われる考課から受験できるように規定が改められている〔竹田 1972:10-11〕。しかし、社の試簿登録の条件という位置づけに変更があったか否かは知られていない。さらに嗣徳3年（1850）に再び採点方法が元に戻り、一場・二場合格が復活する（『国朝郷科録』）など、阮朝期の科挙制度はめまぐるしく変わるので、この問題も慎重に再検討する必要がある。

③のタイプについてもまず例を挙げよう。

申

計

一承納試場肆卷、乞領来跡爲憑、茲

申

明命二年八月十式日 申

【由五月期課中】

杜輝攬【南眞縣時邁社／年庚二十七歳】記

この種類のものも、同年同月同日のものが4点ある。個人情報を除けば、すべて同じ文面である。1点を除いて、②とセットである。考課合格後、社の試簿に登録してもらい、それから、受験申請をするという順序であったと考えられる。ここでも「由五月期課中」という注記があることからして、やはり考課合格が科挙受験の資格であったことは間違いあるまい。②とセットになっていないものには、「由己卯科壹場」という注記がある。前の試験で一場に合格している場合は、考課に合格する必要は無かったようである。文意は、試験場に解答用紙4巻を納付するので受け取りを送られたしとの意かと思うが、『大南会典事例』などで法令の確認をする必要がある。

この一連の史料は、科挙制度について新たな知見を与えてくれるものである。明命年間初期においては、考課が科挙試験と無縁の学力試験ではなく、科挙受験の前提となっていることなどは重要な発見である。しかし、解明されたことより、むしろ今後明らかにすべき課題が多々見えてきたという感が強い。ここで検討した時期に限っても、たとえば、嘉隆期に②、③のタイプの文書がなくて、明命初期に①のタイプの文書が無いのは、制度が変わったからなのか、単に残らなかっただけなのか等々疑問は残る。同類の文書のさらなる収集が望まれる。

#### 【引用文献】

竹田龍児. 1972. 「阮朝科挙制度の一考察：饒学試法と課士法を中心として」『東方学会創立十五周年記念東方学会論集』

竹田龍児. 1964. 「安南科挙制度小考：覈について」『史学』 37-1

## 仏領期の資料

松尾 信之

ここでは仏領期資料の形式面を中心に、以下の2点を検討する。

- a. 阮朝期からの連続性と変化
- b. ハノイの第1国家公文書センター (trung tam luu tru quoc gia I) 所蔵の公文書との比較。同公文書センターには、仏領期において、支配機構と村落社会との間で送受信された公文書のうち、フランス側、すなわち各省の理事 (residence、公使) 以上、のもとに残されたものが所蔵されており、量的には膨大である。それらと比較した、対象資料の意義を述べたい。

収集しえた仏領期の資料は、陳文各、阮廷慶、頼文紀の3人の人事関係書類である。偶然にもこれらを合わせると年代的には嗣徳期から保大初期まで、ほぼ連続しており、この間の連続性または変化を見ることができる。以下では、各人別に資料を紹介する。

## 1. 陳文各の資料

史料番号 61 から 78 である。リストにある通り、年代は嗣徳 15 (1862) 年から成泰 15 (1903) 年にわたり、すなわち仏領期以前のものも含むが、基本的には同一人物の人事に関する一まとまりの資料であるため、ここではその全てを扱う。収集地は現在の、chua Thanh Lien, th. Lam Cau, x. Nhan Thinh, h. Ly Nhan, t. Ha Nam であり、資料中に陳文各の貫として出てくる、里仁府南昌県潼水総藍楸社にあたる。

陳文各は嗣徳 8 (1855) 年から 30 年以上にわたって従軍した (史料番号 66)。この間の河内水衛における、嗣徳 15 (1862) 年の伍長から (史料番号 68)、同慶乙酉 (1885) 年の正隊まで (史料番号 75) の数次の昇進、そして同慶 3 (1888) 年の引退 (史料番号 66) や、その後、息子の陳文臺が員子登録申請する (史料番号 78) までの過程がほぼたどれ、興味深い。なお同じく南昌県ではあるが別の総の阮文甌の辞令 (史料番号 72) が、なぜかまぎれている。

本資料においては仏領期のものも、文書形式の面では、阮朝期のものと変化が見られない。ただ (史料番号 78) において、印紙が貼られ、里長の署名・捺印があるのは、仏領期の特色である。仏領期初めまで、阮朝期の漢文公文書制度が、ほぼそのまま残って、地方社会で通用していたこと、すなわち阮朝期の地方統治機構が、実権はともかく形式上は残存し、それなりに機能していたことを示す資料群である。

この史料番号 78 や、史料番号 64、史料番号 65 の文書形式は、上に述べた点を除けば阮朝期のものと変化が見られず、すなわちフランス側の統治機構が関与した痕跡が見られない。先に述べたように、上記公文書センターが所蔵する資料は、フランス側の統治機構のもとに残された文書である。したがって実際に上記3文書が、フランス側の統治機構が関与していなかった文書だとすれば、これらは現存していることが少ない、貴重な資料であるし、またこの時期 (成泰期)、フランス側の統治機構が関与しなかった領域における阮朝側の地方統治機構の活動を示すといえ、内容面でも重要である。

## 2. 阮廷慶の資料

史料番号 39 から 47 である。リストにある通り、年代は成泰元 (1889) 年から維新 9 (1915) 年にわたる。収集地は現在の、x. Gia Van, h. Gia Vien, t. Ninh Binh である。資料中では阮廷慶の貫として、寧平省 (儒関 (分) 府嘉遠県) 威遠総碧山社と書かれている。

本資料は、阮廷慶の総里としての昇進の辞令集である。昇進の経緯は下記。

成泰 2 (1890) 年、里長へ (史料番号 46、45)。  
成泰 4 (1892) 年、試差正総へ (史料番号 44)。  
成泰 13 (1901) 年、正総へ (史料番号 40、41、42)。  
維新 2 (1908) 年、正九品百戸へ賞陞 (史料番号 43、39)。  
維新 9 (1915) 年、従八品百戸へ追予 (史料番号 47)。

本資料においては、フランス側の統治機構が作成または追記した形跡がない文書が 3 通ある (史料番号 46、45、40)。これらについては、上の 1. の末尾に述べたことが当てはまる。またフランス側の統治機構が作成または追記した文書が 6 通あり、それらは以下の 3 種に分類しうる。

a. 巡撫が発信した辞令 1 通 (史料番号 44)

原文書の末尾、漢字で記した年月日の下に、手書きのフランス語で追記。内容は下記。

Ninh Binh, le 14 Juin 1902 (署名地・年月日)

Vu (承認)、

Le Resident (理事官)

判読できず (サイン)

サインを重ねて、ニンビン省理事官府の公印

b. 勅 2 通 (史料番号 41、43)

2 通ともに原文書の末尾、漢字で記した年月日の下に、朱色でスタンプ (朱色の手書き部分は下記で特記) による追記。内容は下記。

BREVET ROYAL (勅任状)

Enregistre a la Residence Superieur

au Tonkin (トンキン理事長官府において登録)

No. (文書番号、手書き) Annee (署名年、手書き)

「統使大臣 (トンキン理事長官)」の漢字印

また史料番号 43 には、上の追記の下に更に、以下の通り黒インクで追記。

一行判読できず

L'adminiatrateur, Chef du 2<sup>e</sup> Bureau (第 2 課課長)

判読できず (サイン)

第 2 課の公印

この左側にはニンビン省理事庁の公印も押され、そこに年月日と文書番号が記入されている。

c. トンキン理事長官が発信した辞令 3 通 (史料番号 42、39、47)

言うまでもなく、フランス側の統治機構が発信した文書であるが、漢文で、しかもそれまでの文書形式を踏襲した形式である点が興味深い。もちろんトンキン理事長官が阮朝皇帝の代理としての権限を有することを反映する。これら 3 通いずれも、原文書の末尾、漢字で記した年月日の下に、手書きもしくは一部スタンプで追記。内容は下記。

Brevet de (辞令の職名)

degre classe (品級)

delivre a (辞令の対象者)

du village d (辞令対象者の居住村)

Huyen d (同じく県)  
Province d (同じく省)  
Enregistre sous le No. (文書番号)  
Hanoi, le (署名地と年月日)  
Le Redident Superieur au Tonkin (トンキン理事長官)

また史料番号 39、47 には、更に追記。上の追記の左に史料番号 39 だとニンビン省理事官府の公印が付され、それに日付と文書番号とが記入されている。また史料番号 47 には、手書きで文書番号、「ニンビン省理事官府」、署名年月日、「理事官」、サインが記入され、理事官公印が付されている。

以上まとめると、文書の基本的な形式の面では、阮朝期のものと、基本的には変化が見られない。このころまで阮朝期の漢文公文書制度が、ほぼそのまま残って、地方社会で通用していたことを示す。

ただ村方に残っている文書に、フランス側統治機構が、ローマ字で追記しているのは興味深い。こうした追記は、上述の公文書センターの文書にはよく見られる。筆者はこれまで、これらの追記について、フランス側の統治機構が、漢文・チューノム文書を受信した場合、その内容の概略のメモと決済印として、すなわちあくまで内部向けに作成したもの、と考えていた。しかしこれらの村方に残る文書にも、それらが残されているのであり、村落社会に発信した文書にも、それらが記入されていたことになる。こうした文書にフランス側の承認の印が必要であり、またそのためには概要が分かっていると承認印を押せない、ということだったのであろう。

### 3. 頼文紀の資料

史料番号 87、86 である。リストにある通り、収集地は現在の、*nha tho ho Lai, x. Nghia Thanh, h. Nghia Hung, t. Nam Dinh* であり、資料中にある南定省（義興府大安県）士林総書田社であろう。これらは 2 通の辞令であり、具体的内容は下記。

啓定 5 (1920) 年、里長へ (史料番号 87)。  
保大 3 (1928) 年、従九品百戸へ賞 (史料番号 86)。

保大 3 (1928) 年のものの形式は、阮朝期のものと変化が見られない。しかし啓定 5 (1920) 年のものは、全く新しい形式である。まず紙が、これまでの手すき紙ではなく、洋紙である。そこに里役を任命する際の基本的な文章が印刷され、固有名詞、年月日などが空欄にされた用紙で、その空欄に記入、捺印されている。用紙の右半分が漢字であり、この部分の文面は、従来の辞令と変わらない。また用紙左半分は、同じ内容がクオックグーで表記されている。発信者として「公使大臣 (すなわち省理事官)」と省総督とが併記され、両者の公印が付されているのも新しい。フランス側と阮朝側とが 1 通の辞令を作成している例は、今回収集した資料には他に無い。

こうした新しい文書形式は、啓定 5 (1920) 年の時点で、阮朝側の統治機構が形骸化、空洞化し、フランス側にほぼ吸収されたことを示すと思われる。保大 3 (1928) 年の辞令が、従来の形式そのままなのは、実際の職務を伴わない、あくまで「賞」だからであろう。

### 4 これら資料の形式面に見られる、仏領期文書の継続性と変化

以上から、筆者が重要と思える点を手短かにまとめておく。

仏領期初めまで、阮朝期の漢文公文書制度が、ほぼそのまま残って、地方社会で通用していた。すなわち阮朝期の地方統治機構が、実権はともかく形式上は残存し、それなりに機能していたことを示す。

また村方に残る資料には、フランス側の統治機構がその作成、発受信に関与していなかった、阮朝側の地方統治機構の文書の可能性があるものがある。こうした文書はこれまで、公文書館を含め、ほとんど存在を確かめることができなかった。それらの収集が、今後、村方で進めば、従来ほとんど明らかにしえなかった、フランス側の統治機構が関与しなかった領域における、阮朝側の地方統治機構の活動を、明らかにしうる可能性がある。

こうした漢文公文書には、フランス側による追記がなされたものがあり、それは公文書館に残る文書と同様である。すなわち村落社会に発信した漢文の文書にも、フランス側統治機構内部で処理された文書にも、それらが記入されていたことになる。こうした追記の性格や、文書の作成・処理過程について、再考する必要がある。

しかし恐らく 1910 年代に新しい文書形式が登場する。これは阮朝側の統治機構が形骸化、空洞化し、フランス側にほぼ吸収されたことを示すと思われる。